

## Ⅲ 研究事業

### 研究事業の全体構想

東洋文庫は、1924年、欧文貴重書1,100点余を含む欧文図書資料からなるモリソン（G. E. Morrison）コレクション、ならびに和漢の貴重古典籍からなる岩崎文庫を中核として、岩崎久彌氏によって、アジアの貴重図書資料に関する民間の研究図書館として創設された。その後90年以上にわたり、一貫してこれらの貴重図書資料を中核とする100万冊に及ぶアジア諸地域の現地語資料を継続的・系統的に収集し、それらのすべてを散逸させることなく保存・管理し、同時に広く世界の研究者ならびに市民に公開することを目的とした事業を進めてきた。

研究事業の長期的な目的は、これらのアジア研究に関する貴重図書資料を保存・管理・公開し、なおかつアジア現地語資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料に基づく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。このような研究事業を280名に及ぶ研究員を擁して推進する類似の民間の研究図書館は国内には存在せず、世界的に見ても稀有な存在であり、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫が世界的に高く評価される理由であると同時に、長年にわたって蓄積されてきた特色ある研究を継続的に推進することは、世界のアジア研究者が切望するところでもある。

### 研究事業の目的

東洋文庫は、この全体構想をさらに効果的に実現するために、これらの基本的な課題を推進する中で、2012年度以来、以下の点に一層重点を置いて、研究事業を推進してきた。

- (1) 2011年3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえ、貴重資料に関する書誌的資料研究をより一層強化し、併せて貴重資料の修復・保管・複製化・電子化という連続した資料保存とその公開をより系統的かつ持続的に推進する。
- (2) 大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究として、東洋文庫のすべての研究班の連携によって構成される「総合アジア圏域研究班」を設置し、主題研究、地域研究、資料研究を連結した「総合アジア圏域研究」を全アジア的視野から推進する研究体制を構築する。



- (3)「総合アジア圏域研究」に伴う資料交流・人的交流・国際交流を一層推進し、電子化などによって研究成果を広く発信し、国際的な発信力を強化する。
- (4) 東洋文庫における資料研究・総合アジア圏域研究・国際交流・国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材を育成する。

特に2016年度より、(1) アジア資料研究データベースの構築（試行期）、(2) 資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進、(3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進、(4) 研究成果の刊行・発信の強化、(5) 若手研究者の育成、という5点の重点事業目標を設定して、研究班によるアジア現地研究・資料調査と収集を基礎に、研究データの保存・管理・公開を一体化した総合的アジア研究データベースの構築を推進すると共に、東洋文庫の刊行物ならびに各種講演会・講習会ならびにミュージアムによる経常的な公開展示などの取り組みを通して、広く内外にその研究成果を発信している。

資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進についていえば、系統のかつ継続的にアジアの各地域に関する現地の原語資料を収集し、それを現地の研究者・研究機関と共同して整理・編集して目録を作成し、世界の研究者の用に供している。特徴的な活動としては、中央アジア研究において、ロシア・サンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー東洋写本研究所との協力関係・信頼関係のもと、中央アジア出土のウイグル文書の編集を共同で行い、20年間にわたり目録の編集を継続して行い、現在はこれをデータベース化してデータの充実に組みつつ内部公開し、外部公開のための協議を行っている。同様に、協力協定機関であるアメリカのハーバード・エンチン研究所や、台湾の中央研究院などとの間で長年にわたって調査協力・国際共同研究・資料交換・人材交流等を行っている。このような研究機関相互の信頼関係に基づいて長期間にわたって継続的に行われる研究活動は、個人や研究グループが短期的に実現できるものではなく、東洋文庫が研究図書館として実施するにふさわしい事業であるといえる。

アジア資料研究データベースの構築についていえば、(1) 資料、(2) 研究(分類・目録・索引など)、(3) 成果、の三者を一体化した総合的アジア研究データベースの作成と、それによる研究データの保存管理、成果の公開発信を目的とするものである。具体的には、アジア各地域の原資料のデジタル化と分析・解説を基礎とし、これに関連する研究情報をメタデータとして付加し、多分野にわたる研究を横断的かつ通時的に検索することが可能な汎用性



の高い総合的研究データベース・システムを構築するべく取り組んでいる。これはアジアに関する基礎資料研究の長い伝統と蓄積を有する東洋文庫だからこそ可能であると同時に、学術団体としての東洋文庫の特徴を十分に体現しうるものと考えている。

## 2018～2020年度の重点事業目標

東洋文庫の基本的な事業を継続的に推進するなかで、2018～2020年度において重点的に取り組む主要な事業項目を以下に掲げる。

- (1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる現地研究機関との共同研究の新展開
- (2) 総合的アジア研究データベースの推進（開発期）
- (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進
- (4) 研究成果の刊行・発信の強化
- (5) 若手研究者の育成

アジア基礎資料研究については、従来の研究班主体の調査研究体制を改め、研究部執行部の主導のもとアジアのすべての地域に跨がる資料の収集、保存、研究、公開が一体化した、東洋文庫の伝統と蓄積を継承・発展させる基礎資料研究の構築に重点を置く。特に、すべての研究班が参画する総合アジア圏域研究班において、アジア各地の資料に用いられた紙に対して新たに導入する精密顕微鏡による精密調査を行い、時代別・地域別の紙質分布データベースを構築することで、資料の研究、保存、公開の各方面に有効活用できる基礎データを蓄積し、東洋文庫の伝統であるアジア資料学をより深化・展開させることを目指す。また、総合的アジア研究データベースの構築は、2018～2020年度においてもっとも重点を置いている項目の一つであり、2015～2017年度の「アジア資料研究データベースの構築」を試行期、今期を開発期に位置づけ、データ収集、システム開発において完成の域に達することを目標としている。

特定奨励費による本研究事業は、基本的には、アジアに関する資料の収集・保存、研究、公開の一体化とそのための効果的な事業運営に特徴がある。具体的には、【資料の収集・保存】研究者による資料（国内外の専門書・和漢洋の古典籍）の収集、多言語に通じた司書による蔵書資料検索データベースの充実、専門家による和漢洋の古典籍の保存・修復、【研究】研究者によるアジア基礎資料研究、研究者によって蓄積された研究データ（研究資源・研究成



果)の保存・活用、若手理系研究者との共同による総合的アジア研究データベースの構築および他機関で作成された資料研究データベースとの連携、すべての研究班による総合アジア圏域研究国際シンポジウムの開催、ハーバード・エンチン研究所、ECAF (European Consortium for Asian Field Study)を始め協定機関との国際連携の強化、【公開】収集した書籍の蔵書・資料検索データベースによる公開、蓄積された研究データの総合的アジア研究データベースによる公開、定期刊行物・オンラインジャーナル・論叢等出版物・機関リポジトリ「ERNEST」(<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp>)による研究成果の発信、内外の研究者による広く一般に向けた東洋学講座の開催、外国人研究者による特別講演会の開催、東洋文庫の蔵書に通曉した学芸員によるミュージアムの企画展示などに対し、研究員・司書・学芸員が一丸となって取り組むことで、アジア研究の総合的研究水準を高めると同時に、東洋学に携わる後進の育成と一般への普及に貢献することを目指す。

## 研究事業の効果

研究事業の効果について、2018～2020年度の重点研究事業である紙料調査を中心に述べる。

### I. アジア基礎資料研究

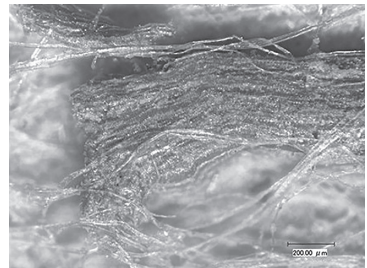
東洋文庫が所蔵するアジア関連の図書・資料は洋書30万冊、和漢書70万冊にのぼり、書写・印刷時期は、洋書は15世紀、和漢書は8世紀を筆頭に、それぞれ現代に及び、書写・印刷地域は、アジアとヨーロッパを中心とした全世界に及んでおり、しかも、そのすべてが原典である。このように広範かつアジアに集中した内外の図書・資料を保管・公開して世界のアジア研究者の用に供し、併せて280名に及ぶ研究員がアジア資料研究に従事する研究図書館は世界に類を見ないといえる。これらの蔵書を維持・管理することは東洋文庫に課せられた使命であり、その記述資料を保存・修復するためには、資料の素材である紙質・紙料の分析が不可欠である。この紙料調査を東洋文庫所蔵資料とアジア諸地域の現地資料館との双方において進めることを、今期3年間の重点事業として計画している。

紙質調査の効果は、諸方面に期待できる。アジア各地の紙の製法・特徴を明らかにすることで、資料に用いられた紙の製造時期・地域が特定できるようになり、ヨーロッパに輸出されたアジアの紙が、印刷された後にアジアにもたらされるなど、紙という文化資源の国際流通の実態や、紙の流通を背景とした書籍流通による知的文化交流の実態が明らかとなる。例えば、古代か



ら楮、三桮（右図を参照）で紙を漉いたアジアに比較して、ヨーロッパではリネンや羊皮紙が用いられ、紙文化の好対照をなしている。東洋文庫所蔵資料は時代的にも空間的にも、世界のアジア関連の書籍資料の全体をカバーしており、紙料の標本と紙質の標準を提示するにふさわしい研究を行う条件が整っている。

三桮（みつまた）



本研究項目は、全研究班が参画する総合アジア圏域研究によるアジア基礎資料研究において、東洋文庫をはじめ国内外の文献資料の研究・保存修復・公開（閲覧・展示）を目的に紙質調査を行い、時代・地域と関連づけた紙質分析データのマトリックスを作成し、国際標準として国内外に発信することを目指している。洋書・和漢書など対象となる資料は膨大かつ多岐にわたることから、紙料データの収集の効率化・充実化を実現するために、最新型の精密顕微鏡（キーエンス デジタルマイクロスコープ VHX7000型）をリース使用して調査を行う。

## Ⅱ．資料収集・整理

資料収集においても、国内の資料館・図書館と連携し、アジア関連紙料の調査及び整理を進めることで、東洋文庫が作成する紙質分析データのマトリックスの一層の充実を図る。また海外の連携研究機関と協力して紙質調査を行い、東西比較に基づく国際的な紙料の分析・分類を行う。同時に、様々な素材・地域で書写・印刷された資料に対して最適の保存・修復方法を検討・実施する。

## Ⅲ．資料研究成果発信

文理融合型アジア資料学研究シリーズとして、これまで開催してきた講習会・講演会・研究会をより幅広い時代・地域を対象に開催し、紙質そのものの歴史的特徴のみならず、同時代における文献・書物の格式と、用いられた紙との関係性を明らかにし、紙料に託された社会的役割を吟味する。また、東洋文庫所蔵資料の紙料をもとに作成された紙質分布データベースが、国際的な標準たり得よう、国内外の資料館と連携して、より一層の充実を図ることも必要不可欠である。

## Ⅳ．普及活動

紙料調査は単なる素材分析にとどまらず、紙の特徴から版本の刊行された



時代・地域・文化的背景を特定することができる。その成果を、講習会や展示会等の普及活動を通して対外的に発信することで、紙料研究の重要性に対する認知度が高まり、紙とアジアの深いつながりに対する社会的な関心を喚起することができる。また、接写用デジタルカメラを使って資料の特徴を簡易的に捉えることもできるため、この方法を対外的に広めることで、アジア諸地域の歴史資料の収集・整理・保存・修復に取り組む資料館や、それらを用いて研究する若手研究者の育成に大きく貢献することができる。

最後に、本年度より開始した「東洋文庫奨励研究員制度」は、若手研究者の育成および雇用促進のための体制を一層充実させるものであり、ひいては、東洋文庫の事業の安定的・継続的な実施を可能にし、かつ東洋学の伝統の継承と発展に大きく寄与するものである。

## 1. アジア基礎資料研究

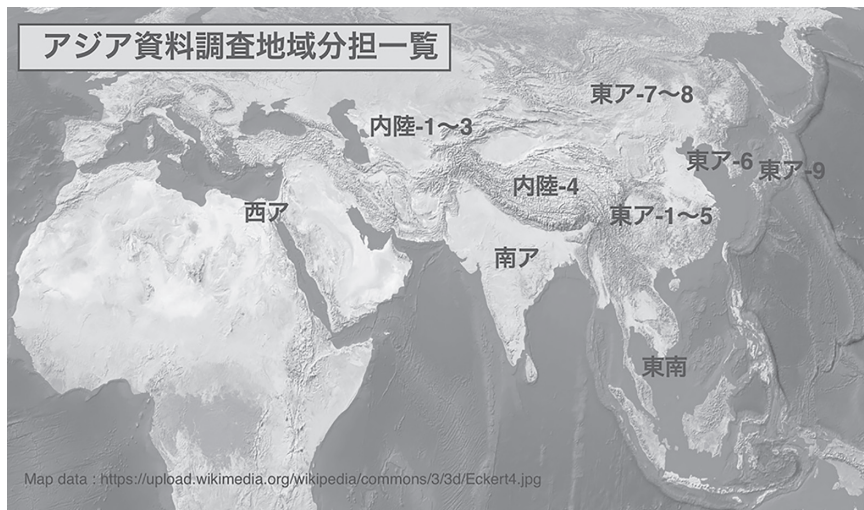
2018年度より、従来のアジア各地域の特徴に沿った研究班・研究グループ主体の調査研究を、研究部執行部の主導のもとに統括され、資料の収集、保存、研究、公開が一体化した、東洋文庫の学問的伝統と蓄積、および国内外の研究ネットワークを継承・発展させる研究体制に改編し、「紙料」調査を中心としてアジア諸地域を横断的に比較総合する「アジア基礎資料研究」に重点を置くこととした。具体的には、研究部執行部が統括する5つの重点事業目標（p.45「2018～2020年度の重点事業目標」を参照）に基づき、西は北アフリカから東は日本までをカバーする全6研究部門13研究班が、20の基礎資料研究テーマ（p.49「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」を参照）を設定して相互に連絡・連携を保ちながら、東洋文庫が収集・所蔵する一次資料の文献学的分析（解題・目録・訳注等の作成）と、それに基づく「紙料」研究を持続的に推進した。これらの研究班・研究グループの諸活動は「総合アジア圏域研究」のもとに連結することで、アジア諸地域の歴史と文化の地域連関と相互影響について、アジア全体を視野に入れた学際的共同研究を推進し、現代アジアの複合的・動態的な把握につとめ、その研究成果を、講演会、刊行物、オンラインジャーナル、研究データベース、ミュージアム展示など多様な方法で発信、公開、普及するべく取り組んだ。



## アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ

部門		研究班	アジア基礎資料研究テーマ	略号
超域アジア		総合アジア圏域	アジア資料学の深化—保存・研究・普及のための文理融合型アジア資料学の展開と研究データベースの構築	—
		現代中国	現代中国の総合的研究（4）	—
		現代イスラーム	近現代イスラーム地域の構造変動	—
			中国古代地域史研究	東ア-1
歴史文化研究	東アジア	前近代中国	東アジアの古代・中世遺跡出土の遺構・遺物の考古学的研究	東ア-2
			中国社会経済・基層社会用語のデータベース化	東ア-3
			宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明	東ア-4
			20世紀前半日本の中国調査研究機関に関する総合的研究	東ア-5
		近代中国	近世の朝鮮で作製された各種記録類についての基礎的・総合的研究	東ア-6
			清代満洲語文書資料及び画像資料等のデータベース化に関する研究	東ア-7
			清代中国諸地域の構造分析：政治・社会経済・民族文化の史的展開	東ア-8
			岩崎文庫貴重書の書誌的研究（4）	東ア-9
	内陸アジア	中央アジア	非漢字諸語出土古文献の研究	内陸-1
			近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動	内陸-2
			日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究	内陸-3
		チベット	チベット語資料の活用とチベット文化の複合的研究	内陸-4
	インド・東南アジア	インド	インド中世・近世における文書史料研究	南ア
		東南アジア	近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究	東南
	西アジア	西アジア	文書資料による比較制度研究	西ア
	資料	東アジア資料	東アジア現地資料の研究	—





## A. 資料調査・研究テーマごとの研究体制

### ○超域アジア研究

#### 〈超域アジア研究部門〉

総合アジア圏域研究班「アジア資料学の深化—保存・研究・普及のための  
文理融合型アジア資料学の展開と研究データベースの構築」

総 括	斯波義信◎
副総括	濱下武志◎、田仲一成◎、平野健一郎◎、會谷佳光◎
現代中国	青山瑠妙、中兼和津次、村田雄二郎、斯波義信◎*
現代イスラーム	粕谷 元、池田美佐子、吉村慎太郎、湯浅 剛
前近代中国	太田幸男、高久健二、斯波義信◎*、山本英史
近代中国	内山雅生
東北アジア	六反田豊、石橋崇雄、細谷良夫、加藤直人、小沼孝博
日 本	深沢眞二
中央アジア	梅村 坦、小松久男、氣賀澤保規
チベット	星 泉
インド	小名康之



東南アジア 弘末雅士  
 西アジア 三浦 徹、高橋英海  
 東アジア資料 斯波義信◎\*、塚原東吾  
 紙料分析 江南和幸、徐 小潔  
 歴史地図 大澤顯浩、高橋公明  
 研究データベース共同研究  
                   會谷佳光◎\*、相原佳之☆  
 (研究補助者) 太田啓子☆、小澤一郎☆  
 (◎は専従者、\*は重複、☆は若手研究者を示す。以下同じ)

現代中国研究班「現代中国の総合的研究 (4)」

総 括 村田雄二郎\*  
 副総括 青山瑠妙\*  
 資 料 斯波義信◎\*、貴志俊彦、新村容子、城山智子、  
           村上 衛、岡本隆司  
 政治・外交 青山瑠妙\*、毛里和子、天兒 慧、興梠一郎、  
           唐 亮、平野 聡、徐 顕芬、森川裕二、松村史紀、  
           平川幸子、神田豊隆、堀内賢志  
 経 済 中兼和津次\*、巖 善平、丸川知雄、寶劔久俊、  
           唐 成、峰 毅  
 国際関係・文化 村田雄二郎\*、中村元哉、平野健一郎◎\*、濱下武志◎\*、  
                   田中明彦、川島 真、貴志俊彦、砂山幸雄、  
                   高田幸男、古田和子、土田哲夫、尾形洋一、  
                   大澤 肇、内田知行、小浜正子、田中 仁、  
                   相原佳之☆\*、加藤恵美、青山治世

現代イスラーム研究班「近現代イスラーム地域の構造変動」

総 括 粕谷 元\*  
 副総括 三浦 徹\*  
 アラブ 池田美佐子\*、長沢栄治、小杉 泰、鈴木恵美、松本 弘、  
           堀井聡江  
 トルコ 粕谷 元\*、大河原知樹、設楽國廣、秋葉 淳、佐々木紳  
 イラン 吉村慎太郎\*、松永泰行、黒田 卓、鈴木 均  
 中央アジア 湯浅 剛\*、小松久男\*、宇山智彦、長縄宣博、地田徹朗



○歴史文化研究

〈東アジア研究部門〉

前近代中国研究班

「中国古代地域史研究」

総括 太田幸男 \*

副総括 窪添慶文

飯尾秀幸、多田狷介、松丸道雄、藤田 忠、榎山 明、  
塩沢裕仁、池田雄一、金子修一、川合 安

「東アジアの古代・中世遺跡出土の遺構・遺物の考古学的研究」

総括 高久健二 \*

副総括 妹尾達彦

清水信行、早乙女雅博、飯島武次、井上和人、小嶋芳孝、  
金沢 陽、菅頭明日香

「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」

総括 斯波義信◎\*

副総括 渡辺紘良

梅原 郁、大澤正昭、徳永洋介、青木 敦、廣瀬紳一、  
石川重雄、土肥祐子、濱島敦俊

「宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明」

総括 山本英史 \*

副総括 鈴木立子

宋代 大澤正昭 \*、青木 敦 \*、小川快之

元代 鈴木立子 \*

明代 鶴見尚弘 \*、岸本美緒、濱島敦俊 \*

明清代 山本英史 \*、寺田浩明、西 英昭、高遠拓児

近代中国研究班「20世紀前半日本の中国調査研究機関に関する総合的研究」

総括 内山雅生 \*

副総括 久保 亨

政治 本庄比佐子、松重充浩、田中比呂志



経 済 久保 亨\*、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、  
吉澤誠一郎、吉田建一郎  
社 会 内山雅生\*、高田幸男\*、佐藤仁史、浅田進史、  
山本 真、瀧下彩子◎

東北アジア研究班

「近世の朝鮮で作製された各種記録類についての基礎的・総合的研究」

総 括 六反田豊\*  
副総括 吉田光男  
糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、森平雅彦、  
山内弘一、山内民博

「清代満洲語文書資料及び画像資料等のデータベース化に関する研究」

総 括 加藤直人\*  
副総括 中見立夫  
満洲語・漢語文献

松村 潤、加藤直人\*、細谷良夫\*、楠木賢道、杉山清彦

満洲語・モンゴル語文献

中見立夫\*、柳澤 明

「清代中国諸地域の構造分析：政治・社会経済・民族文化の史的展開」

総 括 石橋崇雄\*  
副総括 C. A. ダニエルス  
岸本美緒\*、柳澤 明\*、武内房司

日本研究班「岩崎文庫貴重書の書誌的研究（4）」

総 括 深沢眞二\*  
副総括 齋藤真麻理  
石塚晴通、今西祐一郎、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、  
宮崎修多、柳田征司、和田恭幸

〈内陸アジア研究部門〉

中央アジア研究班

「非漢字諸語出土古文献の研究」

総 括 梅村 坦\*



副総括 松井 太  
P. ツィーメ、林 俊雄、妹尾達彦\*、小田壽典、橘堂晃一、  
熊本 裕、森安孝夫、吉田 豊

「近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動」

総 括 小松久男\*  
副総括 長縄宣博\*  
新免 康、濱田正美、堀川 徹、濱本真実、野田 仁

「日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究」

総 括 氣賀澤保規\*  
副総括 片山章雄  
池田 温、土肥義和、妹尾達彦\*、岡野 誠、関尾史郎、  
荒川正晴、石塚晴通\*

チベット研究班「チベット語資料の活用とチベット文化の複合的研究」

総 括	星 泉*
副総括	武内紹人
言語・チベット文学	星 泉*
近現代チベット社会	大川謙作
中央アジア出土チベット語文献	武内紹人*
仏教・ボン教	御牧克己
密教・仏教美術	立川武蔵
仏教思想	川崎信定
歴 史	山口瑞鳳

〈インド・東南アジア研究部門〉

インド研究班「インド中世・近世における文書史料研究」

総 括 小名康之\*  
副総括 石川 寛  
吉水清孝、水野善文、三田昌彦、太田信宏、萩田 博、  
栗山保之

東南アジア研究班「近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究」

総 括 弘末雅士\*  
副総括 嶋尾 稔



牧野元紀◎、坪井祐司、北川香子、飯島明子、山口元樹、  
青山 亨、島田竜登、東條哲郎、工藤裕子

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班「文書資料による比較制度研究」

総 括 三浦 徹 \*

副総括 近藤信彰

ヴェラム文書

佐藤健太郎、吉村武典、亀谷 学、原山隆広◎、三浦 徹 \*

オスマン帝国資料

林佳世子、永田雄三、秋葉 淳 \*、大河原知樹 \*、高松洋一

イラン資料

近藤信彰 \*、守川知子

中央アジア文書

堀川 徹 \*、磯貝健一、矢島洋一

○資料研究

〈資料研究部門〉

東アジア資料研究班「東アジア現地資料の研究」

総 括 斯波義信◎\*

副総括 上田 望、田仲一成◎\*

日 本 浅野秀剛、片桐一男、吉田伸之

中 国 丘山 新、尾崎文昭、片山 剛、佐藤慎一、戸倉英美、  
濱下武志◎\*、馬場英子、末成道男、藤井省三、邵 迎建

朝 鮮 藤本幸夫

内陸アジア 森安孝夫

梅原考古資料 山村義照◎

情 報 廣瀬紳一



## B. アジア基礎資料研究における重点活動方針

### (1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる現地研究機関との共同研究の新展開

担当： 會谷佳光、相原佳之、小澤一郎、太田啓子

東洋文庫は、国内外を通じて、専門の保存修復室を持つ数少ない研究機関の一つである。資料の素材調査の目的とその意義は、東洋文庫における研究活動・閲覧公開・ミュージアム展示などのすべての局面において、日常的に調査を実施し、その成果を蓄積して保存修復に活用することで、東洋文庫が収集した古今東西の貴重資料を永く後世に伝承することにある。さらに、その成果を研究データベース化して広く発信することで、国内外のアジア関係資料を連携して保存修復・研究・伝承することに貢献することが可能となる。すなわち資料の素材調査と研究データベースによる成果発信は一体不可分であり、東洋文庫が研究図書館として取り組む特色ある研究活動の中心をなす課題であるといえる。

東洋文庫では、故藤枝晃京都大学名誉教授による敦煌出土文書の古写本研究を基礎に、藤枝氏の学問を継承する石塚晴通研究員と、理系研究者としての視点から精密顕微鏡による敦煌文書等の紙質分析で成果を上げてきた江南和幸研究員の指導のもと、2012年度以来、東洋文庫の蔵書を使った素材調査をアジア各地域の資料に対して実施する研究を行い、データの蓄積を進め、それらの成果を継続的に公開講座「アジア資料学研究シリーズ」などを通して明らかにしてきた。

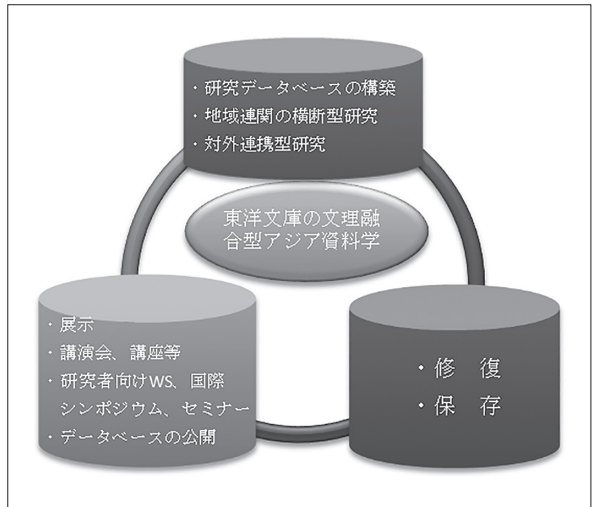
とりわけ強調すべき点は事業遂行のための実施体制の確立である。2018年度からの事業計画の中核をなす紙質研究は、これまで研究者個人の経験と熟練に依拠し、国・地域・言語で分断された従来の書誌学の限界を克服するべく、すべての研究班・研究グループの参加の下にアジア各地域の紙料情報を系統的に調査収集し、東洋文庫所蔵資料の科学的検討に基づいて相互に比較分析しつつ、古今東西のアジア関連資料の紙質につき東洋文庫から発信する総合的な国際的分析標準を作成し、地域文化の表象である紙をめぐる「知識」の交流史研究に資する点に重点を置いている。

以下、各研究班が取り組んだアジア基礎資料研究について報告する。



〔研究実施概要〕

資料のデジタル化公開等による電子図書館の機能を混在させた図書館のハイブリッド化が進む中、資料の現物（書籍・地図・絵画・考古遺物・陶器等）からしか読み取れない情報（紙・墨等の素材や生産された地域・時代等）を分析・研究・蓄積・公開していくことは、アジア・ヨーロッパの様々な時代・地域の資料を所蔵する東洋文庫だからこそ実現可能な研究課題である。



**総合アジア圏域研究**では、紙質調査の一環として、モリソンコレクション『東方見聞録』を調査し、7月7日～8日開催の日本文化財科学学会第35回大会で「東洋文庫モリソンコレクションの最初期『東方見聞録』ヨーロッパ各国語刊本の印刷と紙」というタイトルでポスター発表を行い、9月14日～18日、ウィーンで開催された“EI’Manuscript 2018: 7th International Conference on Textual Heritage and Information Technologies”に参加し、東洋文庫におけるコーディロジー研究について報告した。紙質調査の一般への普及を目的に、国宝『毛詩』をはじめ、13世紀刊行の高麗大藏經、18世紀にトルコで刊行された『世界の鏡』などの紙質調査を行い、その結果を東洋文庫ミュージアムで展示した。今後も書物の文字資料としての側面だけでなく、紙質調査の成果を活用した「モノ」としての書物の紹介に取り組んでいく。

精密顕微鏡の保管体制に万全を期すため、東洋文庫館内に紙質調査用の個室を設置して環境整備を進める一方、若手研究者を中心に、書誌学者・歴史学者・保存修復技術者・情報学専門家からなる紙質調査チーム（次頁の表を参照）を結成し、調査体制を充実させた。また、サンプル調査のための紙譜（紙の素材資料集）、古今東西の古典籍、紙に関する辞書・研究書・図録等の収集に努めた。これを受けて、3月11日に紙質調査チームによる打ち合わせ



を行い、当面の課題や2019年度以降の研究計画について討議した。

役 割	担当者（所属・職名）
総括	會谷 佳光（研究部・主幹研究員）
研究データベース企画立案	相原 佳之（研究部・嘱託研究員）
研究データベース・システム開発	中村 覚（研究協力者、東京大学情報基盤センター学術情報研究部門助教）
調査全般・技術指導	徐 小潔（普及展示部・嘱託研究員）
満洲語文献の調査	多々良圭介（研究部・奨励研究員）
漢籍・洋書の調査	段 宇（研究協力者）
和漢書・洋書の調査	水口 友紀（研究協力者、図書部・保存修復臨時職員）
ちりめん本等の調査	田村 彩子（研究協力者、図書部・保存修復臨時職員）
調査研究顧問	江南 和幸（東洋文庫・研究員）
調査研究顧問	石塚 晴通（東洋文庫・研究員）

5月21日、2018年度第1回地図研究会を開催し、“Political Cartography during the Tokugawa Era Oxford Research Encyclopedia of Asian History”の題目で、杉本史子氏（東京大学史料編纂所教授）に報告いただいた。

**現代中国研究**では、東洋文庫近代中国研究委員会編『明治以降日本人の中国旅行記（解題）』（東洋文庫、1980年）の続補として、東洋文庫所蔵の戦後日本人による中国旅行記（1949～1989年）の目録・解題の作成に着手し、全体の約4分の3まで調査を終えた。資料グループを中心に、東洋文庫所蔵のモリソンコレクションの資料学的・歴史学的研究を通じて、モリソンのコレクション全体、とりわけモリソンパンフレット（清仏、日清、日露戦争から北洋軍閥期に至る中国の政治過程および国際政治・経済・社会動態の詳細記録）を精緻に分析することを目指して、新たに若手研究者を中心に9名のメンバーを迎え、中国におけるモリソンの活動に着目し、宣教師の関係を新たな研究の突破口に設定して共同研究を進めた。

**現代イスラーム研究**では、地域や国別に進展しがちな研究をより深化させるため、画期となる事件や事象を、地域や国を横断する構造変動と連関づけて議論するための研究セミナー「近現代の構造変動」を開催しており、2018年度は、第6回として、3月18日に黛秋津氏（東京大学大学院総合文化研究



科准教授)を講師に迎え、「ヨーロッパ列強のバルカン進出の中の領事館—18世紀後半ドナウ両公国におけるロシア領事館開設問題を中心に」と題する報告を行い、塩谷哲史氏(筑波大学人文社会系助教)がコメントを行った。これによって、バルカンにおける構造変動の諸論点や諸課題に関する認識が共有された。また、「シャリーアと近代：オスマン民法典研究会」はオスマン民法典(メジェッレ)のアラビア語版の1007条までの日本語翻訳・検討を行うとともに、語彙集の作成を並行して進めた。メジェッレ研究の専門家で、神戸大学に客員講師として滞在中の Ahmet KILINÇ 氏 (Assistant Professor, AYBU Faculty of Law, History of Law Lecturer) を招き、第3編(保証)の翻訳に関する討論で、オスマン帝国におけるメジェッレの法制史上での意義について解説していただくなど国際共同研究を推進した。

**東アジア研究**では、前近代中国・近代中国・東北アジア・日本の4研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

前近代中国研究班では、東洋文庫所蔵の豊富な中国地方志資料等を活用して、『水経注疏』巻16の精読を完了し、続いて巻10漳水篇の試読を開始し、かつ研究員5名を派遣して濁漳水・清漳水の現地調査を行うとともに、張家山漢簡『二年律令』津関令の講読とそれに関わる研究発表を行った。研究会には東洋文庫外国人客員研究員として1年間滞在された張新超氏(西南大学歴史文化学院民族学院)も参加され、帰国後も研究情報のやり取りなどの交流を継続したほか、東京学芸大学に留学中の北京師範大学大学院生の参加も受け入れた。また本務校のサバティカルにより1年間上海で在外研究を行った塩沢裕仁研究員が国外の研究者と共同研究を進める上での橋渡し役となった(【東ア-1】。なお、略号については、p.49「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」を参照。以下同)。

朝鮮半島における原三国～三国時代(馬韓・百濟)の集落および山城関連資料について、とくに近年発掘調査が盛んな韓国中部地域の忠清道を中心に発掘調査報告書の収集を行った。また、忠清北道清州市井北洞土城、同松節洞遺跡、同忠州市弾琴台土城の現地調査を行うとともに、忠北大学校博物館で井北洞土城出土品、国立清州博物館で弾琴台土城出土品の資料調査および現地研究者との意見交換を行い、最新出土資料に関する情報を得ることができた。この他、国立中原文化財研究所、清州百済遺物展示館、忠州高句麗碑展示館、忠州博物館、国立中央博物館等で三国時代出土資料を見学した(【東ア-2】)。

研究員大澤正昭氏が代表として採択された科学研究費基盤研究(C)「宋～



明代日用類書の基礎的研究」(2015～18年度)と連携して、明清時代の法制書、日用百科全書、農業書の研究を深めることを目的に、明代の〈日用類書〉『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻22算法門の訳注作成をほぼ完了した(2019年度リポジトリ公開 <http://id.nii.ac.jp/1629/00006739>)。同書巻21商旅門もほぼ訳注作成を終え、原稿の補訂作業に入った。これらの研究成果は、「〈斯波義信先生文化勲章受章記念〉2018年度前期東洋学講座」(p.100)において「中国日用百科全書の世界—商売・算術・裁判」をテーマに、斯波義信・渡辺紘良・大澤正昭の三氏が広く一般に向けて講演した(【東ア-3】)。

近代中国研究班は、戦前・戦中期の日本語資料等を大量に保存する中国の研究機関、特に台湾の中央研究院および中国の国家図書館との共同研究を推進し、国際交流の強化に取り組むとともに、当時の台湾における日本の調査機関について、行政機関のみならず台湾銀行等の民間組織も含めて調査を実施した(【東ア-5】)。

東北アジア研究班では、近世の朝鮮で作製された各種記録類を対象に、東京大学総合図書館所蔵資料の書誌学的調査を行ったほか、韓国に研究員を派遣して現地研究者との情報交換や大学図書館等での文献調査を実施した。データベース化に向けて、既刊『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』(東洋文庫、2004年)および『日本所在近世朝鮮記録類解題』(東洋文庫、2009年)を編集した際の調査データ(電子データと手書きのノート類)の整理を行った(【東ア-6】)。清朝満洲語文書資料、とくに東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔」(鑲紅旗滿洲都統衙門檔案)、及び「鑲白旗檔」(鑲白旗蒙古都統衙門檔案)をはじめとする諸資料に関する研究を行うとともに、吉林師範大学満学研究所との研究交流を積極的に進め、具体的な共同研究について交渉を行った(【東ア-7】)。海外より書写収集した八旗滿洲文史料類のうち、日本に所蔵のない旗地に関わる滿洲文史料『旗地則例』類の読解・検証作業を進めるとともに、東洋文庫所蔵の孤本、清代『壇廟祭祀節次』に対する研究成果をデータベース化するための読解・検証作業を進めた(【東ア-8】)。

内陸アジア研究では、中央アジア・チベットの2研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

中央アジア研究班では、19世紀末～20世紀初頭を中心とする中央アジア探検時代に各国が入手した古文獻を研究資料として活用するための基礎資料研究が世界的に進む中、東洋文庫の所有するロシア科学アカデミー東洋写本研究所在(Institute of Oriental Manuscripts 以下、IOM と略す)所蔵の非漢字古文獻のマイクロフィルムについてカタログ整備を継続し、IOM で開始されたカ



タログ作成と連動しつつ、主にテキスト内容と断片接合情報および研究レファレンスの更新作業を行った（【内陸-1】）。国際テュルク・アカデミー（トルコ系諸国の教育・研究分野での協力・強化を目的に、2010年に発足したカザフスタンの国立機関）との間で学術交流協定を締結し、この協定に基づき、近年の日本における中央ユーラシア史研究の成果（研究書・史料研究などの刊行物）を寄贈し、今後の共同研究のための基盤を整備した。また、7月18日にDavid Brophy氏（シドニー大学上級講師）による特別講演会を実施し（pp.105～106）、12月27日開催の第42回中央ユーラシア研究会では東洋文庫の濱本真実・佐々木紳両研究員が研究報告を行った（【内陸-2】）。また、戦前来、日本国内の諸機関や個人に所蔵される敦煌・吐魯番文書類に関する所蔵状況や内容の系統的な把握・集約を進めるとともに、大蔵官僚も務めた濱田徳海（1899～1958）が戦中戦後にかけて私財を投じて購入した敦煌関係文書コレクション180点余の全容の把握に努めた。本コレクションは、濱田氏の死後、一部分が国立国会図書館に購入されたが、未購入に終わった残りの大部分が近年中国に流出してしまった。東洋文庫は濱田氏の没後まもなく本コレクションの扱いと整理に関与した経緯もあることから整理・考察に取り組み、5月18日開催の内陸アジア古文献研究会で成果報告を行い、その研究成果を2019年度に刊行する計画を立てた。また、長年敦煌文書の研究に従事してきた土肥義和研究員が残された膨大な文書整理ノートが2017年度に寄託されたことを受け、貴重な研究資源を死蔵させることなく保存・管理・利活用するため、その全容把握とデータベース化を進めた。研究活動の拠点として開催している内陸アジア古文献研究会では、全9回のうち第7・8回を来日中の外国人研究者による特別講演会として（pp.106～107）、第9回を内陸アジア古文献研究会の春季大会として実施した（p.105）（【内陸-3】）。

チベット研究班では、チベットの歴史、言語、宗教（仏教・ボン教）、社会に関する一次資料の基礎研究として、ウパロセル編纂『大蔵経テンギユル目録』、トゥカン著『西藏仏教宗義』、中央アジア出土チベット語文献、シャン・タンサクバ著『中観明句論註釈』を研究した。このうち『大蔵経テンギユル目録』については、御牧克己研究員、宮崎泉氏（京都大学教授）、オルナ・アルモギ氏（ハンプルク大学研究員）が国際共同研究を進め、成果の刊行準備を進めたほか、『西藏仏教宗義』第11巻、『中観明句論註釈』第3巻の刊行準備を行った（【内陸-4】）。

インド・東南アジア研究では、インド・東南アジアの2研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。



インド研究班では、12～16世紀北インドのヒンドゥー王権の銅板文書を中心とした史料研究、近世ムガル帝国の史料目録作成の一環としての公文書の研究、南インド10～16世紀のヒンドゥー王権の公文書（碑文・銅板文書）を中心とした史料研究を行うとともに、研究員各自がそれぞれの研究分野にかかわる文献目録の作成に取り組んだ。南インドに研究員を派遣して史料の収集を行うとともに、現地の研究者と交流して近年の研究動向に関する情報を収集した。また、東洋文庫所蔵文献にかかわる研究成果を一般に普及することを目的に、「インドの叡智展」（会期：2019年1月30日～5月19日）の企画準備に協力した（【南ア】）。

東南アジア研究班では、近世の東南アジアと周辺世界との関係について理解を深めるため、17世紀末から18世紀前半に東南アジアを訪れたイギリス人私貿易商人 Alexander Hamilton の旅行記 *A New Account of the East Indies*, 2 vols, edited with Introduction and Notes by William Foster (London, 1930) に着目し、Foster の Introduction と Hamilton の東南アジアをめぐる記述（アラカン～ボルネオ：vol. 2, pp. 15–63）を輪読した。その記述の内容と特質を検討しつつ、当該地域をめぐる他の文献史料と比較するとともに、Hamilton の訪れた場所とその時期、そこで起こった事柄、その地域の特質、交易品、当該地域をめぐる他の文献などを記録したデータシートを作成した。2018年度までの活動を踏まえ、2019年度に Toyo Bunko Research Library (TBRL) として *The Development of Urban Society in Southeast Asia from Historical Perspectives* のタイトルで、研究成果を英文で出版するべく準備を進めた。また前近代の都市の役割を検討するための重要な資料となる、東洋文庫所蔵の故仲田浩三氏収集にかかわる東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料の整理を進めた。その目録『東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料』を2019年度に出版するべく準備を進めた（【東南】）。

西アジア研究では、2015年購入のヴェラム文書（モロッコの皮紙契約文書）11点のうちフェスで作成された7文書について、アラビア語文書のテキスト校訂および概要作成を終了した。ヴェラム文書研究第1期8点と関連する文書もあり、契約文書の作成プロセスや保管・利用とともに、不動産（農園など）の相続や経営のあり方についての検討を進めた。2017年12月にモロッコ（ラバト）においてアラビア語で発表したヴェラム文書研究第1期の成果をまとめた5本の論文がモロッコ刊行の電子ジャーナル *Ribat Al Koutoub* に掲載された (<https://ribataalkoutoub.com/?p=2953>)。2019年度にヴェラム文書研究の第2期として、上記のフェス関係7文書について、アラビア語テキストの校訂



と英文による解説・研究を内容とする研究書 *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries : Part II* を刊行するべく準備を進めた。また、これまでの研究成果である *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries : Part I* (TBRL15, 2015) および *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations* (TBRL19, 2018) を東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開し、海外からの関心を呼んでいる (【西ア】)。

**東アジア資料研究**では、台湾の中央研究院歴史語言研究所との交流協定 (2015～2020年度) に基づき、東洋文庫から洋書10,000コマの画像データを提供するのと引き換えに、同研究所から漢籍文献資料庫 (1,185タイトル、約7億字からなるデータベース) の提供を受け、各班の研究活動に多大な裨益を得た。

## (2) 総合的アジア研究データベースの推進 (開発期)

担当： 會谷佳光、相原佳之

全研究班が参画する総合アジア圏域研究では、研究部執行部の研究データベース共同研究担当者が中心となって研究データベースの構築をより一層推進するため、9月20日、研究情報発信検討委員会を開催した。委員会では、研究情報発信検討委員会を改編して、研究データベース会議を発足することが承認され、研究データベースのコンセプト (會谷)、進捗状況 (會谷・相原) について活発な意見交換が行われた。出席者は、東洋文庫研究員9名、外部研究協力者1名であった。今後、年2～3回を目途に研究データベース会議を開催し、東洋文庫の研究員に限定せず、研究班・研究グループの枠組みを超えて、広く研究者、特に若手研究者の参加を歓迎することとした。

研究部の取り組む研究データベースは蔵書資料のデジタル化とは異なり、東洋文庫の研究員・研究班の長年にわたる資料調査・研究活動の研究成果 (論文、著作、索引、訳注、図表など) およびその副産物として収集・作成された研究データ資源を、保存・管理・公開するためのデータベース・システムであり、研究データベース会議を基盤に、中村覚氏 (東京大学情報基盤センター学術情報研究部門助教) と協同してシステム開発、およびデータ収集・整理に取り組んでいる。

研究データベース全体のタイムスケジュールについては、2015～2017年度



## 研究データベース構築のための組織体制

研究部執行部、研究員、  
外部理工系研究者、SE

研究データベース会議

総合アジア圏域研究班

研究データベース共同研究

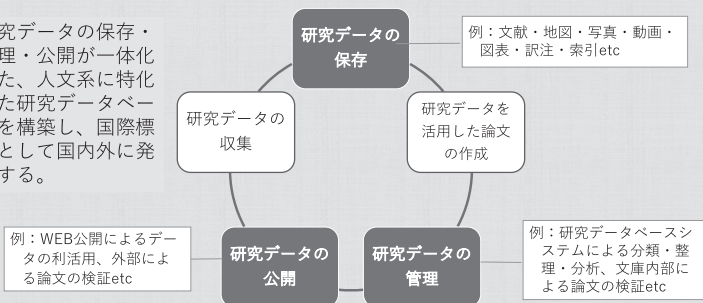
東洋文庫に所属する  
研究者

東洋文庫に所属しない  
研究者

若手研究者の参画と育成

## 総合的アジア研究データベースのコンセプト

研究データの保存・  
管理・公開が一体化  
した、人文系に特化  
した研究データベー  
スを構築し、国際標  
準として国内外に発  
信する。



2015～17 年度  
試行期

2018～20 年度  
開発期

2021 年度～  
発展期

計画立案・システム検討

データ収集・システム開発

データ拡充・システム改修



の試行期を経て、2018～2020年度は、第二段階の「開発期」に位置づけ、研究データベース会議を基盤に研究データベースの開発を進め、共通のフォーマットに基づくプラットフォームを持ち、地域横断的かつ通時代的な汎用性の高い横断検索システムを完成させ、システム開発、およびデータ収集・整理に取り組み、2020年度までの公開を目指している。画像データはIIIF準拠とするなど、国立情報学研究所（NII）、アメリカのハーバード・エンチン研究所等、国内外の関係諸機関との連携も視野に入れる。2021年度以降は、第三段階の「発展期」に位置づけ、各研究データベースのデータの拡充、システムの改修に不断に取り組んでいく。

The screenshot shows the ERNEST website interface. At the top, there is a logo for ERNEST (Toyo Bunko E-Resource Network Storage) and a navigation bar with links like 'トップ' (Top) and 'ランキング' (Ranking). Below the navigation bar, there is a search bar with a '検索' (Search) button. The main content area is divided into several sections. On the left, there is a sidebar with links to 'Language', 'インデックス' (Index), and 'インデックスツリー' (Index Tree). The central part of the page displays a list of resources, with the first item being 'gakuho01\_100-1-cover'. This item has a download count of 31 and a license of 'CC BY-NC-SA'. The right sidebar contains contact information for Toyo Bunko, including a phone number (03-3942-0204), an email address (ernest@toyo-bunko.or.jp), and a list of related links.

従来、東洋文庫の刊行物は随時デジタル化して東洋文庫リポジトリ「ERNEST」にて公開してきたが、新システムへの移行を行った（9月11日公開。https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp）。これはクラウド型の機関リポジトリ環境提供サービス「JAIRO Cloud」を利用したシステムで、旧リポジトリで公開されていた論文等をすべて収録した上で新たに登録を進め、2019年3月末時点での論文等の登録件数は計3,917件に達した。



## 2018年度東洋文庫リポジトリ「ERNEST」利用統計

期 間	検 索	閲 覧	ダウンロード
2018年 9 月	304	976	820
10月	640	2,815	7,016
11月	597	1,972	2,540
12月	7,501	10,284	4,967
2019年 1 月	917	2,930	4,547
2 月	7,990	12,027	5,992
3 月	906	3,044	6,033
合 計	18,855	34,048	31,915

なお、学術情報のオープンアクセス化の活発化と、その受け皿として機関リポジトリの活用が期待されている流れを受け、東洋文庫でも、今後この新リポジトリを、研究員の研究成果やその副産物を登録できる受け皿の一つとして活用しつつ、国立情報学研究所（NII）が構築を目指す「研究データ基盤」の動向を注視しながら、これらを研究データベースと連動させる形で運用していくための検討を開始し、そのためのリポジトリ運用方針の策定に着手した。また東洋学講座等の講演会の情報や動画を登録する講演会アーカイブ（<http://124.33.215.234/lecture>）については、「ERNEST」に統合するべく検討を開始した。

以下、各研究班が取り組んだ研究データベースについて報告する。

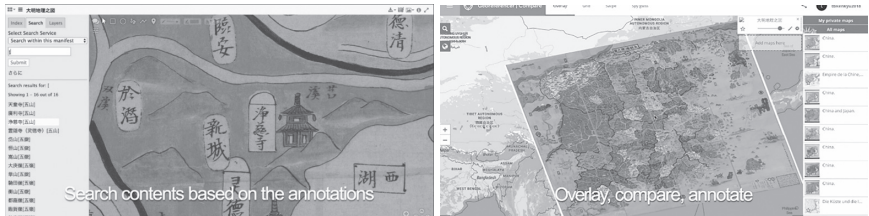
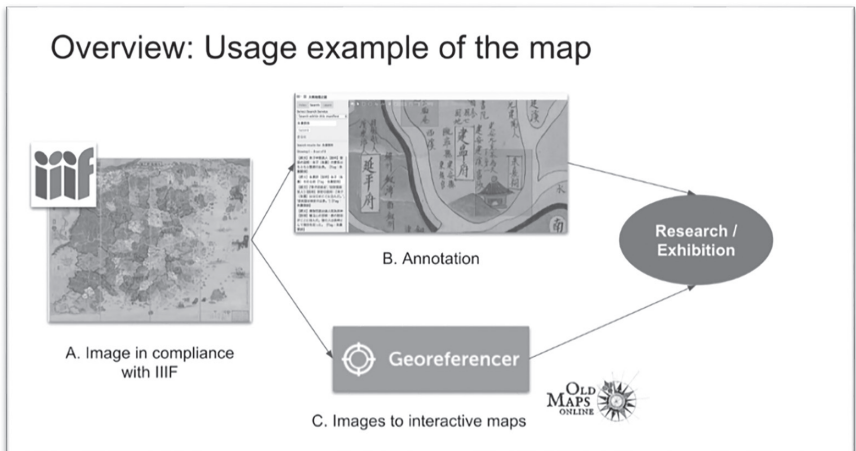
### 〔研究実施概要〕

**総合アジア圏域研究**では、『大明地理之図』4軸（細谷良夫研究員寄贈、江戸時代書写）のデジタル化を実施した。中村覚氏と共同して、この高精細デジタル画像と研究データを連動させた研究データベースのプロトタイプ版を開発し、総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research”において、デモンストレーションを行った（右頁写真を参照）。なお、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」にてデモンストレーションを再現した動画を公開した（右頁）。

“Usage of Digitized *Daimin-chiri-no-zu*（大明地理之図）”

▶ <http://id.nii.ac.jp/1629/00007055>







**現代中国研究**では、東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学図書室所蔵の「片倉衷関係文書」の調査研究チームを立ち上げ、これを近現代日中間関係史研究の資料として一層活用するためにデジタル化を進め、その前半部分の撮影を終え、このデータベースを東洋文庫のサーバーからも利用可能とする方針を決定した。デジタル撮影は2019年度完了の予定。

資料グループでは、東洋文庫の過去の刊行物で、在庫切れとなっており、かつ今後の研究活動で使用するものをデジタル化して東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開した。

*A classified catalogue of pamphlets in foreign languages in the Toyo Bunko*（東洋文庫、1972年）：

▶ [https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_opensearch&index\\_id=1308](https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1308)

**現代イスラーム研究**では、「日本における中東・イスラーム研究文献 DB」のアップデートを継続し、1,100件の新文献を「イスラーム地域研究資料室サイト」に掲載した（総計57,320件 ▶ <http://search.tbias.jp>）。年間のアクセス数については、後掲の「2018年度研究データベース・アクセス数」を参照。また、中東・中央アジアの歴史的に重要な諸法令を翻訳して順次データベース化し、東洋文庫のWEBサイト上で公開する作業の一環として、粕谷元編『トルコにおける議会制の展開』（東洋文庫、2007年）所収のオスマン帝国憲法（1876年）・トルコ共和国憲法（1924年）、ならびに八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳イラン・エジプト・トルコ議会内規』（東洋文庫、2014年）所収のトルコ大国民議会内規（1927年）を必要に応じて改訳するとともに、これらに注釈と解題を付す作業を進めた。また、イラン憲法（1906年基本法と1907年補則）、エジプト憲法（1923年）の新規翻訳・注釈作成作業に着手した。これらの作業のために、グループ別の訳文検討会（イラングループ1回、アラブグループ6回）およびイラン・アラブ・トルコグループ合同の研究会（1回）を開催した。

**東アジア研究**のうち**前近代中国研究班**では、朝鮮半島の前三国時代～三国時代の集落および都城のデータベースの構築に着手し、現地調査を行った忠清北道地域を中心に画像データを含むデータベースの作成を行った（【東ア-2】）。中国史の唐宋から元明清にわたる経済、社会、法制的基層における実態・実相を解明するための基礎作業として、〈時期や事例ごとに特別の意味・用法において用いられる術語・用語の解釈〉に焦点を当てた研究を行った。具体的には、『中国社会経済史用語解』の増補作業の一環として、〈法制篇〉



Iの約1万語に上るデータ入力をほぼ完了し、研究データベース公開に向けての分類、解説文章の補訂等の追加作業を継続した。既存の辞書のほとんどは伝統漢学を解説する工具として編纂されており、中国経済・社会・法制史の研究者が広く日常的に使える用語解はこれまでなかった。東洋文庫は創設以来、中国の社会経済史料を訓読し、公私の制度背景に照らしながら註解を付する《歴代正史食貨志訳注》作成事業を継続しており、本研究ではその蓄積を継承しつつ、対象分野・史料において財政、経済、社会に法制を加え、月例の研究会で訓読・註解を行い、さらに蓄積された用語解の版下原稿を作成する作業を進め、その成果を順次研究データベースとして公開している（【東ア-3】）。また、大島立子編『前近代中国の法と社会 成果と課題』（東洋文庫、2009年）所収の小川快之編「宋—清代法秩序民事法関係文献目録」について、現在までの8年間の関係文献の情報を増補し、これまでの目録情報と併せてデータベース化するための準備を進めた（【東ア-4】）。

近代中国研究班では、東洋文庫所蔵の華中・華南地域に関する戦前・戦中期日本の調査研究機関に関する資料の分析、および機関目録のデータベース化の検討を行った（【東ア-5】）。

東北アジア研究班では、所属研究員が1980年代以降に実施した、中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、ロシア極東等における調査の画像・映像資料等に対して整理・研究を行った。2018年度は、これら中国各地で集積した満族（清朝）関係の画像・映像データ、パンフレット、地図等の資料を、体系的に整理・研究して、データベース構築の初期的な準備作業を実施した。紙質調査を中心とした基礎資料研究の資料として、下記の刊行物をPDF化し、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開した（【東ア-7】）。

『東洋文庫所蔵鑲紅旗檔光緒朝目録』（東洋文庫、2006年）：

▶ <http://id.nii.ac.jp/1629/00006506>

クリスチャン・ダニエルズ研究員が中国雲南省で収集して東洋文庫に寄贈した碑文資料162件について目録整理、碑文の翻字を進めるとともに、未撮影資料6点のデジタル撮影を実施した（【東ア-8】）。

日本研究班は、2018年度刊行の『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅸ』収載資料のうち『暁斎翁筆能画図式』1冊、『寶生太夫勸進能』2軸の全頁カラーデジタル撮影を行った。これらは、今後、東洋文庫のデータベースにて公開する予定である（【東ア-9】）。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班では、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所（IOM）所蔵の非漢字古文獻マイクロフィルムのデータベースの



## 2018年度研究データベース・アクセス数

データベース名	中国経済史用語DB	宋会要輯稿食貨編社会経済用語DB	梅原郁編『唐宋編年語彙索引』DB	新版唐代墓誌所在総合目録（増補版）DB	日本における中東・イスラーム研究文献DB
2018年 4月	10,148	13,851	4,824	4,633	2,134
5月	10,491	14,321	4,990	4,085	2,148
6月	10,032	13,610	4,874	4,433	2,291
7月	10,373	14,068	5,038	4,586	1,880
8月	10,375	14,095	5,055	4,591	1,496
9月	10,045	13,641	4,900	3,452	605
10月	10,489	14,111	5,070	1,568	1,304
11月	10,152	14,658	4,921	1,519	952
12月	10,552	15,227	5,120	1,585	1,674
2019年 1月	10,599	15,434	5,155	1,689	1,026
2月	9,586	13,958	4,672	1,547	584
3月	15,599	21,070	5,183	2,722	697
合 計	128,441	178,044	59,802	36,410	16,791

システム改修・データ整理を進める一方、このデータベースが東洋文庫共同研究室内での利用にのみ限定されている現状を打開するべく、IOM との交渉を進めた。その結果、IOM でカタログ作成に従事する若手研究者との間に連携体制が構築され、東洋文庫と IOM 双方の研究成果を合体させる形でカタログを共同編集して出版する方向で合意形成が進んだ。これによって、これまで東洋文庫内で蓄積されてきた研究成果を、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」上で世界に対して効果的に発信する見通しが立った（【内陸-1】）。

チベット研究班は、東洋文庫所蔵河口慧海請来チベット写本大藏經全111巻のデジタル化を推進し、そのうち『宝積部』全6巻中4巻（全体の第51～54巻に当たる）の画像撮影を行った。また、河口慧海請来チベット語蔵外文献写本の電子テキストを作成して、そのうち2点を Tibetan E-Texts として東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開した（【内陸-4】）。

Tibetan Digital Library :

▶ [https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_opensearch&index\\_id=1140](https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1140)

Tibetan E-Texts :

▶ [https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_opensearch&index\\_id=1175](https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1175)



東アジア資料研究では、梅原考古資料26,000枚につき、年次計画に従って電子化・公開に着手し、第1年次分として梅原考古資料（日本縄文時代の部）1,980枚をデータベース化して登録制で公開した（山村義照研究員担当）。

▶ [http://122.216.204.236/umeharajpnjomon/umejpmn\\_open\\_srchinput.php](http://122.216.204.236/umeharajpnjomon/umejpmn_open_srchinput.php)

また、中国祭祀演劇関係動画（田仲一成研究員撮影）として、広東儀礼21分、徳教儀礼106分、徳江追儺戯308分、安順地戯広東戯378分、莆田目連戯224分、祁陽目連戯350分、関索戯20分、大酬雷23分、合計1,430分（約24時間）を公開し、浙江省木偶戯関係動画（馬場英子研究員撮影）として、白兔記312分（約5時間）を公開した。また、田仲一成研究員が蒐集した中国地方劇録音カセットテープ1,829場面を音声デジタル化して登録制データベースとして公開した。

▶ [http://122.216.204.236/tape\\_hk/tape\\_hk\\_index.php](http://122.216.204.236/tape_hk/tape_hk_index.php)

ユーザ登録済みの方はメールアドレスをこちらへ

[ログイン](#)

[新規登録はこちら](#)

[検索画面へ](#)

梅原考古資料
日本
縄文時代
画像データベース

[ 1954 ]
件見つかりました。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

次の10ページ

		場所					遺跡 & 出土品 種類					記録資料 形態
		県	市 (郡)	町 (村)	遺跡名	補足	遺跡 現場		出土品			
							種 類	内 容	素 材 別 種 類	製品	補足	
1		北海道 地方	室蘭			本輪西 町 富 士製鉄 所構内 遺跡 NJ- 1 1a			土 製 品	土偶	東京国立博 物館所蔵, 1962.3.28 手拓	拓本

(拡大画像は登録ユーザのみ)



### (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進

担当： 會谷佳光、相原佳之、太田啓子

前記 (1)(2) の諸活動によって得られた最新の研究成果を、国際シンポジウム・ワークショップを開催して、広く国際的に発信することで、世界のアジア研究の進展に大きく貢献するべく取り組んだ。その一方で、アジア諸地域の現地研究機関・図書館との学術交流を積極的に推進することで、新たな分野の資料群を探索・収集し、研究図書館としての東洋文庫の一層の充実に取り組んだ。

国際シンポジウムの運営全般、および総合アジア圏域研究班の諸活動に携わって研究活動を補助する人材、および欧文による成果発信を強化するための人材を確保・育成するべく取り組んだ。

また、各研究班の主導により、下記の国際シンポジウム・ワークショップを開催した。

#### [研究実施概要]

**総合アジア圏域研究**では、12月8日・9日の両日、2018年度総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research”（アジア古地図研究：基礎情報と研究の展望）を開催し、2日間で延べ65名が参加した。

ロナルド・トビ氏（イリノイ大学名誉教授。右頁写真）、クリスティーナ・クラメロット氏（フランス国立ギメ東洋美術館主任学芸員）による基調報告をはじめ、高橋公明研究員・大澤顯浩研究員のコーディネートによる2つのセッションを設けて、それぞれ報告者3名、コメンテーター1名を立てて報告・討議を行ったのち、国内外の歴史学者・古地図研究者等との間で活発な議論が行われた。

8日の基調報告の後には、中村覚氏（前出）による『大明地理之図』と最新のIT技術を組み合わせた研究データベースのデモンストレーション、図書部の橋伸子氏・安藤万有子氏によるブラウ『大地図帳』・ヤンソン『新地図帳』の紹介・パネル展示が行われ、大いに報告者・参加者の関心と呼んだ。

当日の配布資料として、*List of place names in two atlases from the Tōyō Bunko collection compiled in the 17th-century Netherlands: Blaeu, Grooten Atlas, 1664–1665, and Janssonius, Novus Atlas Absolutissimus, 1658*（橋伸子編）、国際シンポ





ジウム要旨集（英文）を印刷・配布した。また例年どおりオンラインジャーナル *Modern Asian Studies Review*／新たなアジア研究に向けて vol. 10 ([https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_opensearch&index\\_id=1230](https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1230)) に国際シンポジウムの要旨等を掲載した。当日のプログラムについては、pp.103～105を参照。

**現代中国研究**では、12月1日・2日、華東師範大学（上海）との共催で第7回中国当代史研究ワークショップを開催した。中国からの招聘者7名に加えて日本側の参加者約30名が中華人民共和国史の先端的研究をめぐる討論するとともに、第8回を2019年11月下旬に上海で開催することを確認した。当日のプログラムについては、pp.102～103を参照。

**現代イスラーム研究**では、2019年度にコーディネートを担当する総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Structural Changes of the Islamic Area in the Modern Period: a Comparative Study”（仮）について開催日時、およびイスラーム地域（アラブ・トルコ・イラン・中央アジア）を中心に、中国・日本・東南アジア・南アジア等の研究者から報告者・コメンテーター等を選定することなど概要を検討した。

**内陸アジア研究**では、2020年度にコーディネートを担当する総合アジア圏域研究国際シンポジウムの実施計画策定のため検討を開始した（【内陸-1・3・4】）。

**インド・東南アジア研究**のうち**東南アジア研究班**では、2018・19年度の研究活動の成果を踏まえ、2020年度に東南アジアの研究者も含めた国際シンポジウム開催の可能性について検討した（【東南】）。



#### (4) 研究成果の刊行・発信の強化

担当： 中村威也、小澤一郎

資料調査・研究の検討過程や研究成果、および国際シンポジウム・ワークショップの内容を紙媒体・電子媒体によって発信した。特に国際シンポジウムについては、速報性を重視して、開催年度にオンラインジャーナル Modern Asian Studies Review／新たなアジア研究に向けて ([https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_opensearch&index\\_id=1052](https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1052)) で概要を発信し、翌年度以降に紙媒体で報告論文集を刊行するべく取り組んだ。また、従来の和文・欧文による発信を一層推進するとともに、新たに中国語による発信を加えることで、多言語による研究成果の国際発信力を強化し、資料交流・人的交流・国際交流を一層活発にするべく取り組んだ。

また、出版物の質的向上をはかるため、東洋学の知識と編集校閲技能を兼ね備えた人材を確保・育成し、かつ日本語論文を英訳するネイティブ・スピーカーの協力を得た。

これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなろう。

##### 〔研究実施概要〕

**総合アジア圏域研究**では、日本人による研究成果の国際発信の一環として、岡本隆司編『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念—』（名古屋大学出版会、2014年刊）を全編英訳して、*A World History of Suzerainty: A Modern History of East and West Asia and Translated Concepts* (TBRL20) と題して刊行した。本書は、西洋人が多用した「宗主権」という概念の背後に歴史的な大転換を読み解くことで、東西の多元的な文化圏を統合したオスマン帝国と清朝の「普遍性」の解体を初めて包括的に捉え、現在まで続く世界秩序の形成過程の解明を試みたものである。

**東アジア研究のうち前近代中国研究班**では、『水経注疏訳注 穀水篇』（和文論叢82）、『中国近世法制史料読解ハンドブック』を刊行した。前者は「中国古代地域史研究」グループによる3年間にわたる研究成果であり、研究会に参加する若手研究者が執筆に当たり、研究員が編集に当たった（【東ア-1】）。後者は「宋以後の法令分析を通した中国前近代社会の構造解明」グループが



3年間をかけて執筆・編集を行ったもので、研究員が自身の研究から蓄積してきた知識や技法を駆使して、宋代から民国時代の主要な法制史料を取り上げ、その読み下し、読解、和訳、語法、史料的価値、研究に活用する際の注意点、参考文献などを余すところなくまとめたもので、他に類書はなく、独創的かつ有益な学術成果といえる（【東ア-4】）。

近代中国研究班では、研究成果発表の場として『近代中国研究彙報』第41号を刊行した（【東ア-5】）。

日本研究班では、『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅸ』を刊行した。本書は、『岩崎文庫和漢書目録』（東洋文庫、1932年）のうち「中古文 物語、草子、日記」に分類著録される資料52点、「室町時代小説 御伽草子」の資料9点、「謡曲 狂言」の資料14点、「幸若舞曲」の資料7点、「芸術及遊技 歌舞音楽」の資料3点、「芸術及遊技 猿楽」の資料11点、「芸術及遊技 絵画」の資料1点に対する解題と書影からなる（【東ア-9】）。

#### (5) 若手研究者の育成

担当： 會谷佳光、相原佳之

2018年度より、若手研究者育成のため、「奨励研究員制度」を施行した。この制度は、従来の奨励研究員受入制度（日本學術振興会特別研究員 PD 修了者、嘱託研究員修了者のうち科学研究費を採択された者などを受け入れるための制度）を拡充したもので、国内外の大学においてアジア基礎資料研究に関連する学科を専攻して博士後期課程を修了した者のうち博士学位取得後10年未満で、東洋文庫の所蔵資料を活用して研究を行い、かつ東洋文庫の研究図書館としての諸活動を将来的に担うことが期待される者を対象に、公募・内部推薦を併用して募集・選考を行って「東洋文庫奨励研究員」に登用するという制度である。奨励研究員には、東洋文庫から科学研究費に応募する資格を与え、東洋文庫研究員に準ずる者として『東洋文庫年報』の「役職員名簿」にも掲載し、東洋文庫の資料を広範に利用できるようにするなど待遇面の向上を行うと同時に、研究班・研究グループのメンバーとして資料研究・アジア現地資料調査・国際会議に参加するなど実践的な研究指導を行うことで、研究者としての早期の自立を促すなど、若手研究者の育成・雇用促進に結び付けるべく支援体制の整備に取り組んだ。

また、研究者育成のためのインターンシップ活動として、ハーバード・エ



ンチン研究所の研修プログラムを紹介したり、若手研究者のための成果発信支援プログラムとして外国人講師ポール・クラトスカ氏（シンガポール国立大学出版会編集長）を講師に迎え、「英文による成果発信支援セミナー」（9月12日（水）、参加者4名）などを実施した。奨励研究員経験者を、国際共同研究やアジア国際シンポジウムなど東洋文庫の各種の公開学術活動に積極的に登用し、アジア各地における日本人研究者雇用のニーズに応えるべく取り組んだ。並行して、若手研究者の参画によって東洋文庫の研究図書館としての機能を継承・発展させる一方、『東洋学報』・『東洋文庫欧文紀要』等の学術誌の編集、資料収集・整理、および研究データベースの開発・発信等において、研究支援者として雇用して実務経験を積ませるなど、若手研究者の育成および雇用促進のための体制を一層充実させ、東洋文庫の事業の安定的・継続的な実施をはかった。

上記の東洋文庫における若手研究者育成事業について広く周知するため、ホームページの作成に着手した。

#### 〔研究実施概要〕

**総合アジア圏域研究**では、2018年度総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research”に参加した若手研究者の段宇氏（学習院大学博士後期課程）に報告レポートの執筆を依頼し、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に中英2カ国語で掲載した。

中国語：▶ <http://id.nii.ac.jp/1629/00007024/>

英語：▶ <http://id.nii.ac.jp/1629/00007025/>

紙質調査チームの若手研究者3名を、京都で開催された国際シンポジウム「西域桃源—大谷探検隊から見たクチャの仏教文化—」に派遣して、中央アジア地域とそこで用いられた古文書の用紙等に関する知見を深める機会を与えた。

**現代中国研究**では、華東師範大学（上海）との共催で開催した第7回中国当代史研究ワークショップにおいて若手研究者の報告者を公募し、3名が日本側の推薦枠（うち若手2名）で研究成果の発表を行った。また、定例の研究会では研究報告に若手研究者の登壇を積極的に促し、分野の異なる若手研究者間の交流を進めた。さらに海外の若手研究者との交流促進の一環として、香港史を専門とする陳学然氏（香港城市大学副教授）を招聘して研究会を2回開催し、日本の若手と香港研究者との交流の場を設けた。片倉衷文書研究会において、東洋文庫の嘱託研究員・奨励研究員の参加を受け入れ、戦後日



本人による中国旅行記（1949～1989年）について、若手研究者を臨時職員として雇用し、指導しながら目録・解題の作成を進めた。

**現代イスラーム研究**では、中東・中央アジアの歴史的法令の翻訳作業に当たって、若手研究者が研究協力者として参加し、中心的な役割を果たした。

**東アジア研究**のうち、**前近代中国研究班**の「中国古代地域史研究」グループの研究会では、研究員の数を上回る若手研究者が参加した。講読は若手が主体となり、研究員はそれを批判・修正・補足することで、若手研究者の研究・執筆能力の向上を図った（【東ア-1】）。朝鮮半島の前三国時代～三国時代の集落・都城の現地調査およびデータベースの構築に当たっては、専修大学大学院博士課程の韓国人留學生が研究協力者として参加した。今後は修士課程の学生にも協力を依頼する予定である（【東ア-2】）。『中国社会経済・基層社会用語のデータベース化』グループの定例研究会では、大川裕子氏（日本女子大学非常勤講師）が明清代の農書『沈氏農書』『補農書』訳注の報告を継続し、研究会での議論をもとに「『補農書』（含『沈氏農書』）試訳—現地調査を踏まえて—（2）」（『上智史学』63号）を発表した（【東ア-3】）。近年、首都圏の大学院では中国近世史を専門とする研究者が陸続として定年退職し、同じ地域や時代を専門とする者が必ずしもそのポストを継承できず、若手研究者が指導者から直接指導を受けることができない状況にある。そこで、そのような若手研究者に向けて、東洋文庫研究員がこれまで培ってきた研究資源を開放する目的で、『中国近世法制史料読解ハンドブック』を刊行して、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」でも全文公開を行った。

▶ [https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_opensearch&index\\_id=1243](https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1243)

その他、新たな研究啓蒙書の作成や、若手研究者に開かれた研究報告会を開催してインターカレッジ的な指導を可能にするための方策を模索した（【東ア-4】）。

**東北アジア研究班**では、東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔」・「鑲白旗檔」等の諸資料に関する研究を行うにあたり、当該文書を紙質の方面から分析する研究に、東洋文庫奨励研究員が参加することにより、研究スキルの向上ならびに当該研究の進展を図った（【東ア-7】）。若手研究者の育成を目的の一つとして、清代史研究のための満洲語講座を定期的に関講するべく、その第一段階としての基礎入門講座「『論語』で学ぶ満洲語～文献史料類を読むための満洲語文語入門講座：初級篇」「同 II」（東洋文庫アカデミア）を実施するとともに、若手研究者を指導して雲南省碑文拓本資料の資料整理、碑文の翻字作



成等に取り組んだ（【東ア-8】）。

日本研究班では、2018年度刊行の『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅸ』の編集に当たり、書誌学を学ぶ大学院生3名の協力を得、研究指導を行いつつ、書誌調査と解題の執筆に取り組んだ（【東ア-9】）。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班では、班所属の若手研究者を、2月17日～3月2日の期間、カザフスタンに派遣して、19世紀セミパラチンスクの税関に関する文書を中心に調査し、ロシア・新疆貿易全般に関する史料を収集した（【内陸-2】）。「濱田徳海敦煌文書コレクション」の整理と集約に当たり、中堅・若手研究者の協力を得た。また、内陸アジア古文献研究会を開催して、若手研究者の報告の場として積極的に活用した（【内陸-3】）。チベット研究班では、チベットの歴史、言語、宗教（仏教・ボン教）、社会に関する一次資料の基礎研究に当たり、若手研究者を指導しながら共同研究を行った（【内陸-4】）。

インド・東南アジア研究のうち東南アジア研究班では、若手研究者の研究会への参加を積極的に促すとともに、彼らの研究構想を発表する場を設け、かつ2019年度刊行予定の *The Development of Urban Society in Southeast Asia from Historical Perspectives* に寄稿を依頼した。故仲田浩三氏旧蔵の古ジャワ語刻文拓本資料について、若手研究者がその目録化作業に取り組んだ（【東南】）。

また、嘱託研究員、奨励研究員については、pp.111～113を参照。

## C. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

### (1) 研究成果公開促進費（データベース等）

#### ①「東洋学電子図書館情報システム」

〔東洋文庫電算化委員会委員長：斯波 義信〕

（2014年度採用、5ヶ年間・最終年度）

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である（公財）東洋文庫が90年余にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数500,000件、冊数1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、図像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにす



ることを目指している。書誌データは1994年度に入力を開始して以来、約20年を経て、1,066,023件に到達し、完成の目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年以降はデジタル撮影の手法によるマルチメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを越える貴重書フィルム（35 mm）を所蔵している。これをスキャナーにより画像にとりこみ、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに1970年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関する写真や Video 資料をデータベースとして公開する計画も一部実行してきている。これらの努力の結果、訪問者数については、公開を開始した2002年度において、毎月2,000件であったものが、2018年3月末の段階では、その382倍の763,265件に達した。これは9年前の2009年3月末における毎月98,000件にくらべても、7.8倍の伸び率を示している。また、訪問者数に検索数を加えたアクセス数は、統計を取り始めた2009年6月において、489,000件であったが、2018年3月末では、その9倍の4,500,000件に達している。これらのアクセス数の増加は、主に画像資料の公開によるところが大きい。これを踏まえて、本年度も、文献資料デジタル画像、現地での撮影写真、及び動画の拡大に重点を置いて、電子図書館のバランスと充実に務め、一層のアクセス数の増加に努めたい。

〔研究実施概要〕

- a) 全頁画像データ
  - ・モリソンパンフレット 176点
  - ・岩崎善本（彩色画像） 5点
- b) 動画データ
  - ・中国祭祀演劇資料 21種
  - ・中国浙江省木偶戯資料 1種

(2) 基盤研究B

①「戦前・戦中期における華中・華南調査と日本の中国認識」

〔研究代表者：本庄比佐子〕（2015年度採用、5ヶ年間・第4年度）



戦前・戦中期の中国において、日本の様々な研究調査機関が実施した調査活動資料は、戦後に至ると個別分散的にしか分析されてこなかった。本研究では、戦前・戦中期の中国での調査活動報告等を整理するとともに、その調査内容の実態を究明し、同時期の中国側資料や、近年の中国での研究成果などを比較検討し、当該時期における中国全体の政治・経済・社会文化、ならびに日中関係の特質を、歴史的総合的に考察する。特に、研究対象地域としては、従来の研究では個別にしか取り上げられてこなかった華中・華南地域を中心に、華北に関する研究成果も加えて、中国全土に関する日本の調査研究の全体像を明らかにする。

#### [研究実施概要]

- a) 前年度に引き続き、国内における資料調査のほかに、北京の国家図書館、さらに台湾中央研究院、国史館等において関係資料の調査・収集を進めた。
- b) 台湾での調査から、台湾の研究機関における、日本統治時代の台湾の日本語資料に関する全文公開データベースの実情などを知ることができた。
- c) 前年度に引き続き、政治・経済的資料の分析に加え、都市案内や雑誌広告などの社会文化関係資料の検討を進めた。

#### ②「寄進とワクフの国際共同比較研究：アジアから」

[研究代表者：三浦 徹]（2017年度採用、4ヶ年間・第2年度）

寄付・寄進という行為は、人類史上広くみられる現象であり、富の再配分や金融や福祉の役割を果たし、寄進財をめぐって国家から独立性をもつ社会組織が形成された。本研究では、イスラーム地域に広がるワクフという寄進制度を、ヨーロッパや東アジアを含め、地域や時代をこえて比較することによって、ワクフの特徴や変化を明らかにするとともに、世界史（人類史）における寄付・寄進の意味を討究する。

- (1) 国際的な研究者ネットワークにもとづく、世界大の比較研究。
- (2) ワクフ・寄進を「所有、契約、市場、公益」の観点（分析軸）から比較し、そのメカニズムのモデルを構築する。
- (3) 日本と中国の寄進をワクフと対照し、論点化することによって、日本から斬新な研究発信を行う。



[研究実施概要（2017年度繰越分）]

本研究は、寄進の地域間比較研究を進めるため、東アジアの寄進研究から比較研究への新たな論点を提示するための国内研究集会と、国際的な研究ネットワークを拡充するための国際研究集会を組み合わせ実施する。2017年度は、その研究活動の一部を2018年度に繰り越して、つぎの研究活動を行った（『東洋文庫年報』2017年度（2019年3月発行）p. 62参照）。

a) 国内研究集会 2018年2月16日「東アジアから考える」

報告1 高橋一樹氏（日本中世史）

「日本中世社会におけるワクフ比較研究の射程」

報告2 帆刈浩之氏（中国近代史）

「慈善という回路：近代華僑の「公」的救済のネットワーク」

コメンテーターの岸本美緒氏（中国史）は、中国における寄付は統合的な制度がなく、比較研究としては、個人が私財を他者（ないし社会的利益）のために寄付をする理由（それを正当とする何か）を解明する必要を提起した。

b) 国際研究集会 2018年7月4日～5日 International Conference on History and Governance of Awqaf

マレーシア国際イスラーム大学と共催。7つのセッションにわかれ、2つの基調講演、27の研究発表が行われた。研究代表者三浦徹は基調講演（ワクフの地域間比較：日本と中国と）を行い、また松原健太郎（本科研研究協力者）および二宮文子（本科研による招聘発表者）がそれぞれ中国および南アジアの寄進について報告した。日本では研究者が手薄である東南アジアおよび南アジアのワクフについての研究発表を集中的に聞くことができ、また、2018年3月に東洋文庫より刊行された英文論集 *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm Practices in Religious and Familial Donations* (TBRL 19) を閲覧・配布したところ、比較研究の意義への共鳴を得た。

[研究実施概要]

a) 国内研究集会 2018年9月20日「日本と中国との比較から」

報告1 神野 潔氏（日本法制史）

「鎌倉御家人の寄進状と「仏陀法」」

報告2 松原健太郎氏（中国法制史）

「ワクフと族産：「南アジア・東南アジアのワクフ」研究集会（国際イス



ラーム大学マレーシア)に参加して」

- b) 国際ワークショップ 2019年2月17日 Encounter of Comparative Studies on Endowment in Europe and Japan 寄進の比較研究の出会い：ヨーロッパと日本

ベルリン・フンボルト大学の比較研究プロジェクト(2012～2017)の中心メンバー3名(Tillmann Lohse, Ignacio Sanchez, Zachary Chitwood)を招聘し、比較研究の方法と展望をめぐって、集中的な討議を行った。当該のプロジェクトはその成果として、『中世社会における寄進百科』(3巻、ドイツ語、2017)を刊行し、19の観点をたて(定義、研究動向、類型、時期区分、記述資料、物質資料、宗教上のメリットと一時的願望、記念と儀礼、慈善と教育、寄進財と収益、寄進者、受益者、組織、社会的地位、ジェンダー、空間、社会的変化、批判と改革と流動化、文化交流による刷新と模倣)、それぞれラテン・キリスト教(西欧)、ギリシア正教(ビザンツ)、ユダヤ、イスラーム、インドの地域(文化世界)における状況が論述され、各巻末には研究代表のMichael Borgolte教授によるIntercultural Perspectives(英語)という論考がつく。このプロジェクトをうけ、専門誌*Journal of Endowments Studies*が発刊され、招聘者3名はその編集委員である。三浦は、「財の処分・継承」という観点から、相続を含めて、より広く寄進(特に不動産)の意味と機能の比較を提起した。

### (3) 基盤研究C

#### ①「宋～明代日用類書の基礎的研究」

[研究代表者：大澤 正昭](2015年度採用、4ヶ年間・最終年度)

宋代から明代までの日用類書を調査して整理し、そこに記載された、項目に関する一覧および記事についての語彙解・訳注の作成など、日用類書研究の環境を整備するための条件を整える。そのうえで歴史学研究への利用方法を検討する。具体的には次のような調査および研究を行う。

- a) 日用類書の国内所在目録、項目一覧および関連研究の文献目録を作成する。
- b) 研究対象とする日用類書について詳細な解説を試みる。そのために、①古今の辞書・辞典類及び索引・語彙解などの工具書類を調査し、収集する。②中国文学研究など関連分野の研究成果を調査・収集する。③当面の研究



対象とすべき日用類書の記事に即して、語彙・用例の収集をおこない、文意の解釈について検討する。

[研究実施概要]

- a) 前年度に引き続き『三台万用正宗』の解説作業をおこない、さらにそれらの総括をおこなった。具体的には、巻8律例門（下層）訳注稿の最終確認および同（上層）「招擬指南」訳注稿の補足と完成、同巻21商旅門・巻22算法門訳注の最終確認である。また、これら訳注の東洋文庫リポジトリへの公開をおこなった。巻8は2019年3月までにすべて公開済みであり、巻21・巻22は最終確認作業後2019年度前半をめどに公開予定である。なお巻26医学門、巻39僧道門についての訳注作業も開始している。
- b) 『明代日用類書研究論著作目録稿』の編集作業を終え、東洋文庫リポジトリへ公開した。この目録は、2019年度中に『中国古代法律文献研究』誌上でも公開予定である。これは、2018年度に公開した『明刊本日用類書国内所蔵機関目録稿』とともに、本研究の重要な基礎的業績である。
- c) 東洋文庫の行事の一環として、日用類書に関する連続公開講演（東洋学講座）を行った。テーマは〈中国日用百科全書の世界〉で、講演者・題目は以下の通りである。  
 斯波義信「資金調達方法にみるチャイニーズネス」  
 渡辺紘良「共に学ぶ宋・元・明の日用数学」  
 大澤正昭「地域のボスを告訴するには一告訴状作成ガイドを読む」
- d) 国際シンポジウムを開催した。テーマは「明代日用類書と歴史学」とし、招聘報告者は、中国人民大学副教授尤陳俊、国立台湾海洋大学海洋文化研究所教授呉蕙芳の両氏であった。尤氏は法制史の面から訟師秘本との関連を研究し、呉氏は日用類書『万宝全書』の雑字書を分析した。両報告によって日用類書研究の可能性が広げられた。また報告に対するコメントを富山大学教授徳永洋介、聖心女子大学専任講師五味知子がおこなった。さらにシンポジウムに先立つ基調報告を大澤が担当し、総括討論を斯波義信、まとめ討論を渡辺紘良がおこなった。参加者は30名余りで、こうした専門分野別のシンポジウムとしては盛会であったといえる。

②「モロッコ皮紙契約文書（ヴェラム文書）の国際共同研究」

[研究代表者：原山 隆広]（2016年度採用、3ヶ年間・最終年度）



(公財) 東洋文庫が所蔵する皮紙契約文書（ヴェラム文書）について、モロッコなど関連地域での現地調査と連携研究をおこなう。とくに、①皮紙という材質的特徴と、関連契約を1枚にまとめた形態的特徴、所有権移転に伴い引き継がれていく機能的特徴に注目して類似文書の所蔵状況を把握・分析し、②社会経済史の視点から、各文書に登場する物件や人物について実地調査に基づき検討する。これらを通じて、東洋文庫ヴェラム文書の研究を深化させ、皮紙による文書作成を促した社会的背景を考察する。さらに皮紙契約文書の全容解明を進め、イスラーム法廷における契約手続きと権利保証の制度研究、ヨーロッパや日本・中国など諸地域・文化圏における契約文書の比較研究と繋げていくことを目指す。

#### [研究実施概要]

最終年度にあたる2018年度は、下記の通り本研究計画の完成と研究成果の取りまとめに努めた。

- a) 昨年度(2017年度)に開催した国際シンポジウムにおける討論結果を踏まえて、主要な調査対象地域たるモロッコでの海外調査を重点的に実施した。まず2018年8月には原山隆広(研究代表者)がラバトにて資料調査を進めつつ、海外共同研究者のL. Bouchentouf氏(ムハンマド5世大学教授)およびL. Buskens氏(オランダ・モロッコ研究所(NIMAR)所長)を交えて、本研究計画の成果出版・公開計画について打ち合わせを行った。
- b) 続く2019年3月には原山(前述)・佐藤健太郎(研究分担者)・吉村武典(研究協力者)と併せて、従来未調査であったモロッコ南部地域(マラケシュ・アガディール等)に赴いて、皮紙文書の周辺資料にまで対象を拡大して新規資料の開拓を試みた。現地研究者のA. Anbi氏(アガディール・イブン・ズフル大学教授)の協力により、スース地方の古都イーリーグにおいて同地の名家が私蔵する写本・文書コレクションを調査する機会を得て、木片に記された婚姻・売買契約関連の文書群の存在を確認した。さらにアガディール・イブン・ズフル大学において皮紙文書に関する報告を行い、同大学の研究者から上記の木片文書を含めて現地の資料状況について貴重な情報を得た。
- c) また上述の国際シンポジウムでの報告を元に、その後に実施した調査の成果を反映させて、原山(前述)・三浦徹(研究分担者)・佐藤(前述)・吉村(前述)・亀谷学(研究協力者)がモロッコのオンライン雑誌 *Ribat Al Koutoub* にアラビア語論文を発表した。



③「渭河流域における秦文化成立の考古学的研究」

〔研究代表者：飯島 武次〕（2016年度採用、3ヶ年間・最終年度）

中国甘肅省東部から陝西省の渭河流域に分布する早期秦文化の遺跡・遺物および春秋戦国時代秦国の遺跡・遺物、統一秦時代の遺跡・遺物に関する考古学的調査と研究を行う。その中で第一の研究目的は、早期秦文化の遺跡・遺物の実態を踏査によって明らかにすることである。第二の研究目的は、中国側の発掘に参加する機会を持ち、秦文化遺跡の地下の内容を遺構として理解する。

該当地域における早期秦時代から秦滅亡に至る秦文化の考古学的な分析を行い、秦漢帝国として成立する中華文明の基礎が秦文化の中に芽生えていく過程について都市遺跡を中心に分析する。甘肅省天水市清水県に遺跡の存在が想定される秦邑（秦亭）時代、陝西省宝鶏市内に遺跡の存在が想定される平陽時代、鳳翔県の雍城時代、咸陽市の咸陽時代に関して研究を進め、秦の都市遺跡の実態を明らかにしたい。あわせて都城に付随する秦陵も踏査し、都城と秦陵からなる秦の遺跡の変遷を研究する。

〔研究実施概要〕

- a) 中国陝西省および甘肅省東部の渭河流域に分布する早期・前期秦文化から春秋戦国時代秦文化の遺跡・遺物の考古学的調査を行うことが当該研究の研究目的である。2018年度は北京大学考古文博学院と当該研究を課題とした学術交流を行い、陝西省内の秦建国期・春秋時代の秦人および周人の遺跡発掘に参加した。2018年10月10日～19日の10日間、研究代表者飯島武次、研究分担者角道亮介、研究協力者大日方一郎は、中国宝鶏市鳳翔県の秦都雍城遺跡の発掘調査に加わり、秦都雍城の中心部の宮殿区において調査をおこない、また雍城造宮開始時期の遺構を求めて踏査も行った。その結果、西周文化の伝統を濃厚に受け継ぐ秦人の文化を遺構と遺物の上から確認することができた。発掘参加終了後、19日～25日の間、四川省成都市で開催された「中国考古学論壇」「中国考古学会」の2つの学会に参加し、西周腰坑および、秦建国期の王陵関係の発表を行った。2018年度は、当該研究の最終年度に当たったので、研究のまとめを行い、併せて積極的に研究成果の発表を論文・学会発表において行った。
- b) 3年間の研究では、秦都城の研究に併せて秦陵の葬制に関しても研究を進



めた。その中で、甘肅省礼県大堡子山M3号墓の被葬者は秦襄公、M2号墓の被葬者は襄公の配偶者である可能性が高いとの結論を導き出した。秦建国期から戦国時代後期に至る陵墓・大型墓の変化と発展を確認した。秦建国期・春秋時代の陵墓は中字型墓であるが、戦国時代後期には亜字型墓が出現する。春秋時代の陵墓上に墳丘は無く、穆公陵と景公陵の墓上には大型建築が存在するが、戦国時代後期になり恵文王公陵・武王永陵の陵墓上には方錐台形墳丘が出現する。この発展・変化が始皇帝陵の大方錐台形墳丘と寝殿の造営に繋がる。秦陵葬制の発展と変化の中に秦文化が形成されていく象徴的姿を見ることが出来た。

④「12世紀アイユーブ朝における言論と伝達―書簡資料の利用による」  
〔研究代表者：柳谷あゆみ〕（2017年度採用、3ヶ年間・第2年度）

本研究は12世紀のアイユーブ朝政権における、政権保有者と彼を支える知識人たちの言論と伝達に焦点をあてるものである。

具体的には、同時代の現存書簡をはじめとする（アラビア語で書かれた）資料に基づき、（1）書式と構造を明らかにし、（2）政権の存在と政策の正当性にかかわる議論と主張、（3）政権の成員の知的交流について、その特色と変遷を検討する。

後代のマムルーク朝期における文民官僚たちの手本とされたこれらの書簡の形式・内容を把握することで、アイユーブ朝期の知識人たちが、互いに交流を深め、現状に実際的に対応していく中で構築した理論と慣行の祖型を示し、中世イスラーム政治・社会史研究に有効な知見をもたらすことを目的とする。

〔研究実施概要〕

- a) 2018年度は、エジプトとロンドンでアイユーブ朝期史料の収集を進めた。ロンドンの調査では、写本・刊本の複写を進めるとともに、先行研究で所蔵が指摘されていた一次資料が「少なくとも同資料上で指摘された所蔵場所にはない」という不在の確認も行った。
- b) 同時に、収集資料の読解を進め、主としてイフワーニーヤ（スルターン年代筆ではなく、書記が自身の文責において書く書簡。宛て先はスルターン、カリフ以外のあらゆる階層に及ぶ）の内容分析を行った。
- c) カーディー・アルファーディルの現存書簡で、最も数が多いのは同僚にあ



たる書記のイマード・アッディーン・アルイスファハーニー宛て書簡である。イマードからの返信も少数ながら現存しているため、往復書簡の分析を通して、①イフワーニーヤにおいても相手の職位に応じた書式が存在すること、②マグリブとマシュリクで書式に差があること、③カーディー・アルファーディルが職位上イマードの上位にあること、④書簡による交流が、当初予定を超えたハイペースで行われていることの4点を見出した。この分析では書記からアミールに対しての書式、書記から様々な知識人層に対する書式の相違についても内容を確認した。これらの点は人称の使用にかかわる問題でもあるため、書簡の読解においても基本的な前提知識を得るものとなった。

- d) ②③④については、先行研究にはない発見であるため、慎重に内容の確認を進めてきた。そのため、論文とする作業は現在進めているところであるが、国際学会（WOCMES, 日独マムルーク会議）にて上記内容について報告（英語）を行った。

⑤「『大正新脩大藏經』編纂の実態に関する書誌学的研究：増上寺報恩蔵本を通して」

[研究代表者：會谷 佳光]（2018年度採用、3ヶ年間・初年度）

現在、冊子体、WEB上のテキスト・画像データベースで、国際的な仏典のスタンダードテキストとなっている『大正新脩大藏經』（以下、『大正蔵』とする）については、編纂時の誤脱や衍文の多さが近年指摘されている。しかしながら、その底本や校本に用いられたテキスト、例えば増上寺の三大蔵經（高麗再彫本、宋思溪版、元普寧寺版）など、編纂時に実際に用いられたテキストを使って問題点の実証的な解明を行うことが非常に困難な状況にある。本研究の研究代表者は『大正蔵』の底本・校本として散見する「増上寺報恩蔵本」について、2010年より浄土宗寺院西蓮社にて書誌学的実地調査を重ねてきた。そこで、この西蓮社本と『大正蔵』とを校勘してテキストの異同等の状況を調査分析することで、『大正蔵』の編纂実態の一端を実証的に解明し、そこに内包される問題点を顕在化させることで、『大正蔵』をいかに活用すべきかを利用者に提起し、国内外の仏教研究に貢献することを目指す。

[研究実施概要]

- a) 西蓮社本と『大正蔵』の校勘作業に着手するため、『大正蔵』普及版39～



47巻、『昭和法宝総目録』第3巻を購入するなど資料収集に努めた。

- b) 8月の京都出張では、佛教大学紫野キャンパス図書館にて、『大正蔵』の実際の底本に使われたとも言われる上海頻伽精舎校刊大蔵經の調査を、同館所蔵本で行い、総目をはじめ、増上寺報恩蔵本と関連のある經典の一部について複写を行った。2月の京都出張では、大谷大学図書館にて、『大正蔵』の『金光明經文句文句記』の校本に使われた承応3年中野小左衛門刊本を調査して全文複写を行った。本調査によって、承応3年に合刊された『金光明經玄義拾遺記』では大正大学所蔵本が使われ、『文句文句記』のみ大谷大学所蔵本が使われており、大正蔵の編纂において、同一版本が複数箇所所蔵されている場合、編纂が行われた東京近郊の版本が優先的に使用され、東京近郊に所蔵がない場合に京都等の所蔵本が使用された可能性があることが明らかとなった。その他、大正大学所蔵の『金光明經玄義拾遺記』の全文複写を行い、『大正蔵』および西蓮社本との詳細なテキストクリティークを行うための準備を行った。
- c) 西蓮社本のデジタル画像撮影を迅速・精細に行うため、スキャナー（富士通 SCANSNAP SV600）と、経本の撮影に特化した撮影台の作成を撮影業者に発注して西蓮社に備え付けた。
- d) 『昭和法宝総目録』第1巻「大正新脩大蔵經勘同目録」から初版時の底本・校本情報を抽出し、これを普及版の脚注に記載される底本・校本情報と比較することで、初版から再刊時の底本・校本の異同をあぶり出すための「『大正蔵』底本・校本一覧データベース」の作成に着手した。このデータベースには、『大正蔵』諸本の奥付画像を収集することで、正確な刊行年月、製本業者、奥付の踏襲・流用の状況、刊行の先後や刊行頻度など、本文からでは見えてこない出版をめぐる周辺情報を取り込んでいる。

#### ⑥「三上次男考古・美術資料の研究とデータベースの作成」

〔研究代表者：金沢 陽〕（2018年度採用、4ヶ年間・初年度）

故三上次男博士が、戦前戦後を通じてユーラシア大陸各地の踏査によって遺したフィールドノート（公益財団法人出光美術館蔵）を解析し、同氏の収集遺物（出光美術館および青山学院大学蔵）、および膨大な写真・図面・拓本等（出光美術館蔵）と、このフィールドノートの記載とを結びつけ、考古・美術史資料目録を作成する。そして東北アジア史・東西交渉史の貴重な資料としてデータベースを整備し、後進の研究者の利用に供することを目的とす



る。これは、同様の先駆的な成果としての東洋文庫『梅原考古資料目録』を意識し、最終的には研究者の閲覧可能な状況に仕上げることを目標とする。

〔研究実施概要〕

- a) 2018年度は、研究の第1段階として、まず三上次男博士フィールドノートの日録を作成したうえで、スキャニングおよび書き起こしによりデジタル化する作業に着手した。フィールドノートの実態把握および目録作成はほぼ達成できたと考える。内容のデジタル化は、文字データとしては30 %程度の基本的書き起こしが達成できた。ところが、同フィールドノートでは、文字以外の遺跡・遺物・民俗資料等の実測図・スケッチが予想以上に重要な意義をもつことが認識された。そのため、それらのスキャニングが課題となり装置の設置を行ったが、整理方法が確立できず、一部試験的に着手したに止まった。
- b) フィールドノート記載内容の確認の必要があり、中国江西省景德镇市、鹿児島県立埋蔵文化財センターおよび鹿児島県歴史資料センター黎明館において、それぞれ窯業史関係の遺跡・遺物を中心として確認調査を行い、現地研究者の協力を得て初期の目的を達成したが、鹿児島県立埋蔵文化財センターについては追加調査を予定している。
- c) 一方、今回の研究申請前にすでに基礎調査・目録化が終了していると考えられていた、青山学院大学文学部史学科相模原校舎保管の三上博士収集資料が、一部未開梱・未整理の状態であることがわかり、急遽開梱と基礎調査実施の必要が生じた。さらに管理者側の事情で保管場所の移動の必要も生じたため、移動のための資料保全作業を兼ねて、急遽基礎調査・目録化作業を、2019年に入って青山学院大学文学部史学科の協力を得て計画・実施した。但し画像の採取が保管場所移動後の実施とせざるを得ず、2019年度の課題となった。

D. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原 佳之	中国明清時代環境史
青木 敦	宋代の法と経済
青山 亨	古代ジャワ史・ジャワ文学研究



研究員名	研究課題
青山 治世	清代—近現代の中国外交史
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会および制度
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
天兒 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 明子	東南アジア大陸部北部の歴史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 渉	医療社会史
池田 温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石川 重雄	中国巡礼社会史の研究
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
井上 和枝	朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上 和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
林 載桓	中国政治、比較政治学
上田 望	中国長編小説
上野 英二	平安朝文学の研究
内田 知行	中華民国社会史
内山 雅生	近代中国華北農村経済史
梅原 郁	宋元時代の法制制度の研究
梅村 坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
宇山 智彦	中央アジア近代史・現代政治
江川ひかり	オスマン帝国社会経済史
江南 和幸	金属材料学、里山学、文化財科学



研究員名

遠藤 光暁  
 大江 孝男  
 大川 謙作  
 大河原知樹  
 大里 浩秋  
 大澤 顯浩  
 大澤 肇  
 大澤 正昭  
 太田 啓子  
 太田 信宏  
 太田 幸男  
 大谷 俊太  
 岡崎 礼奈  
 尾形 洋一  
 岡野 誠  
 岡本 隆司  
 丘山 新  
 小川 裕充  
 小川 快之  
 奥村 哲  
 尾崎 文昭  
 小澤 一郎  
 小田 壽典  
 小名 康之  
 小沼 孝博  
 小野寺史郎  
 粕谷 元  
 糟谷 憲一  
 片桐 一男  
 片山 章雄  
 片山 剛  
 加藤 恵美

研究課題

中国語音韻史・方言学  
 現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究  
 現代中国およびチベット民族の歴史と社会  
 19-20世紀シリアの社会史・政治史  
 清代末期の革命思想、日中関係史  
 中国出版文化史、中国近世の地理書、中国地図学史  
 近現代中国における学校教育史  
 中国近世社会史  
 アラビア半島・紅海文化圏の歴史  
 南インド近世史  
 秦墓竹簡の研究  
 室町・江戸時代文学の研究  
 日本近代美術史  
 近現代中国政治外交史  
 中国法史、敦煌・吐魯番文献  
 近現代中国外交史  
 中国仏教資料研究  
 中国絵画資料研究  
 中国宋代から清代の社会生活史・法制史  
 中国近現代史  
 20-21世紀中国の文学  
 近現代西アジア軍事社会史  
 古トルコ語仏教文献の研究  
 インド近世、ムガル政治史  
 中央ユーラシア史、17-19世紀の新疆史  
 近代中国のナショナリズム  
 トルコ現代史  
 18-19世紀朝鮮政治史  
 日蘭文化交渉史の研究  
 中央アジア古代史  
 珠江デルタ農村社会史、近代中国土地調査事業史  
 在日韓国・朝鮮人社会の史的考察と国際比較—文化間関係の観点から



研究員名	研究課題
加藤 直人	清朝の民族統治政策・清代檔案史料の研究
金沢 陽	中国陶磁器研究
金子 修一	中国古代史
金丸 裕一	中国政治経済史・日中関係史
亀谷 学	初期イスラーム史
川井 伸一	中国企業研究
川合 安	六朝貴族制の研究
川崎 信定	チベット仏教の研究
川島 真	近代中国外交史
神田 豊隆	日本外交史、アジア国際関係史
菅頭明日香	考古遺物の化学的分析
貴志 俊彦	東アジアの通信メディアをめぐる比較史的研究
岸本 美緒	明清時代地方社会史
北川 香子	カンボジア史
北村 文夫	現代中東問題の研究
北本 朝展	デジタル・アーカイブ
橘堂 晃一	ウイグル仏教史の研究
金 鳳珍	東アジアの歴史・思想・国際関係
楠木 賢道	清代東北地域史、清代政治史
工藤 裕子	ジャワの華人系住民
久保 亨	中国近現代史
窪添 慶文	魏晉南北朝時代史
久保田 淳	日本古典文学、和歌文学史
熊本 裕	イラン語史の研究
栗山 保之	中世のインド洋海域の交易史
黒田 卓	近現代イラン史
氣賀澤保規	隋唐政治社会文化史
巖 善平	中国の三農問題
高野 太輔	初期イスラーム史
興梠 一郎	現代中国論・中国現代史
小嶋 芳孝	渤海文化の考古学的研究
小杉 泰	現代イスラーム政治思想、現代イスラーム法学
後藤 明	イスラム社会と政治の研究



研究員名	研究課題
小浜 正子	東アジアジェンダー史、中国近現代社会史
小松 久男	中央アジア近代史
小南 一郎	中国芸能史研究
近藤 信彰	イラン史・ペルシア語文化圏史
齋藤真麻理	中世日本文学の研究
早乙女雅博	東アジア考古学の研究
櫻井 徹	在留外国人のコミュニケーション誌の現況について
佐々木 紳	オスマン帝国近代史
佐藤健太郎	マグリブ・アンダルス史
佐藤 慎一	中国近代政治資料研究
佐藤 宏	農村経済社会の長期変動
佐藤 仁史	近現代江南農村社会史研究
澤江 史子	現代トルコ政治
塩沢 裕仁	中国古代歴史地理研究
設楽 國廣	オスマン帝国末期政治史
部 勇造	南アラビア古代史
篠木 由喜	博物館展示・教育論
篠崎 陽子	前近代中国文化史
斯波 義信	中国社会経済史
嶋尾 稔	ベトナム史
島田 竜登	東南アジア経済史、海域アジア史
清水 宏祐	セルジューク朝時代イランの研究
清水 信行	古代の日本・大陸交流史
志茂 碩敏	13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
徐 顕芬	東アジア国際関係、国際援助論、中国外交
徐 小潔	近代日中関係史、コディコロジー
邵 迎建	中国近現代文学
城山 智子	近現代中国の通貨・金融システム
新免 康	中央アジア史
末成 道男	東アジア社会人類学
須川 英徳	高麗・朝鮮時代の商業
杉山 清彦	大清帝国史
鈴木 恵美	現代エジプト政治史



研究員名	研究課題
鈴木 董	オスマン帝国史、比較史・比較文化
鈴木 均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木 博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木 立子	元朝社会経済史
砂山 幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾 達彦	中国古代・中世都市史
関 智英	中国人対日協力者の戦後一大陸残存者把握にむけての基礎的研究
関尾 史郎	敦煌・トルファン文書研究
曾田 三郎	中国近代政治・社会史
高久 健二	東アジア、楽浪期を中心とした中国・朝鮮半島の研究
高田 幸男	長江下流域の地域社会・エリート・教育団体、近代東アジア教育文化交流史
高遠 拓児	清代における刑罰制度の研究
高橋 公明	東アジア海域史、東アジア国際関係史
高橋 英海	西洋古典学
高松 洋一	オスマン朝史、古文書学、アーカイブズ学
高村 武幸	中国秦漢社会史・行政制度史
瀧下 彩子	近現代中国社会文化史
武内 紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武内 房司	中国近代宗教社会史、近代中国・ベトナム関係史
武田 幸男	朝鮮古代・近世史
田島 俊雄	東アジアの経済発展
多田 狷介	漢魏晋史
多々良圭介	18世紀清代中国における名医の社会的条件—藤井文庫を中心に
立川 武蔵	チベット密教教理の研究
田中 明彦	現代東アジア国際政治の研究
田中 一成	中国演劇史
田中 時彦	日本の政治的近代化の研究
田中 仁	中国政治史、20世紀中国政治
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルス	清代社会経済史、中国技術史



研究員名	研究課題
地田 徹朗	ソ連史、中央アジア地域研究
P. ツィーメ	古ウイグル文献学
塚原 東吾	科学史・科学哲学、STS
辻本 裕成	中古・中世日本文学の研究
土田 哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井 祐司	マレーシア近代史
鶴見 尚弘	明・清時代社会経済史
寺田 浩明	中国明清法制史
唐 成	現代中国金融の研究
唐 亮	現代中国政治史の研究
東條 哲郎	マレーシア近代社会経済史
徳永 洋介	中国近世史
戸倉 英美	中国古典文学資料研究
土肥 祐子	宋代海外貿易史
土肥 義和	西域出土漢文文書の研究
富澤 芳亜	中国近代経済史
鳥海 靖	日本近現代史
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究
長沢 栄治	近代エジプト社会経済史
永田 雄三	オスマン帝国史
中谷 英明	インド仏教学
中塚 亮	中国古典長編小説、古典演劇
長縄 宣博	ロシア・ムスリムの近現代史
中見 立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
中村 威也	中国古代地域社会／非漢族研究
中村 元哉	中国近現代政治史・思想史
新村 容子	近代中国におけるアヘン問題
西 英昭	中国・台湾の近現代法制史
西尾 寛治	マレーシア・インドネシア近世史
野田 仁	中央アジア史研究
延廣 眞治	江戸・明治の文芸
萩田 博	ウルドゥー語学・文学の研究
馬場 英子	中国の説唱文学（語り物）



## 研究員名

濱下 武志  
濱島 敦俊  
濱田 正美  
濱本 真実  
林 佳世子  
林 俊雄  
原 實  
原山 隆広  
平川 幸子  
平勢 隆郎  
平野健一郎  
平野 聡  
弘末 雅士  
廣瀬 紳一  
深沢 眞二  
藤井 昇三  
藤井 省三  
藤田 忠  
藤本 幸夫  
古田 和子  
古屋 昭弘  
弁納 オ一  
寶劔 久俊  
星 泉  
細谷 良夫  
堀井 聡江  
堀内 賢志  
堀川 徹  
本庄比佐子  
牧野 元紀  
松井 太  
松重 充浩  
松永 泰行

## 研究課題

中国近現代史  
中国近世社会経済史  
中央アジアにおけるイスラーム研究  
ロシア・ムスリム史  
オスマン朝期中東社会史  
中央ユーラシア史・草原考古学の研究  
インド古代文学の研究  
アッバース朝末期政治史  
東アジア国際関係史、中国・台湾外交史  
中国考古資料研究  
近代東アジア国際関係論  
中国党支配（国民党・共産党）の史的研究  
インドネシア宗教社会史  
漢字文化圏電子情報学の研究  
連歌・俳諧の研究  
近代中国政治外交史、日中関係史  
中国近現代文学  
中国古代政治・社会史  
朝鮮本研究  
近代東アジア経済史  
中国語史  
近現代中国農村経済史  
現代中国の農村社会経済変動の研究  
チベット言語学  
清朝政治史  
イスラーム法史  
北東アジアの国際関係、ロシア政治  
中央アジア文書研究  
近現代日中関係史  
ベトナムのキリスト教  
中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の歴史学的研究  
近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史  
現代イランの政治・宗教及びシーア派研究



研究員名	研究課題
松丸 道雄	殷周金文の研究
松村 潤	東北アジア民族史
松村 史紀	国際関係論、東アジア国際政治史、中国政治外交史
松本 弘	イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
丸川 知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦 徹	イスラム都市社会史
水野 善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三田 昌彦	北インド中世史
三谷 博	明治維新と諸革命の比較研究
峰 毅	毛沢東時代の経済政策の再評価
御牧 克己	チベット宗義書の研究
宮崎 修多	近世近代漢詩文の研究
宮脇 淳子	アジア史
村井 章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村上 衛	清末沿海経済史の研究
村田雄二郎	中国近代史、中国地域研究
毛里 和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野 英一	清末民初中国の対日英米経済関係
榎山 明	中国古代法制史・辺境論・資料論
守川 知子	イラン・イスラーム史
森川 裕二	現代東アジアの経済ネットワーク
森平 雅彦	朝鮮中世・近世史
森安 孝夫	中央ユーラシア古代中世史、古代ウイグル文書の研究
矢島 洋一	中央アジア史
柳澤 明	清代外交史・民族関係史
柳田 征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究
矢吹 晋	近現代中国経済
山内 弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内 民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口 瑞鳳	チベット学、仏教哲学
山口 元樹	インドネシア・イスラーム史
山村 義照	日本近現代史



研究員名	研究課題
山本 英史	17～19世紀中国社会構造の研究
山本 真	中国・台湾近現代農村社会史
山本 毅雄	デジタル人文学
湯浅 剛	中央アジア政治史
吉澤誠一郎	中国近代史
吉田建一郎	近現代中国経済史
吉田 伸之	日本近世都市社会史
吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水 清孝	古代から中世初期にかけてのインド思想史
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
吉村 武典	中世アラブ・イスラーム史、前近代エジプト社会
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全280人)

## 2. 資料研究成果発信

アジア基礎資料研究による一次資料の解析と研究の成果は、和文および欧文の紀要・雑誌・叢書・電子ジャーナルとして継続的に刊行を行い、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に登録して順次オンライン公開を進めた。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなろう。

### A. 定期出版物刊行

1. 『東洋文庫和文紀要』（東洋学報）	第100巻 第1-4号	A 5 判 4 冊（刊行済）
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1062">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1062</a>		



2. 『東洋文庫欧文紀要』 ( <i>Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko</i> )	No. 76	B 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1305">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1305</a>		
3. 『近代中国研究彙報』	第41号	A 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=431">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=431</a>		
4. 『東洋文庫書報』	第50号	A 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1251">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1251</a>		
5. <i>Modern Asian Studies Review</i> ／新たなアジア研究に向けて	Vol. 10	オンラインジャーナル (公開)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1230">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1230</a>		
6. <i>Asian Research Trends New Series</i>	No. 13	A 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1304">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1304</a>		

## B. 論叢等出版 ※詳細は pp.74～75を参照

1. <i>A World History of Suzerainty: A Modern History of East and West Asia and Translated Concepts</i> (TBRL20)	B 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1303">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1303</a>	
2. 『水経注疏訳注 穀水篇』(和文論叢82)	A 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1301">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1301</a>	
3. 『中国近世法制史料読解ハンドブック』	A 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1243">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1243</a>	
4. 『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅸ』	B 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1306">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1306</a>	
5. <i>A Classified Catalogue of The Morrison Library in Toyo Bunko</i> vol.1 改訂版	B 5 判 1 冊 (刊行済)
▶ <a href="https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1307">https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&amp;index_id=1307</a>	
6. <i>List of place names in two atlases from the Tōyō Bunko collection compiled in the 17th-century Netherlands : Blaeu, Grooten Atlas, 1664–1665, and Janssonius, Novus Atlas Absolutissimus, 1658</i>	A 5 判 1 冊 (刊行済)



7. 2018年度総合アジア圏域研究国際シンポジウム 要旨集	A 4 判 1 冊 (刊行済)
-----------------------------------	-----------------

※▶は、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」の掲載アドレス。

## C. 資料研究成果のオンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次資料研究成果のオンライン公開を行った。

▶ <http://www.toyo-bunko.or.jp/research/results.html>

## 3. 研究情報普及

### A. 講演会

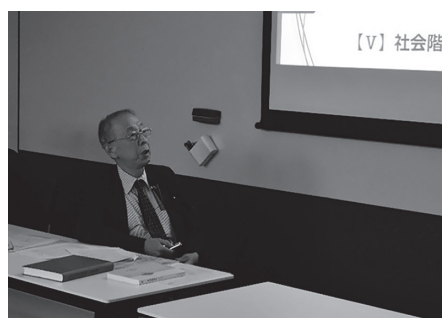
#### (1) 東洋学講座

近年の研究成果を一般に向けて広く普及するため、前期に前近代中国研究班「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループ、後期に西アジア研究班による講座を実施した。

(前期) 共通テーマ「〈斯波義信先生文化勲章受章記念〉中国日用百科全書の世界—商売・算術・裁判」

第566回 2018年6月22日(金)  
「資金調達方法にみるチャイニーズネス」

東洋文庫文庫長  
斯波 義信 氏 (右写真)





第567回 2018年7月4日（水）

「共に学ぶ宋・元・明の日用数学」

東洋文庫研究員

獨協医科大学名誉教授

渡辺 紘良 氏

第568回 2018年7月6日（金）

「地域のボスを告訴するには一告訴状作成ガイドを読む」

東洋文庫研究員

上智大学名誉教授

大澤 正昭 氏

（後期） 共通テーマ「文書資料からみる中東・イスラーム地域の生活」

第569回 2018年12月10日（月）

「イスラーム法廷文書にみる契約と裁判」

東洋文庫研究員

お茶の水女子大学教授

三浦 徹 氏（右写真）



第570回 2018年12月14日（金）

「東洋文庫所蔵モロッコ皮紙契約文書から見る不動産の売買と相続」

東洋文庫研究員

北海道大学准教授

佐藤健太郎 氏

第571回 2018年12月19日（水）

「会計のしくみ：ペルシア語簿記術指南書が映す財政と経済」

東京大学非常勤講師

渡部 良子 氏

## （2）公開講座

東洋文庫の所蔵資料や研究活動・研究成果をテーマとして、国内外の当該分野の著名研究者を招いて実施した（以下、開催日順で記載）。



(東アジア資料研究班による国際共同研究)

2018年10月20日 (土)

「中国の伝統人形芝居の現在 (いま)」

「中国の伝統人形芝居について」

東洋文庫研究員

新潟大学名誉教授

馬場 英子 氏

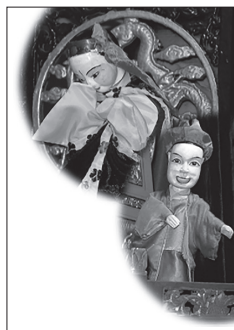
「舟山の指遣い人形芝居の伝承と現在、非物質文化遺産としての保護」

浙江海洋大学

毛 久燕 氏

「温州独り遣い指人形芝居の基本芸術形態」

温州非物質文化遺産中心 楊 思好 氏



(近代中国研究班による国際共同研究)

2018年11月23日 (金)

国際シンポジウム「近現代中国農村の社会環境与新農村建設」

「四社五村の水利秩序和礼治秩序」

長崎県立大学国際社会学部教授

祁 建民 氏

「近代無錫鄉村自治的歴史啓示—以薛明劍の玉祁自治実験郷為例」

無錫市政治協商委員会元研究室主任

湯 可可 氏

「農民自主性对農村家庭收入的影响—基於上海市郊9个村調查数据的分析」

華東師範大学社会發展学院教授

張 文明 氏

「華北農村社会結構之再考察—以山西某村為例」

神戸学院大学非常勤講師

陳 鳳 氏

「近年来中国農村調查研究的現状与課題」

東洋文庫研究員

宇都宮大学名誉教授

内山 雅生 氏

(現代中国研究班による国際共同研究)

2018年12月1日 (土)・2日 (日)

第7回日中共同研究「中国当代史研究」ワークショップ

「紅色摩登—上海電影人的1950年代」

報告：華東師範大学

張 濟順 氏

コメント：京都大学

石川 禎浩 氏



「解放軍の北平・北京入城と分裂の青春想像」

報告：神戸大学 濱田 麻矢 氏

コメント：華東師範大学 馮 筱才 氏

「資源利用と生態演化—二十世紀五六十年代川西和陝南山區的“打獸運動”」

報告：華東師範大学 姜 鴻 氏

コメント：東洋文庫研究員 小浜 正子 氏

「人民公社初期一個生産大隊の収入史」

報告：北京師範大学 張 海栄 氏

コメント：東洋文庫研究員 中兼和津次 氏

「1950年代中国絲綢公司對資本主義市場行情的調研」

報告：東京大学大学院 上西 啓 氏

コメント：華東師範大学 劉 彦文 氏

「從上海學生到甘肅教師—1950年代都市青年支教辺疆研究」

報告：華東師範大学 劉 彦文 氏

コメント：北海道大学 松村 史穂 氏

「從“壞典型”到“好榜樣”—温州“資本主義道路”の悲喜劇」

報告：華東師範大学 馮 筱才 氏

コメント：東洋文庫研究員 中兼和津次 氏

「日中医学交流の政治史—1950年代中期的互相訪問為中心」

報告：東洋文庫研究員 飯島 渉 氏

コメント：華東師範大学 楊 奎松 氏

「歸結於“日本方式”与“一個中国”—1970年代澳大利亞与東南亞各國的中国外交」

報告：東洋文庫研究員 平川 幸子 氏

コメント：華東師範大学 王 海光 氏

総合討論 司会：東洋文庫研究員 村田雄二郎 氏

(総合アジア圏域研究班【地図】研究グループのコーディネートによる国際共同研究)

2018年12月8日(土)・9日(日)

《第7回総合アジア圏域研究国際シンポジウム》

Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research



Organizer:

HAMASHITA Takeshi (Research Department Head, Toyo Bunko)

Opening Remark

HAMASHITA Takeshi

Keynote Speech 1

Ronald TOBY (Professor Emeritus, EALC and History, The University of Illinois)

“Bounding Early Modern Japan: Bakufu Maps, Hayashi Shihei, Kondō Jūzō, and Inō Tadataka”

Presentation from Toyo Bunko

NAKAMURA Satoru (Assistant Professor, Information Technology Center, The University of Tokyo), TACHIBANA Nobuko (Library Department Staff, Toyo Bunko), ANDOH Mayuko (Library Department Staff, Toyo Bunko)

Session 1

Chair: TAKAHASHI Kimiaki (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor Emeritus, Nagoya University)

LIN Tian jen (Research Fellow, National Palace Museum)

“‘Chuan Hai Tu Zhu’ in the Ming Dynasty Marine Chart Series”

WATANABE Miki (Associate Professor, Department of Interdisciplinary Cultural Studies, Graduate School of Arts and Science, The University of Tokyo)

“The Oldest Map Becomes the Newest: Takemori Dōetsu’s 1696 Map of the Ryūkyū Kingdom”

TAKAHASHI Kimiaki

“Ryukyu and Taiwan in Maps of China Made in Edo Japan”

SHIH Wen-cheng (Associate Curator, Research Division, National Museum of Taiwan History)

“Comment”

Discussion

Keynote Speech 2

Cristina CRAMEROTTI (Conservatrice en chef, Bibliothèque du Musée national des arts asiatiques-Guimet)

“The Secret Life of Maps: A History of the National Museum of Asian Arts-Guimet through its Cartographic Collection”

Session 2



Chair: OSAWA Akihiro (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Gakushuin University)

CHENG Zhi (Kicengge) (Professor, Otemon Gakuin University)

“Land Surveys in the Northeast for the ‘Huangyu quanlan tu’”

USAMI Bunri (Professor, Graduate Schools of Letters, Kyoto University)

“An Explanation of the Relationship between Maps and Shan Shui Paintings”

OSAWA Akihiro

“Landscape-style Maps in Early Modern China”

KOBAYASHI Shigeru (Professor Emeritus, Osaka University)

“Comment”

Discussion

General Discussion

(中央アジア研究班「日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究」グループによる国際共同研究)

2019年3月22日(金)

第7回日中共同研究「中国当代史研究」ワークショップ

「莫高窟隋初供養人服飾」

敦煌研究院考古研究所館員

武 琮芳 氏

「敦煌莫高窟の漢語供養人題記にみる字体の問題」

大妻女子大学非常勤講師

二松学舎大学非常勤講師

菊池 淑子 氏

「釈迦であり阿弥陀である仏像

—初盛唐期法華経関連の造形を中心として—」

法政大学大学院兼任講師

久野 美樹 氏

### (3) 特別講演会

東洋文庫研究員、研究班の主催によって、主として来日中の著名な外国人研究者を招いて実施した(以下、開催日順で記載)。

(中央アジア研究班「近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動」グループ主催による講演会)

2018年7月18日(水)



“The East Turkistan Cause in the Inter-War Middle East”〔英語・通訳なし〕

Senior Lecturer in Modern Chinese History, University of Sydney

David Brophy 氏

(前近代中国研究班「中国古代地域史研究」グループが受け入れた外国人客員研究員による研究成果報告会)

2018年7月25日(水)

「両漢県属游徼考」〔中国語・通訳あり〕

西南大学歴史文化学院民族学院専任講師

張 新超 氏

(若手研究者育成のためのセミナー)

2018年9月19日(水)

英文による成果発信支援セミナー

“Preparing Papers for International English-language Journals”〔英語・通訳なし〕

国立シンガポール大学出版会編集長

Paul H. Kratoska 氏

(斯波義信研究員のコーディネート、東洋文庫名誉研究員による講演会)

2019年1月11日(金)

“From the “Great Divergence” to the “Great Convergence”—The Modern Transformation of the Yangzi Delta’s Economy in Global and Historical Perspective—”

〔英語・通訳なし〕

東洋文庫名誉研究員

北京大学教授

李 伯重 氏

(平野健一郎研究員のコーディネートによる講演会)

2019年1月18日(金)

「伝統的天下共同体における地域統合概念の新発見—歴史経験と文化価値の分析」〔日本語〕

台湾中央研究院近代史研究所前主任研究員・現兼任研究員

張 啓雄 氏

(中央アジア研究班「日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究」グループ主



催による講演会)

2019年1月25日(金)

「唐代長安仏教文化の西漸」〔中国語・通訳あり〕

北京大学教授

栄 新江 氏

2019年3月8日(金)

「鄴城新出「ソグド文・漢文一体墓誌」および深圳望野博物館所蔵北朝陶磁器」〔中国語・通訳あり〕

深圳望野博物館館長

閻 焯 氏

(協力協定機関ドイツのマックス・プランク研究所より受け入れた外国人客員研究員による研究成果報告会)

2019年3月27日(水)

“Water, Ritual and Political Power in Yunnan during the First Millennium CE”

〔英語・通訳なし〕

マックス・プランク研究所科学史部門ポストドクトラルフェロー

徐 淳 氏

#### (4) 東洋文庫談話会(東洋文庫研究会)

専門分野の若手研究者による成果報告会として設定している。2018年度は対象となる若手研究者(東洋文庫での受入最終年度の者)がいなかったため実施しなかったが、対象をさらに拡大した形での若手研究者のための研究発表会の創設を検討した。

#### (5) ミュージアムによる公開講座・ワークショップ・イベント

東洋学の一般への普及を目的に、企画展に合わせて、以下のミュージアムによる公開講座・ワークショップ・イベントを開催した(以下、項目別に開催日順で記載)。

##### 【公開講座】

「ハワイと南の島々展」 会期：2018年1月18日～5月27日)

2018年5月4日(金)

「太平洋芸術祭の映像と踊り」



太平洋民族芸能プロデューサー 小出 光 氏  
フラダンサー クウレイナニ 橋本 氏

2018年5月13日（日）

「19世紀のハワイ諸島—王国の栄光と篡奪」

法政大学教授 山本 真鳥 氏  
以上

（「悪人か、ヒーローか」 会期：2018年6月6日～9月5日）

2018年6月10日（日）

「江戸のメディアにみる悪人像」

太田記念美術館主幹学芸員 渡邊 晃 氏

2018年7月1日（日）

「人間始皇帝をめぐる悪人たち」

学習院大学教授 鶴間 和幸 氏

2018年7月8日（日）

「敗者の言い分—清盛あるいは頼朝」

日本大学教授 関 幸彦 氏

2018年7月21日（土）

「オスマン朝君主の見方を考える」

東京大学名誉教授 鈴木 董 氏

2018年8月4日（土）

「三国志の「奸」と「雄」—董卓・呂布・曹操」

早稲田大学教授 渡邊 義浩 氏  
以上

（「大♡地図展 古地図と浮世絵」 会期：2018年9月15日～2019年1月14日）

2018年9月30日（日）

「広重から見る浮世絵風景画」

国立歴史民俗博物館教授 大久保純一 氏

2018年11月11日（日）

「世界を描く—古地図にみる江戸時代の人々の見方・考え方」

東京大学史料編纂所教授 杉本 史子 氏

2018年11月18日（日）

「古地図からみる江戸の駒込」



学習院女子大学教授 岩淵 令治 氏  
2018年12月23日（日）  
「伊能図の小説的解釈～日本初の科学的測量に基づく日本全図（伊能図）  
は、将軍吉宗の悲願だった」  
作家 太田 俊明 氏  
以上

（「インドの叡智展」 会期：2019年1月30日～5月19日）  
2019年2月24日（日）  
「欧州を魅了した小さな花柄の源流を求めて」  
日本大学教授 伊豆原月絵 氏  
2019年3月10日（日）  
「古代インドにおける真理と神の探求」  
筑波大学准教授 志田 泰盛 氏  
以上

【ワークショップ】  
（「ハワイと南の島々展」 会期：2018年1月18日～5月27日）  
2018年4月14日（土）  
「座ったままでもできるフラ♪」  
「はじめてのフラー1曲踊れるようになる」  
フラダンサー 古賀まみ奈 氏

（「悪人か、ヒーローか」 会期：2018年6月6日～9月5日）  
2018年8月9日（木）  
「親子で楽しむ！悪人 or ヒーロー」  
東洋文庫研究員 篠木 由喜 氏

（製本体験シリーズとして人気のワークショップリバイバル）  
2018年10月14日（日）  
「ご朱印帳をつくろう♪」  
東洋文庫研究員 篠木 由喜 氏



## 【イベント】

「[ハワイと南の島々展] 会期：2018年1月18日～5月27日)

2018年5月3日(木)

「ハワイ DAY！」

東京大学フラサークル KaWelina

フラダンサー

古賀まみ奈 氏

ハワイアンミュージシャン

西里 慶 氏

## (6) 各種研究会・講演会開催

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会数	26	24	30	32	10	21	28	26	27	21	26	31	302
参加人数	190	176	312	297	49	140	202	222	298	212	142	222	2,462

## (7) 研究情報の普及

研究情報を普及するため、機関リポジトリ「ERNEST」(<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp>)。「1. アジア基礎資料研究」p.65に既出)、OPAC システム (<http://tbopac.toyo-bunko.or.jp>) を管理・運営した。

## B. データベース公開

2018年4月1日～2019年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ(日本語・英語)に対するオンライン検索アクセス状況については、Ⅱ 図書事業のグラフ(p.42)に示す通りである。

## C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

### 〈長期受入〉

#### (1) 外来研究員の受入

フランソワ・ラショー(フランス国立極東学院東京支部長)

「近世日本の美術史・宗教(蒐集家と文人のネットワーク、黄檗文化等)」



「近世期の東アジアの交流史（日本・中国・ロシア・西欧）」

（2017年3月15日～2021年3月31日）

張 新超（西南大学歴史文化学院民族学院専任講師）

「秦漢地方行政制度、秦漢法制史、出土文献」

（2017年9月1日～2018年8月31日）

〔受入担当：池田 雄一〕

ティモシー・ブルック（ブリティッシュコロンビア大学教授）

「13世紀から20世紀にかけての世界史の中の中国」

（2018年4月17日～2018年5月17日）

〔受入担当：濱下 武志〕

呉 真（中国人民大学中文系副教授）

「中国古代戯曲演劇史」

（2018年7月3日～2018年9月6日）

〔受入担当：田仲 一成〕

陶 徳民（関西大学文学部教授）

「近世近代日本漢学思想史・近代東アジア文化交渉史」

（2019年2月28日～2019年3月12日）

〔受入担当：斯波 義信〕

徐 淳（マックス・プランク研究所科学史部門ポストドクトラルフェロー）

「中国災害史・環境史・知の歴史」

（2019年2月18日～2019年3月29日）

〔受入担当：斯波 義信〕

(2) 2018年度日本学術振興会特別研究員 PD・RPD の受入

なし

(3) 2018年度嘱託研究員の採用



相原 佳之〔継続〕

研究課題「中国明清時代環境史」に取り組みつつ、総合アジア圏域研究班・現代中国研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため、研究データベースの構築等に従事した。

太田 啓子〔継続〕

研究課題「アラビア半島・紅海文化圏の歴史」に取り組みつつ、総合アジア圏域研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため、国際シンポジウム等を通じた国際交流事業に従事した。

小澤 一郎〔継続〕

研究課題「近現代西アジア軍事社会史」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため、欧文刊行物の編集・校閲に従事した。

中村 威也〔継続〕

研究課題「中国古代地域社会／非漢族研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため、和文刊行物の編集・校閲に従事し、かつその豊富な学術刊行物編集経験を東洋文庫の内外に対して普及させることに努めた。

徐 小潔〔新規〕

研究課題「近代日中関係史、コディコロジー」に取り組みつつ、総合アジア圏域研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため、紙質調査・古地図研究に取り組んだ。また、普及展示部に所属し、ミュージアム企画展示等に従事した。

#### (4) 2018年度奨励研究員の受入

関 智英〔新規〕

科学研究費基盤研究(C)「近代日中関係の対外宣伝と相互理解をめぐる摩擦と模索—『順天時報』の分析を通して」(研究代表者：青山治世亜細亜大学准教授)の研究分担者として参画した。

中塚 亮〔新規〕

研究課題「明代小説『封神演義』の研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため、図書事業に参画した。

多々良圭介〔新規〕

研究課題「清代文書資料を中心とした諸文献の紙質をめぐる研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため、研究事業、とくに紙質調



査に参画した。

# 〈外国人研究者への便宜供与〉

各国より東洋文庫を訪問する外国人研究者に対し、調査研究上必要とされる便宜供与を行った。

## Austria

Georg Gartner [ウィーン工科大学国際地図学会]

## China

黒 龍 [大連民族大学教授] (他 5 名)  
 Gege Wang [Nanjing University] (他 7 名)  
 定 源 [厦門閩南仏学院学術顧問] (他 3 名)  
 楊 早 [中国社会科学院文学研究所教授]  
 劉 玉 [武漢大学国際地図学会]  
 尤 陳俊 [中国人民大学法学院副教授]  
 黎 俊忻 [広州市図書館《広州大典》編纂部《広州大典》数拠庫編集]  
 ガザンジェ [青海民族大学民族学与社会学学院准教授] (他 1 名)  
 毛 久燕 [浙江海洋大学東海発展研究院助理研究員] (他 1 名)  
 張 文明 [華東師範大学教授] (他 2 名)  
 王 海光 [華東師範大学教授] (他 4 名)  
 徐 晟氏 [古代史研究者]  
 陳 健梅 [浙江大学歴史学院准教授] (他 3 名)  
 陳 侃理 [北京大学歴史系副教授]  
 田 天 [首都師範大学副教授] (他 2 名)

## Czech

Vít Voženílek [パラツキー大学オロモウツ国際地図学会]

## England

デイヴィッド・フォレスト [グラスゴー大学国際地図学会]  
 Jose Ignacio SANCHEZ [Warwick University, Great Britain Research Fellow]



France

Randi DEGUILHEM [CNRS, TELEMMe-MMSH/AMU, ix-en-Provence Professor]

Annick HORIUCHI [パリ第七大学教授]

Germany

モニカ・シスター [ハノーバーライプニッツ大学国際地図学会]

Tillmann LOHSE [Humboldt University, Berlin Privatdozent and adjunkt] (他 1 名)

Robert GARRIS [Schwarzman Scholars Program]

Hungary

ラズロー・ゼンタイ [エトヴェーズ大学国際地図学会]

Korea

Hyun Jong NOH [Seoul National University] (他 1 名)

Mongolia

S. CHULUUN [Institute of History MAS. Mongolia, Ulaanbaator Doctor. Sc. D.] (他 3 名)

Netherlands

メノ・ジャン・クラック [トゥエンテ大学国際地図学会会長]

Singapore

Ian ROWEN [Assistant Professor of Nanyang Technological University]

Hyo Kyung Woo [Nanyang Technological University]

Spain

ピラール・サンチェス・オルティス・ロドリゲス [スペイン・ナショナルジオグラフィック研究所国際地図学会]

Taiwan

呉 蕙芳 [国立台湾海洋大学海洋文化研究所教授]



雷 祥麟 [中央研究院近代史研究所副研究員]

#### USA

Wei-ti CHEN [Fairbank Center for Chinese Studies at Harvard University] (他 2 名)

リン・ユーズリー [米国地質調査所国際地図学会]

Sybille JAGUSCH [アメリカ議会図書館児童書部門主任司書] (他 1 名)

Martha TEDESCHIT [Harvard Art Museums]

James ULAK [フリーア美術館]

Thomas LEE [ニューヨーク大学名誉教授] (他 1 名)

#### Vietnam

Khue Dieu DO [Seoul National University]

Ngo Xuan CONG [日越大学大学院修士課程地域研究プログラム院生] (他 1 名)

ディン・クアン・ハイ [ベトナム社会科学アカデミー史学研究所所長・教授] (他 2 名)

以上

#### D. 国際交流

フランス国立極東学院および中央研究院(台湾)、ハーバード・エンチン研究所(アメリカ)、アレキサンドリア図書館(エジプト)、イラン議会図書館、SOAS(イギリス)、ベトナム社会科学院漢喃研究所、マックス・プランク研究所(ドイツ)、国際テュルク・アカデミー(カザフスタン)との学術交流を進め、資料・情報の交換と研究者の相互訪問を継続的に実施した。

なかでもハーバード大学アジア研究図書資料館であるハーバード・エンチン研究所とは、2010年10月に交流協定を結び、資料交流・人材交流のみにとどまらず、共同研究ならびにそれらを通じた若手人材育成を共同で行う取り組みを開始しており、それらを一層推進した。また、中央研究院とは、新たに近代史研究所との間で、研究データベースの連携を中心に据えた交流協定を締結するべく調整を進めた。

世界各地からアジア基礎資料研究に取り組む外国人研究者を招聘して、総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Old Maps in Asia: Basic Information and



Perspective for New Research”（12月8日・9日開催）等を通じた国際学術交流を推進した。その窓口に若手研究者を携わらせることで、最新の研究動向の把握や国際的な人脈形成等を支援し、国際的に活躍可能な人材の育成に取り組んだ。

#### 4. 研究員等の研究業績

期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

略号：①…雑誌論文 ②…図書 ③…学会発表

會谷 佳光

- ①「公益財団法人東洋文庫所蔵明版水経注三種」（『水経注疏訳注（穀水篇）（東洋文庫論叢第82）』別冊，1～7頁，（公財）東洋文庫，2019年3月）。

相原 佳之

- ① “Forests as commons in early modern China: an analysis of legal cases”, Masayuki Tanimoto, R. Bin Wong eds., *Public Goods Provision in the Early Modern Economy: Comparative Perspectives from Japan, China and Europe*, pp. 276–291, Oakland: University of California Press, Jan. 2019.
- ①「清朝～中華民国期における植林の奨励と民衆の林野利用」（松沢裕作編『森林と権力の比較史』，39～78頁，勉誠出版，2019年2月）。
- ①「東洋文庫等での東洋史学コースの学外研修の教育的効果について」（『国士館人文学』，〈小川快之，中村威也〉，第9号（通巻51号），81～100頁，国士館大学文学部人文学会，2019年3月）。
- ①「嘉慶四（1799）年三月上諭訳注：清朝嘉慶維新研究序説」（『信州大学人文科学論集』，〈豊岡康史，村上正和，李侑儒〉，第6号（通巻52号），183～204頁，信州大学人文学部，2019年3月）。
- ①「民間文書の収集保存と地域資源化：貴州省東南部錦屏県における清水江文書」（山田敦士編『中国雲南の書承文化：記録・保存・継承（アジア遊学231）』，191～206頁，勉誠出版，2019年3月）。

青木 敦

- ①「宋代法制史料」（山本英史編『中国近世法制史料読解ハンドブック』，



1～51頁, (公財) 東洋文庫, 2019年3月).

青山 治世

- ①小单元「多元共存社会の模索と実現：清の東部ユーラシア統治を通して」(「歴史的事象の特性を基盤とした社会科における必修单元「シティズンシップ」の開発研究」科研費成果報告書, 51～57(+3) 頁, 2019年3月, [科学研究費補助金 基盤研究 (B)「歴史的事象の特性を基盤とした社会科における必修单元「シティズンシップ」の開発研究」, 課題番号：15H03495, 研究代表者：戸田善治]).
- ①「日系中国語新聞『順天時報』と近代東アジアにおけるナショナリズムの相剋：新聞観と新聞法規への態度を手がかりに」(『2018年度大学研究助成アジア歴史研究報告書』, 1～16頁, JFE21世紀財団, 2019年3月).
- ③「「日本の衝撃」と清の対外関係の模索と変容：1870-80年代を中心に」(東アジア近代史学会2018年度第23回研究大会シンポジウム「変動する東アジア世界のなかの明治維新：『適応と挑戦』の相互力学を再検証」, 於：国士舘大学, 2018年6月17日).
- ③「清朝在朝鮮領事裁判規定的成立和変遷：從“宗藩・単務”關係到“対等・双務”關係的轉變」(第七届近代中外關係史國際學術研討会：区域視野下的近代中外關係, 於：武漢大学, 2018年10月14日, [主催：中国社会科学学院近代史研究所中外關係史研究室・武漢大学歴史学院]).
- ③「再構築される『冊封・朝貢体制』：19世紀後半中国史からの視点」(シンポジウム「歴史のなかの中越關係：ベトナムの『小中華性』と『南国意識』の再検討」, 於：東京外国語大学, 2018年12月15日, [主催：科学研究費補助金 基盤研究 (B)「近現代ベトナムにおける中国プレゼンスの諸相：連環人文学的ベトナム地域研究」, 課題番号：17H02229, 研究代表者：今井昭夫]).

青山 瑠妙

- ①「中朝の「伝統的友好」は復活するか」(『外交』, Vol. 49 (May/Jun. 2018), 50～55頁, 外務省, 2018年5月).
- ①“Japan’s Balancing Act Tours Beijing”, *East Asia Forum*, East Asia Forum, 25 Oct. 2018, [http://www.eastasiaforum.org/2018/10/25/japans-balancing-act-tours-beijing].
- ①「中国への関与政策は失敗したのか：中国と米国, EU そして日本」(『日



中経協ジャーナル』, 2018年10月号 (No. 297), 10～13頁, 日中経済協会, 2018年10月).

① “China’s Public Diplomacy towards Southeast Asian Nations”, *Contemporary Japan and East-Asian Studies*, Vol. 3, No. 1, Society for Contemporary Japan and East-Asian Studies, 1 Jan. 2019, [<http://jeast.ioc.u-tokyo.ac.jp/pdf/20190101-01-en.pdf>].

① 「ハイテク冷戦下の日中関係」(『日本与亜太研究』, 第3巻第1期, 206～215頁, 当代日本研究学会, 2019年1月).

#### 秋葉 淳

① “Sharī‘a Judges in the Ottoman Nizāmiye Courts, 1864–1908”, *Osmanlı Araştırmaları (The Journal of Ottoman Studies)*, 51, pp. 209–237, İstanbul 29 Mayıs Üniversitesi ile İSAM, 2018.

③ “Writing History, Writing Documents: Self-representation of an Eighteenth Century Ottoman Historian-cum-Judge”, CMES Sohbet-i Osmani Lecture Series, The Center for Middle Eastern Studies, Harvard University, 23 Apr. 2018.

③ “The Judiciary and Fiscal Transformation in the Ottoman Empire, 1700–1839”, Seminar talk, Department of History, Stanford University, 29 May 2018.

③ “Seeking Selves in Ottoman Archival Documents: Şemdanizâde Fındıklılı Süleyman and His Court Records”, 5th World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), University of Seville, 19 July 2018.

③ “Muallimhane-i Nüvvab’dan Mekteb-i Kuzat’a: Osmanlı Kadı Okulunun Yarım Yüzyıllık Serüveni”, Sahn-ı Semân’dan Dârülfünûn’a Osmanlı’da İlim ve Fikir Dünyası: 19. Yüzyıl, Âlimler, Müesseseler ve Fikrî Eserler, Zeytinburnu Belediyesi: İstanbul Üniversitesi İlahiyat Fakültesi, 20 Dec. 2018.

#### 浅田 進史

① 「コラム⑬ 植民地責任論」(日本植民地研究会編『日本植民地研究の論点』, 252～255頁, 岩波書店, 2018年7月).

#### 浅野 秀剛

① 「武者絵から戦争絵へ: 転機となった明治7年」(『資料集 西南戦争浮世絵』, 4～7頁, 海の見える杜美術館, 2018年7月).

① 「描かれた深川の遊所」, 「絵画のなかの隅田川」(池享・桜井良樹・陣内



秀信・西木浩一・吉田伸之編『みる・よむ・あるく東京の歴史5：地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』, 98～103頁, 122～127頁, 吉川弘文館, 2018年11月).

①「世界でも有数のたぐいまれなる肉筆浮世絵コレクション」(別冊太陽編集部編『フリーア美術館：アメリカが出会った日本美術の至宝 (別冊太陽日本のこころ269)』, 116頁, 平凡社, 2018年12月).

①「フリーア美術館の北斎の肉筆画」(スミソニアン協会フリーア美術館著『北斎の肉筆 HOKUSAI's Brush スミソニアン協会フリーア美術館コレクション』, 146～151頁, 青幻舎, 2018年12月).

③「北斎の点印と特製用箋」(第1回国際北斎学会, 於：池坊東京会館, 2019年2月9日).

#### 荒川 正晴

①(殷盼盼訳)「粟特人与高昌国麹氏王室」(劉進宝主編『絲路文明』, 第3輯, 27～42頁, 上海古籍出版社, 2018年9月).

①「ソグド人の交易活動と香料の流通」(『古代東ユーラシア研究センター年報』, 第5号, 29～48頁, 専修大学社会知性開発研究センター, 2019年3月).

②『中央ユーラシア史研究入門』(〈小松久男, 岡洋樹〉, 山川出版社, 2018年, 413頁, [執筆部分：第I部第2章「オアシス都市の発展：古代～前モンゴル期」, 33～52頁]).

③「ソグド人の交易活動と香木の流通：法隆寺伝来の香木と中央アジア出土文書を手がかりとして」(「古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本」2018年度第8回シンポジウム「古代東ユーラシアの国際関係と人流」, 於：専修大学神田校舎, 2018年7月14日, [専修大学社会知性開発研究センター, 古代東ユーラシア研究センター主催]).

③「シルクロード交易と香料の流通」(平成30年度第136回懷徳堂秋季講座「新しい世界史の探究：前近代世界」, 於：大阪大学中之島センター, 2018年11月17日).

#### 飯島 明子

①“‘The Invention of ‘Isan’ History’”, *Journal of the Siam Society*, Volume 106, pp. 171–200, The Siam Society, 2018.

①「シェンケン文書：西北ラオスにおけるタム文字の使用」(山田敦士編



『中国雲南の書承文化：記録・保存・継承（アジア遊学231）』、207～211頁、勉誠出版、2019年3月）。

#### 飯島 武次

- ①（徐漫晨訳、吉野彩美校訳）「西周陶器の分期研究：豊鎬地区の陶器」（中国社会科学院考古研究所、陝西省考古研究院、西安市周秦都城遺址保護管理中心編著『豊鎬考古八十年：資料篇』、621～640頁、科学出版社（北京）、2018年5月）。
- ①「春秋戦国時代秦王陵の被葬者と変遷」（『駒沢史学』、第91号、181～196頁、駒沢史学会、2018年12月）。
- ③「東周時代秦国大型墓の葬制および被葬者名」（日本考古学協会第84回（2018年度）総会、於：明治大学駿河台キャンパス、2018年5月26日、[『日本考古学協会第84回総会研究発表要旨』、80～81頁、日本考古学協会、2018年5月]）。
- ③「商後期文化第一期と殷墟文化第一期的思考」（中国考古学研究・第二屆中日論壇、於：四川大学（成都市）、2018年10月21日）。
- ③「関于大堡子山秦公3号墓和2号墓的墓主」（第二届中国考古学大会、於：金牛賓館（成都市）、2018年10月23日、[主催：中国考古学会、中国社会科学院考古研究所]）。

#### 飯島 渉

- ①“A Hidden Journey of Insect Flower: Globalization of Pyrethrum in the Twentieth Century”（『青山史学』、第37号、1～6頁、青山学院大学文学部史学科研究室、2019年2月）。
- ②『感染症と私たちの歴史・これから（歴史総合パートナーズ4）』（清水書院、2018年、92頁）。
- ③“Historicalization of Tropical Medicine: Archiving of the Basic Materials of Japanese Tropical Medicine and Parasitic Disease Studies”（第59回日本熱帯医学会大会、於：長崎大学医学部坂本キャンパス、2018年11月11日）。
- ③「感染症アーカイブズと歴史疫学の世界：寄生虫症の制圧をめぐる資料の整理・保存・公開をめぐって」（第88回日本寄生虫学会大会、〈市川智生、井上弘樹〉、於：長崎大学医学部坂本キャンパス、2019年3月15日）。



石川 寛

- ①「前期チャールキヤ朝史の再検討（その3）：3代王マンガレーシャ時代の社会と文化を中心に」（『東洋学研究』，第56号，85～101頁，東洋大学東洋学研究所，2019年3月）。
- ②「独立前後のカナダ文学」（「南アジア多言語社会における複合文化の中の文学伝承」科研費中間成果報告書，67～78頁，東京外国語大学，2019年3月，[科学研究費補助金 基盤研究（B）「南アジア多言語社会における複合文化の中の文学伝承」，課題番号：16H03410，研究代表者：水野善文]）。
- ③「前近代デカンの国家と社会：カダンバ朝とその分派を中心に」（南アジア地域研究 京都大学中心拠点（KINDAS）研究グループ1-A「南アジアの長期発展経路」第1回研究会，於：京都大学，2019年2月10日）。

石川 重雄

- ①「『中国社会経済史用語解』班」（『東洋見聞録』，第23号，12～13頁，（公財）東洋文庫，2019年1月）。
- ②「清末・民国期における巡礼ガイドブックと杭州寺院」（『アジア文化研究所研究年報』，53号，67～86頁，東洋大学アジア文化研究所，2019年2月）。
- ③「浙江西部・福建北東部歴史調査報告：宋代古墓を中心として」（『東京大学経済学部資料室年報』，〈佐々木愛，大澤正昭，戸田裕司，小川快之〉，第9号，47～62頁，東京大学経済学部資料室，2019年3月）。
- ④「宋代的聖節与仏教教団：以理宗朝之实例為主」（2018年杭州文史論壇暨中国南宋史及南宋都城臨安国際学術研討会，於：浙江梅地亜賓館（杭州市），2018年8月12日）。
- ⑤「清末・民国期的進香指南書与杭州寺院」（第四屆東亜文献与文学中的仏教世界国際学術研討会，於：徑山寺大慧苑（杭州市），2018年9月23日）。

磯貝 健一

- ③「法廷に持ち込まれた「家族」の問題，または，「家族」内の紛争：ロシア帝国領中央アジアのファトワー文書を材料とした試論」（第10回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会，於：奈良女子大学，2018年7月29日，[英文タイトル：The Family Issues or Family Disputes Brought into Sharī'a Courts of the Russian Turkestan]）。



今西 祐一郎

- ②『源氏物語（四）玉鬘—真木柱（岩波文庫黄15-13）』（〈柳井滋，他4名〉，岩波書店，2018年，656頁）。
- ②『源氏物語（五）梅枝—若菜下（岩波文庫黄15-14）』（〈柳井滋，他4名〉，岩波書店，2019年，656頁）。

上野 英二

- ①「源氏物語と長恨歌 其九」（『成城国文学論集』，41，167～182頁，成城大学大学院文学研究科，2019年3月）。

内山 雅生

- ②『中国農村社会の歴史的展開：社会変動と新たな凝集力』（御茶の水書房，2018年，34+263頁）。
- ③「近年来中国農村調査研究の現状と課題」（国際シンポジウム「近現代中国農村の社会環境と新農村建設」，於：（公財）東洋文庫，2018年11月23日）。

宇山 智彦

- ①「中央アジア：カザフ草原とトルキスタン」（小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』，229～239，242～251頁，山川出版社，2018年4月）。
- ①「中央アジアと中国の関係の現実的な理解のために」（『東亜』，No. 618（2018年12月号），30～38頁，霞山会，2018年12月）。
- ①“Политическая стратегия Алаш-Орды во время гражданской войны: сравнение с национально-культурной автономией тюрко-татар”，*Личность, общество и власть в истории России: сборник научных статей*, pp. 260–271, Новосибирск: Изд-во СО РАН, 2018.
- ①「進化する権威主義：なぜ民主主義は劣化してきたのか」（『世界』，2019年4月号（no. 919），89～96頁，岩波書店，2019年3月）。
- ②『現代中央アジア：政治・経済・社会』（〈樋渡雅人〉，日本評論社，2018年，304頁）。

江川 ひかり

- ①「遊牧民女性の技と記憶：西北アナトリア，ヤージュ・ベディルの人びととの交流から」（ウェルズ恵子編『ヴァナキュラー文化と現代社会』，159



～177頁，思文閣出版，2018年4月）。

- ①「世紀末イスタンブールの「声」と「文字」：オスマン近代演劇ポスター印刷の現場を掘り起こす」（『お茶の水史学』，第62号，229～244頁，お茶の水女子大学文教育学部人文科学科比較歴史学コース内読史会，2019年3月）。
- ③ “Panel : Changes in Nomadic Lifestyles and the Their Future: The Comparative Study of Nomadic Societies in Turkey, Kyrgyzstan and Mongolia”, The 7th International Altay Communities Symposium, Ulaanbaatar: Mongolian University of Science and Technology, 8 Aug. 2018, [Panel Leader. Abstracts p. 9].
- ③ “A Nomad, ‘Mukataa’ Register of the Ottoman Period”, 23rd Symposium of the Comité International des Études Pré-Ottomanes et Ottomanes (CIÉPO), 〈İlhan ŞAHİN〉, Sofia: New Bulgarian University and American University in Bulgaria, 12 Sept. 2018.
- ③ “1830 Düzce ve Üskübü (Konuralp/Konrpa) Nüfus Defterleri Arasında Bir Gezinti”, International Symposium of Konur Alp Gazi and History of Duzce, 〈İlhan Şahin〉, İstiklal Konferans Salonu, Düzce Üniversitesi, 23 Nov. 2018.

## 江南 和幸

- ① “Encounter of Japanese paper with Europeans: From Portuguese Jesuit Missionaries to Rembrandt”, 〈SAKAMOTO Shoji, OKADA Yoshihiro, TOYOSHIMA Masayuki, ISHIZUKA Harumichi, Elena SHISHKOVA, Roman GRIGORYEV〉, *IPH Congress Book 2014*, Volume 20, pp. 111–122, International Association of Paper Historians, Dec. 2018, [2014 IPH International Congress にて発表。2018年12月に Full Text 出版]。
- ③ 「東洋文庫モリソンコレクションの最初期「東方見聞録」ヨーロッパ各国語刊本の印刷と紙」（日本文化財科学会第35回大会，〈徐小潔，橘伸子，岡田至弘〉，於：奈良女子大学，2018年7月7～8日）。
- ③ “New Aspect of Codicology: With Scientific Analysis of Paper of Historically Important Documents and Books of the Ancient to Premodern Eras”, El’Manuscript 2018, 7th International Conference on Textual Heritage and Information Technologies, 〈OKADA Yoshihiro, ISHIZUKA Harumichi, XU Shaojie〉, Krems, Austria, 17 Sept. 2018.
- ③ “The history of Chinese paper as witnessed by paper itself: Scientific analysis of paper used for Chinese manuscripts, documents and books from the ancient to



premodern eras preserved in Japan”, Chinese Paper as Writing Support: Terminology and Standards, (ISHIZUKA Harumichi, AKAO Eikei, OKADA Yoshihiro), University of Hamburg, 13 Dec. 2018, [A workshop hosted by The Centre for the Study of Manuscript Cultures, University of Hamburg].

③「大谷コレクション古文書用紙分析が明かす中央アジア諸民族の文化的発展の足跡」(龍谷大学創立380年記念イベント国際シンポジウム「西域桃源：大谷探検隊から見たクチャの仏教文化」, 於：龍谷大学, 2019年2月23日, [主催：龍谷大学世界仏教文化研究センター（西域総合研究班）・龍谷大学古典籍デジタルアーカイブ研究センター]).

## 大川 謙作

①(翻訳)「ペマ・ツェテン著『赤いネッカチーフ』」(『チベット文学と映画製作の現在 SERNYA (セルニャ)』, vol. 6, 29～39頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2019年3月).

①「失われた辞典：青海藏文研究社と中国チベット学黎明期の一断章」(『チベット文学と映画製作の現在 SERNYA (セルニャ)』, vol. 6, 93～124頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2019年3月).

①「チュシュル・テンバ・ツェリンとチベット神霊論」(『チベット文学と映画製作の現在 SERNYA (セルニャ)』, vol. 6, 164～174頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2019年3月).

③ “As a Blurring Genre: Current State of the Study on Modern Tibetan Literature in Japan” (首届藏学交流工作坊, 於：中国人民大学(北京市), 2018年6月17日).

## 大河原 知樹

②『オスマン民法典(メジェッレ)の研究：保証編・債務引受編』(堀井聡江, シャリーアと近代研究会編), 東北大学大学院国際文化研究科大河原研究室, 2019年, iii+40頁).

③ “Brief introduction of the project ‘Japanese translation of Mecelle’”, Second Comparative Workshop on Legal Transformations in 19th and early 20th Century Japan, China, and the Ottoman Empire, Max-Planck-Institut für Europäische Rechtsgeschichte, 28 Mar. 2019.



大里 浩秋

- ①「中研70年史（その11）所内報から見る中研の活動状況（5）」（『中国研究月報』、第72巻9号（847号）、30～38頁、中国研究所、2018年9月）。
- ②『中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」（神奈川県人文学研究叢書42）』（孫安石編）、東方書店、2019年、360頁）。
- ③「中国人日本留学史研究について」（「留学生と中国の現代化：紀念鄧小平擴大派遣留学生講話發表40周年」国際学術研討会、於：江蘇師範大学（徐州市）、2018年5月19日、[關於日本の中国人日本留学史研究]）。
- ③「横浜中華街の歴史を通して日中関係を考える」（神大シルバー21連続講演会「昭和を振り返る：戦後社会の変遷」、於：神奈川大学横浜キャンパス、2018年11月22日）。
- ③「文革に対する当初の反応：中国研究所を例として」（「中国 文化大革命を振り返る：日本人はどう受けとめたのか」シンポジウム（神奈川大学非文字資料研究センター2018年度第4回公開研究会）、於：神奈川大学横浜キャンパス、2019年2月2日）。

大澤 顯浩

- ①「ギメ美術館図書館所蔵の東アジア関係地図について：ヴィシエール・コレクションを中心にして」（『言語・文化・社会』、第17号、33～61頁、学習院大学外国語教育研究センター、2019年3月）。
- ③“Landscape-style Maps in Early Modern China”, Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research, Toyo Bunko, 8 Dec. 2018, [The Seventh International Symposium of Inter-Asia Research Networks].

大澤 肇

- ①「汪兆銘南京国民政府下における学校教育の展開」（『東洋史研究』、第77巻第4号、108～136頁、東洋史研究会、2019年3月）。
- ③「中国研究のための情報源のアクセスの現状と図書館に期待する役割」（平成30年度アジア情報関係機関懇談会、於：国立国会図書館関西館、2019年2月22日）。

大澤 正昭

- ①「明代日用類書の法制史関係史料：告訴状指南を例に」（山本英史編『中国近世法制史料読解ハンドブック』、157～195頁、（公財）東洋文庫、2019



年3月, [科学研究費補助金 基盤研究 (C)「宋～明代日用類書の基礎的研究」, 課題番号: 15K02923, 研究代表者: 大澤正昭]).

②杉浦廣子編『明代日用類書研究論文・著作目録稿』((公財) 東洋文庫, 2019年, 21頁, [監修, 科学研究費補助金 基盤研究 (C)「宋～明代日用類書の基礎的研究」, 課題番号: 15K02923, 研究代表者: 大澤正昭]).

②『新刻天下四民便覧三台万用正宗』卷八律例門(上層)「招擬指南」訳注稿(試行版 Ver. 1)((公財) 東洋文庫研究部ホームページ, (公財) 東洋文庫, 2019年, 42頁, [科学研究費補助金 基盤研究 (C)「宋～明代日用類書の基礎的研究」, 課題番号: 15K02923, 研究代表者: 大澤正昭]).

②『新刻天下四民便覧三台万用正宗』卷八(下層)律例門訳注稿(改訂版 Ver. 1)((公財) 東洋文庫研究部ホームページ, (公財) 東洋文庫, 2019年, 89頁, [科学研究費補助金 基盤研究 (C)「宋～明代日用類書の基礎的研究」, 課題番号: 15K02923, 研究代表者: 大澤正昭]).

③「地域のボスを告訴するには: 告訴状作成ガイドを読む」((公財) 東洋文庫2018年度前期東洋学講座, 於: (公財) 東洋文庫, 2018年7月6日, [『東洋学報』, 第100巻第2号, 72～74頁, (公財) 東洋文庫, 2018年9月]).

## 太田 啓子

①「14-16世紀のメッカのウラマー: ファフド家の事例から」(『お茶の水史学』, 第62号, 173～187頁, お茶の水女子大学文教育学部人文科学科比較歴史学コース内読史会, 2019年3月).

## 岡崎 礼奈

②『悪人か, ヒーローか: Villain or Hero』((公財) 東洋文庫, 2018年, 29頁, [項目執筆:「水滸伝②」, 「歴史のなかの悪人 or ヒーロー 日本編」, 「歴史のなかの悪人 or ヒーロー 西アジア・ヨーロッパ編」, 「悪を裁く! さまざまな刑罰」, 「人ならざる「悪」を描く」, 5～11, 15～19]).

②『大♡地図展: 古地図と浮世絵』((公財) 東洋文庫, 2018年, 33頁, [項目執筆:「はじめに:「日本地図」史と世界で描かれた日本図」, 「伊能忠敬, 日本を測る」, 「地図, 地誌でめぐる江戸時代の日本」, 「江戸: 地図に刻まれた都市の記憶」, 1～3, 5, 7, 12, 15]).

②『マハトマ・ガンディー生誕150周年記念 インドの叡智展』((公財) 東洋文庫, 2019年, 32頁, [項目執筆:「インドの歴史: ヒンドゥー教の確立と仏教の衰退」, 「インドの食」, 1, 5, 10, 22, 28]).



岡野 誠

- ①「巻頭言」(唐代史研究会編『唐代史研究』, 第21号, 1～2頁, 2018年8月).
- ①(趙晶訳)「有関唐代平闕式的一个考察(下): 以対敦煌写本《唐天宝職官表》的検討为中心」(中国政法大学法律古籍整理研究所編『中国古代法律文献研究』, 第12輯, 283～322頁, 社会科学文献出版社(北京), 2018年12月).

岡本 隆司

- ①「長崎の聖堂と孔子廟: 日中の近世と近代」(『史林』, 第101巻第6号, 109～126頁, 史学研究会, 2018年11月).
- ②『近代日本の中国観: 石橋湛山・内藤湖南から谷川道雄まで(講談社選書メチエ679)』(講談社, 2018年, 232頁).
- ②『世界史序説: アジア史から一望する(ちくま新書1342)』(筑摩書房, 2018年, 272頁).
- ③「『東方問題』から『朝鮮問題』へ: 宗主権をめぐる国際法と翻訳概念」(第18回日韓歴史家会議「国際関係: その歴史的考察」, 於: ホテルサンルート有明, 2018年11月17日).

小川 快之

- ①「浙江西部・福建北東部歴史調査報告: 宋代古墓を中心として」(『東京大学経済学部資料室年報』, 〈佐々木愛, 大澤正昭, 石川重雄, 戸田裕司〉, 第9号, 47～62頁, 東京大学経済学部資料室, 2019年3月, [担当 四: 真徳秀墓, 真西山故居(真西山祠址)]).
- ①「碑刻資料」(山本英史編『中国近世法制史料読解ハンドブック』, 321～353頁, (公財)東洋文庫, 2019年3月).
- ①「東洋文庫等での東洋史学コースの学外研修の教育的効果について」(『国士館人文学』, 〈中村威也, 相原佳之〉, 第9号(通巻51号), 81～100頁, 国士館大学文学部人文学会, 2019年3月).
- ②(趙晶編訳)『伝統中国の法と秩序: 從地域社会的視覚出發』(元華文創股份有限公司(台北), 2018年, 344頁).
- ③“Court Ladies and Gender from the Song Dynasty to the Qing Dynasty”, (22nd Annual Asian Studies Conference Japan(第22回日本アジア研究学会), 於: 国



際基督教大学, 2018年 6 月30日).

#### 尾崎 文昭

①書評「中国の荒誕な現実と機知で抵抗する民間の声を伝える：余華著／飯塚容訳『中国では書けない中国の話』河出書房新社」(『東方』, 447号, 29～33頁, 東方書店, 2018年 4 月).

#### 小澤 一郎

①「シャイフ・ウバイドゥッラーの「反乱」：変動するオスマン・ガージャール国境地域とクルド社会」(山口昭彦編著『クルド人を知るための55章 (エリア・スタディーズ170)』, 明石書店, 2019年 1 月).

①“Transfer of Small Arms from Great Britain to Iran (Persia) in the Nineteenth Century”, Angela Schottenhammer ed., *Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean World*, Volume I: Commercial Structures and Exchanges, pp. 239–257, Palgrave Macmillan, Feb. 2019.

①「姿を現すシャー：ガージャール朝イランにおける君主像の表象」(歴史学研究会編, 加藤陽子編集責任『天皇はいかに受け継がれたか：天皇の身体と皇位継承』, 績文堂出版, 2019年 2 月).

③「19世紀末イランの兵員簿の検討：イランにおける「軍隊の社会史」研究に向けて」(日本オリエント学会第60回大会, 於：京都大学, 2018年10月14日).

③「近代イランにおける「軍隊と社会の歴史」試論：ガージャール朝軍事史再考の試み」(早稲田大学高等研究所セミナーシリーズ【新しい世界史像の可能性】公開講演会, 於：早稲田大学, 2018年12月15日).

#### 小田 壽典

①“Another story on the Chinese Bayangjing from the Dunhuang Cave Library”, Zekine Özüertural, Gökhan Şilfeler (Hg.), *Unter dem Bodhi-Baum*, pp. 235–246, Goettingen: V & R unipress GmbH, 2019, [出版記号：ISBN Print：9783847109327, ISBN E-Book：9783847009320].

#### 小名 康之

①「オランダ東インド会社へのムガル皇帝ジャハーンダール・シャー名のファルマーン (1712年)」(『青山史学』, 第37号, 9～19頁, 青山学院大学



文学部史学科研究室, 2019年2月).

#### 小沼 孝博

- ①「清代以降の新疆」(小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』, 199～214頁, 山川出版社, 2018年4月).
- ①“Dispatch of the Nusan Mission: The Negotiations between Qing and Ablay in 1757”, *GLOBAL-Turk*, #1-2 / 2018, pp. 55–74, International Turkic Academy (TWESCO), Jun. 2018.
- ①「清朝統一準噶爾及管轄制度設計」(『中国辺疆民族研究』, 〈呉阿木古冷〉, 第11輯, 210～234頁, 中央民族大学出版社(北京), 2018年11月).
- ①Book Review “Borderland Capitalism: Turkestan Produce, Qing Silver, and the Birth of an Eastern Market, written by Kwangmin Kim”, *Asian Review of World Histories*, Volume 7 (2019): Issue 1-2, pp. 284–288, Leiden: Brill, Jan. 2019.
- ①「清末ホウド地区における清朝統治の再編とカザフ人」(『東北学院大学論集 歴史と文化』, 第59号, 85～106頁, 東北学院大学学術研究会, 2019年3月).

#### 小野寺 史郎

- ①「デモクラシーとミリタリズム：民国知識人の軍事・社会観」(中村元哉編『憲政から見た現代中国』, 53～73頁, 東京大学出版会, 2018年5月).
- ①「德謨克拉西与軍国民主義：一戦後中国的軍事教育与兵制方案」(李在全主編『中華民国史青年論壇』, 第1輯, 115～130頁, 社会科学文献出版社(北京), 2018年9月).
- ①(翻訳)「汪朝光著「日中歴史共同研究報告」」(波多野澄雄・中村元哉編『日中戦争はなぜ起きたのか：近代化をめぐる共鳴と衝突』, 31～43頁, 中央公論新社, 2018年10月).
- ①「第一次世界大戦期の中国知識人と「愛国」の群衆心理：陳独秀を中心に」(『メトロポリタン史学』, 第14号, 27～50頁, メトロポリタン史学会, 2018年12月).

#### 糟谷 憲一

- ③「閔氏政権の成立とその歴史的背景」(2018年度第5回東京大学コリア・コロキウム, 於：東京大学本郷キャンパス, 2019年2月14日, [東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻主催]).



## 片山 剛

- ①「日中戦争期南京の諸相に関する時空間復元：未利用資料の活用による新研究」(『2018年度大学研究助成アジア歴史研究報告書』, 〈小林茂, 大坪慶之, 山本一, 倉田健吾, 楠田崇平〉, 17～86頁, JFE21世紀財団, 2019年3月).
- ①資料紹介「占領下南京「日本人街」の「領租証」について」(『近代東アジア土地調査事業研究 ニュースレター』, 第9号, 68～87頁, 大阪大学文学研究科片山剛研究室, 2019年3月).
- ②『清代珠江デルタ図甲制の研究』(大阪大学出版会, 2018年, 450頁).
- ③「コメント」(ワークショップ「宗族と水利から華北の「村」を再考する」, 於：大谷大学, 2019年2月9日, [科学研究費補助金 基盤研究(C)「前近代中国黄河中流域における水利権と水利組織」, 課題番号：15K02822, 研究代表者：井黒忍]).
- ③「尋找商品經濟進展前的中国農村面貌：以珠江三角洲的可買売土地・不可買売土地為例」(2019年第一次明代政経史料研読会, 於：国立台湾師範大学(台北市), 2019年3月16日, [主催：中国明代研究学会, 中央研究院明清研究推動委員會]).

## 加藤 恵美

- ①「「東アジア知のプラットフォーム」の背景」(早稲田大学地域・地域間研究機構編『ワセダアジアレビュー』, No. 21, 71～77頁, 明石書店, 2019年3月).
- ③「日本への留学生と彼らのその後：中国・韓国・台湾の比較の観点から(事例間の比較)」(日本国際文化学会第17回全国大会, 於：多摩大学, 2018年7月8日).
- ③“Screen Memories of War and Colonialism in Japan”, 2019 EU-Japan Forum, Institut d’études européennes, Université libre de Bruxelles, 12 Mar. 2019.

## 金沢 陽

- ①「中国陶磁における“格差”：官窯製品と民窯製品」(『貿易陶磁研究』, NO. 38, 5～16頁, 日本貿易陶磁研究会, 2018年9月).
- ①「中国貿易陶磁における, 他材質から陶磁への置き換え商品の意義」(『青山考古：合田芳正先生追悼号』, 第35号, 141～149頁, 青山考古学会, 2019



年3月)。

①「東シナ海海域史における漂流史料の可能性について：朝鮮王朝実録の一、二の史料から」(『明大アジア史論集：寺内威太郎先生退休記念号』、第23号、325～327頁、明治大学東洋史談話会、2019年3月)。

③「十七世紀前期の東シナ海陶磁交易：古染付の時代を中心に（関于“古染付”・“祥瑞”盗的実態）」(『東瀛異彩：明末日本来華訂造瓷特展』学術研討会、唐英学社（景德鎮市）、2018年10月18日)。

金丸 裕一

①「賀川豊彦による『中国』言説の一考察：日本プロテスタント史に定位する試み」(『賀川豊彦学会論叢』、第26号、72～101頁、賀川豊彦学会、2018年8月)。

①「中国における賀川豊彦を追跡する：「宋美齡のラジオ放送」伝説をめぐって（上）」(『あんげろす：明治学院大学キリスト教研究所ニュースレター』、第77号、3～5頁、明治学院大学キリスト教研究所、2018年12月)。

①「中国における賀川豊彦を追跡する：「宋美齡のラジオ放送」伝説をめぐって（下）」(『あんげろす：明治学院大学キリスト教研究所ニュースレター』、第78号、1～2頁、明治学院大学キリスト教研究所、2019年3月)。

③「『支那通』クリスチャンと日中戦争：内山完造と清水安三の働きをめぐって」(第69回キリスト教史学会大会、於：北陸学院中・高等学校（金沢市）、2018年9月15日)。

③「日中基督教関係史的幾個思考：戦争与信仰」(国立東華大学歴史学系学術專題演講107-1-10、於：国立東華大学（台湾花蓮県）、2018年12月4日)。

川合 安

①「南北朝の貴族制」(『歴史』、130輯、67～69頁、東北史学会、2018年4月、[2017年度東北史学会大会での学会発表])。

①(柴棟訳)「岡崎文夫的南朝貴族制理論」(中国中古史集刊編委会編『中国中古史集刊』、第5輯、17～27頁、商務印書館（北京）、2018年7月)。

川島 真

①「中国の第一次世界大戦参戦：対ドイツ抗議・断交を中心に」(『東アジア近代史』、第22号、29～48頁、東アジア近代史学会、2018年6月)。

②河原地英武・平野達志訳著『日中戦争と中ソ関係：1937年ソ連外交文書



邦訳・解題・解説』（東京大学出版会，2018年，352頁，〔家近亮子，川島真，岩谷将監修〕）。

②『決定版 日中戦争（新潮新書788）』（〈波多野澄雄，戸部良一，松元崇，庄司潤一郎〉，新潮社，2018年，287頁）。

③「近代日中関係史の CRITICAL JUNCTURE：21か条要求・満洲事変・日華平和条約」（公開シンポジウム「20世紀アジアを振り返る：国際関係と国家建設の視点から」，於：国際文化会館，2018年7月6日，〔主催：日本国際問題研究所〕）。

③“China’s Nation Building and Critical Junctures of Modern Sino-Japanese Relations”, Symposium: Origins of Prosperity and Stability: State Building in 20th Century Asia, Harvard University, MA, USA, 12 Oct. 2018.

#### 神田 豊隆

③“Connecting Internationalists and Nationalists: Japan Socialist Party’s Effort to Bridge the Socialist International and the Asian Socialist Conference in the 1950s”, Seminar “Les gauches et l’international/The Left and the international arena”, Centre d’Histoire de Sciences Po（パリ政治学院歴史学センター），23 May 2018.

③「冷戦期アジアにおける社会民主主義的地域秩序の試み：1950年代」（新潟大学法学部東アジア地域研究プロジェクト・淡江大学日本政経研究所共催日台国際ワークショップ「東アジアの地域ガバナンスと日本：20世紀国際関係史の視点」，於：淡江大学守謙国際会議中心（台湾新北市），2019年3月8日）。

#### 貴志 俊彦

①「東亜的時代性」（南京大学亜太発展研究中心『人文亜太』，第1輯，344～368頁，南京大学出版社，2018年）。

③“The Re-examination of the ‘Postwar’ Problem from ‘History of East Asia in the 20th Century’ View（「20世紀東アジア史」からみる「戦後」問題の再検証）”，Internationaler Workshop: Audiovisuelle Medien und nationale Identität “Kollektives Gedächtnis der Nachkriegszeit” in Deutschland und Japan, Institut für Orient- und Asienwissenschaften, Universität Bonn, 30 May 2018,（〔招待講演〕）。

③「国境紛争，領土問題と報道メディア：朝日新聞社の〈モンゴル関係写



真)から」(東亜大学校石堂学術院／韓国・満洲学会国際学術大会, 於: 東亜大学校石堂学術院(釜山市), 2018年12月1日, [招待講演]).

③「戦時下の「報道照片」和資訊網: 朝日新聞社与台湾の關係」(「戦争下の城市」国際学術研討会, 於: 中央研究院近代史研究所(台北市), 2018年12月5日, [招待講演]).

③“Case Studies for East Asian Visual History: New Methodologies and Interpretations”, Seminario Asia Pacífico, Centro de Estudios Asiáticos de la Universidad Nacional Mayor de San Marcos, 11 Mar. 2019.

#### 岸本 美緒

①「鴉片戦争情報と徳川末期日本: 『夷匪犯境録』の形成と伝播」(中国社会科学院歴史研究所他編『第九届中日学者中国古代史論壇文集』, 269～294頁, 河南大学出版社(開封), 2018年5月).

①書評「Sold People: Traffickers and Family Life in North China. By Johanna S. Ransmeier」(『中国文化研究所所報』, 67号, 307～315頁, 香港中文大学中国文化研究所, 2018年7月).

①(豊岡康史訳)「十九世紀前半における外国銀と中国国内経済」(豊岡康史・大橋厚子編『銀の流通と中国・東南アジア』, 109～155頁, 山川出版社, 2019年2月).

①「契約文書」(山本英史編『中国近世法制史料読解ハンドブック』, 277～319頁, (公財)東洋文庫, 2019年3月).

①書評「谷井陽子著『八旗制度の研究』」「杉山清彦著『大清帝国の形成と八旗制』」(『史学雑誌』, 第128編第3号, 83～92頁, 史学会, 2019年3月).

#### 橘堂 晃一

①「ロシア所蔵「観心十法界図」の西夏文について」(『アジア・アフリカ言語文化研究』, <荒川慎太郎>, 第96号, 71～102頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2018年10月).

①「「観心十法界図」をめぐる新研究: 西夏とウイグルの事例を中心に」(『国華』, <荒川慎太郎>, 第1477号第124編第4冊, 5～22頁, 国華社, 2018年11月).

①“Teachings of the Consciousness Only Inserted in the Chapter 6, Book 4 of the Altun Yaruk Sudur”, Zekine Özürtural, Gökhan Şilfeler eds., *Unter dem Bo-dhi-Baum*, pp. 187–196, Gottingen: V&R unipress, 2019, [Festschrift für Klaus



Röhrborn anlässlich des 80. Geburtstags überreicht von Kollegen, Freunden und Schülern.].

#### 金 鳳珍

- ① 「사대의 재해석: 동주의 사대론, 사대주의론을 계기로 (事大의再解釈: 東洲の事大論, 事大主義論を契機として)」 (ソウル大学国際問題研究所編 『한국 국제정치학, 미래백년의 설계 (韓國國際政治學, 未來百年の設計)』, 100~138頁, 社会評論アカデミー, 2018年 6月).
- ① 「西方『權利』觀念的接受与变化: 西周与俞吉濬的比較」 (陳瑋芬主編 『近代東西思想交流中的跨文化現象』, 41~80頁, 台灣中央研究院中國文哲研究所, 2018年10月).
- ① 「朝貢体制の原理与中国学派的理論」 (『南京論壇2018論文集』 (分論壇 3: 亞太歷史, 現狀与未來), 81~86頁, 南京大學·崔鍾賢學術院, 2018年 11月).
- ① 「동아시아 ‘근세’의 ‘유교적 근대’와 ‘병학적 근대’ (東アジア「近世」の「儒教的近代」と「兵學的近代」)」 (『退溪學論叢』, 第32輯, 45~66頁, 退溪學釜山研究院, 2018年12月).
- ① 「안중근과 일본, 일본인 (安重根と日本, 日本人)」 (李泰鎮·笹川紀勝共編 『3・1 독립만세운동과 식민지배체제 (3・1 獨立萬歲運動と植民支配體制)』, 448~505頁, 知識産業社 (ソウル), 2019年 3月).

#### 楠木 賢道

- ① 「江戸時代日本知識分子所理解の明清兩朝差異」 (「全球視野中的明清鼎革」國際學術研討會, 於: 復旦大學光華樓西主樓2801會議室 (上海市), 2018年11月24日, [主催: 復旦大學文史研究院, 『全球視野中的明清鼎革國際學術研討會會議論文集』, 64~71頁, 復旦大學文史研究院, 2018年11月]).
- ③ 「皇太極之皇權: 從察哈爾·朝鮮的角度分析」 (中央民族大學歷史文化學院「史學名家」系列講座第10講, 於: 中央民族大學文華樓東區1106教室 (北京市), 2018年 5月29日).
- ③ 「關於阿勒楚喀協領衙門檔案」 (「滿洲民族文化与歷史文獻記憶」學術研討會, 於: 蟹島會議中心 (北京市), 2018年 6月23日, [主催: 北京市社會科學院滿學研究所]).
- ③ 「法国国家圖書館收藏滿文《阿爾楚哈志書》与編纂《大清一統志》初纂本」 (清代文獻 (檔案·家譜) 整理与研究研討會, 於: 歐屹方舟大酒店會議



室（吉林省四平市），2018年6月26日，〔主催：吉林師範大学満学研究院，『吉林師範大学学報』編集部〕〕。

工藤 裕子

- ① “Dutch Bank Transactions with Chinese Traders in the Dutch East Indies: The Java Sugar Trade and the 1917 Sugar Crisis”, *Modern Global Trade and the Asian Regional Economy*, Tomoko Shiroyama ed., pp. 3–31, Singapore: Springer, 2018.
- ① 「スマランの華人運動：20世紀初頭の新組織と指導者層の分析から」（『史苑』，第79巻第1号，53～76頁，立教大学史学会，2019年3月）。
- ③ 「バタヴィアの客家系商人：植民地期の新リーダーとアジア域内の活動」（日本華僑華人学会2018年度第16回年次研究大会分科会「東南アジア・東アジア間の華僑華人ネットワーク再考：客家系商人家族の事例研究から」，於：東洋大学，2018年11月17日）。
- ③ 「客家系商人とアジア域内貿易」（セミナー「“国民国家”インドネシア再考」（東南アジア学会第259回中部例会），於：南山大学，2019年3月18日，〔主催：南山大学外国語学部アジア学科，共催：南山大学アジア・太平洋研究センター，科学研究費補助金 基盤研究（C）「植民地末期インドネシア・ムスリムの国際関係認識」，東南アジア学会中部例会〕〕。

久保 亨

- ① 「経済学者の社会主義憲政論：一九五七年の意見書草稿をめぐって」（中村元哉編『憲政から見た現代中国』，223～244頁，東京大学出版会，2018年5月）。
- ① 「近代中国経済の変容と1930年代」（波多野澄雄・中村元哉編『日中戦争はなぜ起きたのか：近代化をめぐる共鳴と衝突』，140～160頁，中央公論新社，2018年10月）。
- ② 『日本で生まれた中国国歌：「義勇軍行進曲」の時代（シリーズ日本の中の世界史4）』（岩波書店，2019年，256頁）。

窪添 慶文

- ① 「北魏前期の将軍号」（『立正史学』，第124号，25～47頁，立正大学史学会，2018年9月）。
- ① 「北魏後期的門閥制：起家官与姓族分定」（中国中古史研究編委会編『中国中古史研究』，第6巻，83～155頁，中西書局（上海），2018年12月）。



- ①「漢・魏晉・北魏の洛陽城」(東洋文庫中国古代地域史研究グループ編『水経注疏訳注(穀水篇)(東洋文庫論叢第82)』, 39～56頁, (公財) 東洋文庫, 2019年3月)。
- ③「墓誌研究雑感」(首都師範大学歴史学院学術講座, 於: 首都師範大学歴史学院(北京市), 2018年9月17日)。

#### 黒田 卓

- ①「近代との邂逅の現場: イラン系ムスリム知識人の旅行記から」(山岸智子編『現代イランの社会と政治: つながる人びとと国家の挑戦』, 138～170頁, 明石書店, 2018年11月)。
- ②「明治期日本に來訪したイラン人旅行者: 商人エブラーヒーム・サッハーフバーシーを中心に」(東北大学大学院国際文化研究科中東表象研究会第73回例会, 於: 東北大学川内キャンパス, 2018年7月28日)。
- ③「イラン人旅行者が見た明治期日本」(第81回羽田記念館定例講演会, 於: 京都大学文学研究科ユーラシア文化研究センター(羽田記念館), 2018年12月8日)。
- ③「商人エブラーヒーム・サッハーフバーシーの訪日記録(1897年)をめぐって」(2018年度第38回イラン研究会, 於: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2019年3月31日)。

#### 氣賀澤 保規

- ①「争坐位文稿の理解のために」, 「争坐位文稿 全文詳解」, (『墨』, 252号(2018年5・6月号, 特集: 顔真卿の争坐位文稿), 6～7, 24～31頁, 芸術新聞社, 2018年5月1日)。
- ①対談「『文の国』中国に向き合う覚悟」(『小説新潮』, 〈安部龍太郎〉, 2018年7月号, 168～177頁, 新潮社, 2018年6月)。
- ①「国号「日本」の成立新考」(『日本主義』, No. 45(2019春), 90～96頁, 白陽社, 2019年3月)。
- ②『仏教史研究第2巻(「唐代仏教社会的諸層面」専号)』(〈孫英剛, 浙江大学東亜宗教文化研究中心〉, 新文豊出版公司(台北), 2018年, 364頁, [執筆部分: 「唐代「巡礼」和五台山信仰」, 167～184頁])。
- ③「唐代前期の房山石経事業和幽州農村社会: 以《仏説造立形像福報經》石経碑為線索」(長安与世界對話: 唐都長安1400年国際学術研討会, 於: 西安国際会議中心: 曲江賓館, 2018年6月18日)。



巖 善平

- ①「農業・農村・農業（三農）問題」（梶谷懐・藤井大輔編著『現代中国経済論 [第2版]』, 61～77頁, ミネルヴァ書房, 2018年5月）.
- ①「華南経済圏の新段階, および香港への影響」（『東亜』, No. 613 (2018年7月号), 2～3頁, 霞山会, 2018年7月）.
- ①「戸籍差異・教育獲致与城市正義：上海市流動児童義務教育的実証研究」（『中国社会公共安全研究報告』, 第12輯 (2018年第1期), 119～139頁, 北京大学出版社, 2018年11月）.
- ①「中国の住宅バブルのトリック」（『東亜』, No. 619 (2019年1月号), 2～3頁, 霞山会, 2019年1月）.
- ①「中国における成人高等教育の拡張および就業者収入増への効果：普通高等教育との比較分析を中心に」（〈薛進軍〉, 『アジア経済』, 第60巻第1号, 2～36頁, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2019年3月）.

小杉 泰

- ①「第九章 ハラル食品とは何か：イスラーム法とグローバル化」（井坂理穂・山根聡編『食から描くインド：近現代の社会変容とアイデンティティ』, 春風社, 2019年2月）.
- ①「イスラーム法における『ハラル』規定をめぐる考察：『ハラル／ハラーム』の2分法と法規定の『5範疇』の相関性を中心に」（『イスラーム世界研究』, 第12巻, 170～188頁, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, 2019年3月）.
- ②『大学生・社会人のためのイスラーム講座』（ナカニシヤ出版, 2018年12月, 288頁, [執筆項目：第1章, 第6章, 第13章]）.
- ③“Islamic Economics and Halal Studies Towards the Islamic Civilizational Revival: A Kyoto Manifesto”, 12th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance, Durham University, England, 24 July 2018.
- ③「現代中東における君主制とイスラーム」（日本オリエント学会第60回大会・第321回公開講演会「オリエント世界の王権」, 於：京都大学, 2018年10月13日）.

小浜 正子

- ①「高校歴史教育改革とジェンダー主流化」（『ジェンダー史学』, 第14号,



59～68頁, ジェンダー史学会, 2018年10月, [特集: ジェンダー史が拓く歴史教育]).

①「中国研究のジェンダー主流化へ向けて」(『研究中国』, 第7号(通巻127号), 23～28頁, 日本中国友好協会『研究中国』刊行委員会, 2018年10月).

③「中国の人口政策」(比較家族史学会第63回春季研究大会, 於: 岡山大学, 2018年6月17日).

#### 小松 久男

②『中央ユーラシア史研究入門』(〈荒川正晴, 岡洋樹〉, 山川出版社, 2018年, 418頁).

②『近代中央アジアの群像: 革命の世代の軌跡(世界史リブレット人80)』(山川出版社, 2018年, 112頁).

②『1861年: 改革と試練の時代(歴史の転換期第9巻)』(山川出版社, 2018年, 280頁).

②『1905年: 革命のうねりと連帯の夢(歴史の転換期第10巻)』(山川出版社, 2019年, 288頁).

③「一つの文書から何を読み取るか: 近現代史の史料について」(日本中央アジア学会2018年度年次大会, 於: KKR 江ノ島ニュー向洋, 2019年3月24日).

#### 小南 一郎

①「高橋先生との日々」(『桃の会論集』, 八集(高橋和巳専号), 7～15頁, 桃の会(蟠桃会), 2018年7月).

①「『詩人の運命: 李商隠詩論』の理論と方法」(『桃の会論集』, 八集(高橋和巳専号), 161～177頁, 桃の会(蟠桃会), 2018年7月).

①「中国の青銅鏡」(『泉屋博古: 青銅鏡』, 122～129頁, 泉屋博古館, 2018年11月).

①「秦の祀天儀礼 上」(『泉屋博古館紀要』, 34, 1～29頁, 泉屋博古館, 2018年12月).

#### 佐々木 紳

①“Mixed Dynamism of Relief in the Late Ottoman Empire: The Historical Actualities of Fundraising Campaigns”, *Osmanlı Araştırmaları (The Journal of*



*Ottoman Studies*), 51, pp. 165–186, İstanbul 29 Mayıs Üniversitesi ile İSAM, Apr. 2018.

- ①「岐路に立つタンズィマート」(小松久男編『1861年：改革と試練の時代(歴史の転換期第9巻)』, 74～127頁, 山川出版社, 2018年10月).
- ①「オスマン帝国とデモクラシー：新オスマン人の知的格闘の軌跡」(『史潮』, 新84号, 105～123頁, 歴史学会, 2018年12月).
- ①「世界大戦のトラウマ：トルコの国民統合とセーヴル・シンドローム」(『メトロポリタン史学』, 第14号, 51～74頁, メトロポリタン史学会, 2018年12月).
- ①「歴史のなかのギュルハーネ勅令」(『歴史評論』, 2018年12月号(第824), 5～15頁, 歴史科学協議会, 2018年12月).

#### 佐藤 健太郎

- ①書評「黒田祐我『レコンキスタの実像：中世後期カスティーリャ・グラナダ間における戦争と平和』」(『イスラーム世界研究』, 第12巻, 263～266頁, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, 2019年3月).
- ①「東洋文庫所蔵モロッコ皮紙契約文書から見る不動産の売買と相続」(『東洋学報』, 第100巻第4号, 98～100頁, (公財)東洋文庫, 2019年3月, [2019年度後期東洋学講座講演要旨]).
- ③“Isnād of Ibn Khaldūn: A Scholar in Cairo with Maghribi Tradition of Knowledge”, 5th World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), University of Seville, 16 July 2018.
- ③「西方のカリフ政権とイブン・ハルドゥーン」(日本オリエント学会第60回大会, 於：京都大学, 2018年10月14日).
- ③「東洋文庫所蔵モロッコ皮紙契約文書から見る不動産の売買と相続」((公財)東洋文庫2018年度後期東洋学講座, 於：(公財)東洋文庫, 2018年12月14日, [『東洋学報』, 第100巻第4号, 98～100頁, (公財)東洋文庫, 2019年3月]).

#### 佐藤 仁史

- ①「当代江南農村の宣卷与民俗生活：以宣卷芸人の演出記録为中心」(氷上正・山下一夫編著『地方戯曲与皮影戯：日本学者華人戯曲曲芸論文集』, 203～263頁, 博揚文化事業有限公司(台北), 2018年8月).



- ①「常熟宣卷調査報告：虞山鎮の一講經先生に即して」(『中国都市芸能研究』、〈陳明華、張笑川〉、第17輯、74～90頁、中国都市芸能研究会、2019年2月)。
- ②『垂虹問俗：田野中的近現代江南社会与文化』(〈吳滔、張舫瀾、夏一紅〉、広東人民出版社(広州)、2018年、16+317頁)。
- ②『中華圏の伝統芸能と地域社会(中国都市芸能研究会叢書05)』(〈石光生、邱一峰、山下一夫、氷上正、戸部健、千田大介、平林宣和〉、好文出版、2019年、208頁)。
- ③「近現代中国における『改良風俗』と地域文化：江南地方の場合」(アジア教育史学会2018年度(第27回)年次大会シンポジウム「教育から地域史をみる」、於：明治大学駿河台キャンパス、2018年8月6日)。

#### 塩沢 裕仁

- ①「穀水(澗河)流域の標点遺跡と穀水古河道の遺構」(東洋文庫中国古代地域史研究グループ編『水経注疏訳注(穀水篇)(東洋文庫論叢第82)』、5～38頁、(公財)東洋文庫、2019年3月)。

#### 設楽 國廣

- ③「ケマル・アタチュルクと日本」(ケマル・アタチュルク没後80年関連講演、於：トルコ共和国大使館、2018年11月13日、[11月10日のケマル・アタチュルク没後80年に関連して、アタチュルクと日本の交渉について講演])。

#### 篠木 由喜

- ②『悪人か、ヒーローか：Villain or Hero』((公財)東洋文庫、2018年、28頁、[項目執筆：「三国志①」、「三国志②」、「年表」、「日本でも大人気！三国志と水滸伝」、1～4、14])。
- ②『大♡地図展：古地図と浮世絵』((公財)東洋文庫、2018年、32頁、[項目執筆：「日本地図：刊本の歴史概観」、「伊能忠敬測量隊の行路」、「江戸の旅と信仰：富士講と伊勢講」、4、17、18、21])。
- ②『マハトマ・ガンディー生誕150周年記念 インドの叡智展』((公財)東洋文庫、2019年、32頁、[項目執筆：「日本とインド：日本人のインド観をたどる」、「年表」、2、3、21])。



篠崎 陽子

- ①「資料の保存と管理について：公益財団法人東洋文庫の一取組み」（『日本大学文理学部情報科学研究所年次研究報告書』，第19号，31～37頁，日本大学文理学部情報科学研究所，2019年2月）。
- ③「資料の保存と管理について：公益財団法人東洋文庫の一取組み」（シンポジウム「日本大学文理学部におけるビジュアル・メディアの収集と活用：事例から見る修復，保存，管理，公開における課題と未来」，於：日本大学文理学部図書館棟3階オーバルホール，2018年10月27日，〔日本大学文理学部資料館展示会「形象化された〈満・蒙〉：日本大学文理学部所蔵ビジュアル・メディアを中心として」関連事業〕）。

斯波 義信

- ①「随想：融資に見るチャイニーズネス」（『学士会会報』，No. 930，学士会，2018年5月）。
- ①「資金調達方法にみるチャイニーズネス」（『東洋学報』，第100巻第2号，66～70頁，（公財）東洋文庫，2018年9月，〔2018年度前期東洋学講座講演要旨〕）。
- ①「中国の社会と文化」（『日本儒教学会報』，第3号，1～11頁，日本儒教学会，2019年1月）。
- ③「資金調達方法にみるチャイニーズネス」（（公財）東洋文庫2018年度前期東洋学講座，於：（公財）東洋文庫，2018年6月22日）。

島田 竜登

- ① “Iranian Settlers in Ayutthaya for Intra-Asian Trade during the Seventeenth and Eighteenth Centuries”, Clara Wing-chung Ho et al. eds., *Collected Essays of To the Seas and Beyond: An International Conference on the History of the Maritime Silk Road* (海表方行：海上絲綢之路史国際学術研討会論文集), pp. 111–114, Hong Kong: Hong Kong Museum of History and Department of History of Hong Kong Baptist University, Aug. 2018.
- ① “Southeast Asia and International Trade: Continuity and Change in Historical Perspective”, Keijiro Otsuka, Kaoru Sugihara eds., *Paths to the Emerging State in Asia and Africa*, pp. 55–71, Singapore: Springer, 2019.
- ②『1683年：近世世界の変容（歴史の転換期第7巻）』（山川出版社，2018年，270頁）。



②『1789年：自由を求める時代（歴史の転換期第8巻）』（山川出版社，2018年，296頁）。

③“Maritime Traders and Trade Pattern in Transition in South Asia and Southeast Asia in 1780–1870: A Case Study of Java”, 18th World Economic History Congress Boston, Massachusetts Institute of Technology, Boston, USA, 31 July 2018.

#### 清水 信行

③「沿海州渤海古城 クラスキノ城跡の調査成果と課題」（中央大学人文科学研究所公開シンポジウム「ユーラシア考古学を楽しむ」，於：中央大学多摩キャンパス2号館4階人文科学研究所会議室1，2019年3月30日）。

#### 邵 迎建

①「阿部知二『大河』『緑衣』中の中国人原型考」（『漢語文学研究』，2018年第3期，104～111頁，河南大学，2018年9月）。

①書評「『上海モダン：『良友』画報の世界』を読む」（『知性と創造：日中学者の思考』，第10号，184～189頁，日中人文社会科学学会，2019年2月）。

③「『上海モダン：『良友』画報の世界』を読む」（『上海モダン：『良友』画報の世界』合評会，於：神奈川大学横浜キャンパス，2018年6月9日）。

#### 杉山 清彦

①「中央ユーラシア国家としての清朝」（小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』，179～186頁，山川出版社，2018年4月）。

①「ヌルハチ」，「ホンタイジ」，「康熙帝」，「雍正帝」，「乾隆帝」（上田信編『悪の歴史 東アジア編（下）南・東南アジア編』，124～211頁，清水書院，2018年8月）。

①「『吉林師範大学2017国際満学研習營』参加報告」（『満族史研究』，第17号，69～72頁，満族史研究会，2018年12月）。

①「近世東アジアの二つの武人政権：大清帝国と織豊政権・徳川幕府」（『ふびと』，70号，117～150頁，三重大学歴史研究会，2019年1月）。

③「モンゴル帝国から大清帝国へ：岡田英弘先生の業績と中央ユーラシア史研究の展望」，「『清朝＝満洲史研究』と岡田英弘先生の業績」（第55回野尻湖クリルタイ（日本アルタイ学会），於：長野県信濃町，2018年7月14日）。



鈴木 恵美

- ①「エジプトとロシアの関係強化の現状と背景」(『平成30年度外務省外交・安全保障調査研究事業 反グローバリズム再考：国際経済秩序を揺るがす危機要因の研究 グローバルリスク研究』, 55～66頁, 日本国際問題研究所, 2019年3月)。

鈴木 均

- ①「対話 トランプ政権とイラン・アフガニスタン・インドの海洋戦略」(『公研』, 〈青木健太〉, 2019年6月号 (No. 657), 34～51頁, 公益産業研究調査会, 2018年5月)。
- ② “Demodernization versus Modernization in the Wake of the Iraq-Iran War”, Yakob Rabkin & Mikhail Minakov eds., *Demodernization: A Future in the Past*, pp. 179–191, Stuttgart: Ibidem-Verlag, Nov. 2018.
- ③「(中東政治経済レポート) 総論：2018年の中東地域」, 「イラン：ザリーフ外相の辞意表明とその後の展開」(『中東レビュー』, 第6号, 2～5頁, 12～16頁, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2019年3月)。
- ③ Panel Convenor, “Prospects for the Development of Small Towns in Iranian Dry Areas: The Case of Varzaneh”, AIS Twelfth Biennial Iranian Studies Conference, University of California, Irvine, California, 16 Aug. 2018.
- ③「変動するサウジアラビア, イランの政治経済」(「制裁再開後のイランと米国」日本記者クラブ講演会, 〈畑中美樹〉, 於：日本記者クラブ, 2018年12月21日)。

鈴木 立子

- ①「正史「列女伝」変遷と元代の節婦思想」(『中国女性史研究』, 第28号, 99～113頁, 中国女性史研究会, 2019年2月)。
- ①「元代法制史料」(山本英史編『中国近世法制史料読解ハンドブック』, 53～90頁, (公財) 東洋文庫, 2019年3月)。

妹尾 達彦

- ①「從太極宮到大明宮：唐代宮城空間の変遷与都城社会構造的転型」(国立台湾師範大学歴史学系編『跨越想像の境界：族群・礼法・社会：中国史国際学術研討会論文集』, 393～441頁, 秀威資訊科技股份有限公司 (台北),



2018年6月).

① “The Tang Dynasty I (618–756)”, Victor Cunrui Xiong and Kenneth J. Hammond eds., *Routledge Handbook of Imperial Chinese History*, pp. 126–143, New York: Routledge, Oct. 2018.

①「陪京的誕生：6–12世紀東亜複都史再析」（包偉民・劉後浜主編『唐宋歷史評論』，第五輯，15～55頁，社会科学文献出版社，2018年12月）。

②『グローバル・ヒストリー』（中央大学出版部，2018年，280頁）。

③「唐代信息遘通与都城空間結構：從朝集使到進奏院」（「七至十六世紀信息遘通与國家秩序」第五次工作坊，於：北京大學靜園二院，2018年11月3日，[北京大學中國古代史研究中心編『「七至十六世紀信息遘通与國家秩序」第五次工作坊會議論文集』，1～26頁，2018年11月]）。

#### 関 智英

①「日中戦争時期の対日協力者・占領地から考える（連載 日本の現代中国観を再構築する：「中華」の現在とは？〔4〕）」（『東亜』，No. 613（2018年7月号），86～94頁，霞山会，2018年7月）。

①「高橋和巳と満洲国・中国占領地：歴史認識とその背景」（太田代志朗・田中寛・鈴木比佐雄編『高橋和巳の文学と思想：その〈志〉と〈憂愁〉の彼方に』，282～297頁，コールサック社，2018年10月）。

①「華中占領地と日本語：『大陸新報』を手掛かりに」（『新世紀人文学論究』，2号，97～121頁，新世紀人文学研究会（大東文化大学），2018年11月）。

①「南京図書館」（U-PARL 編『世界の図書館から：アジア研究のための図書館・公文書館ガイド』，18～21頁，勉誠出版，2019年3月）。

③「1945年前後の胡蘭成」（（学術サロン）中日文学関係の1945年問題，於：中山大学外国语学院（広州市），2018年11月11日）。

#### 関尾 史郎

①（田衛衛訳）「“五胡”時期西北地区漢人族群之伝播与遷徙：以出土資料為中心」（陝西師範大學歴史文化学院・陝西歴史博物館編『絲綢之路研究集刊』，第2輯，81～92頁，商務印書館，2018年5月）。

①「内乱と移動の世紀：4～5世紀中国における漢族の移動と中央アジア」（『古代東ユーラシア研究センター年報』，第5号，5～28頁，専修大学社会知性開発研究センター，2019年3月）。



③「内乱と移動の世紀：4～5世紀中国における漢族の移動と中央アジア」(「古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本」2018年度第8回シンポジウム「古代東ユーラシアの国際関係と人流」，於：専修大学神田校舎，2018年7月14日，[専修大学社会知性開発研究センター，古代東ユーラシア研究センター主催])．

#### 高久 健二

①「日本列島における渡来文化と上毛野：古墳時代の対外交流」(開館30周年記念展，平成30年度高崎市観音塚考古資料館企画展『古墳時代群馬の渡来文化：観音塚古墳の被葬者像を探る』，28～34頁，高崎市観音塚考古資料館，2018年10月)．

①「東アジアの鉄器文化：朝鮮半島を中心に」(『弥生のムラに鉄が来た!!：河原口坊中遺跡の鉄斧はどこから来たのか 記録集』，66～78頁，かながわ考古学財団，2019年3月)．

①「河原口坊中遺跡出土板状鉄斧の類例について」(『弥生のムラに鉄が来た!!：河原口坊中遺跡の鉄斧はどこから来たのか 記録集』，106～110頁，かながわ考古学財団，2019年3月)．

#### 高田 幸男

①翻訳・整理「張柔武氏が語る自分史：音楽教師として，そして祖父張謇・日本との関わりなど」(〈張柔武口述〉，『中国研究月報』，第73巻2号(852号)，31～41頁，中国研究所，2019年2月)．

①「中国教育界と第一次世界大戦：大戦認識とその影響をめぐって」(『駿台史学』，第166号，25～50頁，駿台史学会，2019年3月)．

①「中華留日基督教青年会について：同会『会務報告』を中心に」(『明大アジア史論集』，第23号，310～324頁，明治大学東洋史談話会，2019年3月)．

②『戦前期アジア留学生と明治大学』(東方書店，2019年，368頁)．

③「教育界とアメリカ型教育への傾斜」(シンポジウム「第一次世界大戦と中華民国」，於：(公財)東洋文庫，2018年11月17日)．

#### 高遠 拓児

①「清代刑事裁判関連史料」(山本英史編『中国近世法制史料読解ハンドブック』，239～276頁，(公財)東洋文庫，2019年3月)．



③「薛允升と沈家本：清末の当家堂官」（第37回東洋法制史研究会，於：小松家八の坊，2018年8月22日）。

高橋 公明

① “Ryukyu and Taiwan in Maps of China Made in Edo Japan”, *Modern Asian Studies Review*, 10, pp. 21–28, The Toyo Bunko, Mar. 2019, [講演記録].

③ “Ryukyu and Taiwan in Maps of China Made in Edo Japan”, *Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research*, Toyo Bunko, 9 Dec. 2018, [The Seventh International Symposium of Inter-Asia Research Networks].

高松 洋一

① “Osmanlı Belge Yönetiminde Kesilmiş Hatt-ı Hümayunlar (The Hatt-ı Hümayuns cut out from other documents in the Ottoman document management of the Sublime Porte)”, *Osmanlı Araştırmaları (The Journal of Ottoman Studies)*, 51, pp. 115–157, İstanbul 29 Mayıs Üniversitesi ile İSAM, 2018.

① 書評・紹介 “Japonya’da Osmanlı Tarihi Araştırmaları”, *Osmanlı Araştırmaları (The Journal of Ottoman Studies)*, 51, pp. xiii–xviii, İstanbul 29 Mayıs Üniversitesi ile İSAM, 2018.

① 「トルコ・イスタンブール・(旧) 首相府オスマン文書館（大統領府オスマン文書館）」（『歴史学研究』，No. 980（2019年2月号），38～42頁，歴史学研究会，2019年2月）。

高村 武幸

③ 「文書行政のはじまり」（第63回国際東方学会議，於：日本教育会館，2018年5月19日）。

瀧下 彩子

① 書評「武田雅哉著『中国のマンガ〈連環画〉の世界』」（『中国研究月報』，第72巻6号（844号），12～13頁，中国研究所，2018年6月）。

武内 房司

① 「清代民衆宗教に見る宗教的回心の諸相：安丸良夫の民衆宗教研究に寄せて」（『アジア民衆史研究』，第23集，59～69頁，アジア民衆史研究会，2018年5月）。



- ②『阮朝アーカイブズの世界：ギメ美術館図書館所蔵阮朝地方行政文書を中心に（学習院大学東洋文化研究所調査研究報告 No. 67）』（学習院大学東洋文化研究所，2019年，192頁）。

武田 幸男

- ①「広開土王碑模刻本「荊木美行本」の研究：【D3型】類型・三拓本に関する考察」（『古典と歴史』，3，1～42頁，燃焼社，2018年12月）。
- ①「寺内文庫収蔵「広開土王碑」拓本の研究：【C1-2型】類型・甲乙二拓本の場合」（『山口県立大学国際文化学部紀要』，第25号，1～14頁，山口県立大学国際文化学部，2019年3月）。

田島 俊雄

- ②『中国・新興国ネクサス：新たな世界経済循環』（〈末廣昭，丸川知雄〉，東京大学出版会，2018年，384頁）。

多々良 圭介

- ①「「狭隘汚穢」の形成：18，19世紀中国における監獄の「衛生」状況」（『研究紀要』，第97号，31～61頁，日本大学文理学部人文科学研究所，2019年2月）。

立川 武蔵

- ② *Emptiness in Indian Buddhism*, xi+194p, Kathmandu: Vajra Books, Aug. 2018.
- ②『仏教原論：ブッディスト・セオロジー（完全版）』（KADOKAWA，2019年，296頁）。

田仲 一成

- ①「神と人間の関係から見た農村祭祀構造の日中比較論」（『日本学士院紀要』，第72巻第3号，49～76頁，日本学士院，2018年4月）。
- ①「中日三種鬼戯比較論：南戯『朱文太平銭』，湯顯祖『牡丹亭』与“日本莎翁”近松門左衛門『傾城反魂香』」（撫州湯顯祖国際研究中心編『湯顯祖学刊』，第2・3輯合刊，273～284頁，商務印書館，2018年8月）。

田中 仁

- ①「日中関係40年と中国政治」（『研究中国』，6号，14～21頁，日本中国友



好協会, 2018年4月).

②『大阪大学石濱文庫所蔵『フフ・トグ / 青旗』(1942年)』(OUFCブックレット, 大阪大学中国文化フォーラム, vol. 12-1, 大阪大学中国文化フォーラム, 2018年, 367頁).

②“21세기 동아시아와 역사 문제: 사색과 대화를 위한 강의 (21世紀の東アジアと歴史問題: 思索と対話のための講義)” (〈유용태 (柳鏞泰)〉, HanulMPlus (坡州), Aug. 2018, 352p, [韓国語]).

#### 田中 比呂志

①「地域の権力と宗教: 山西省平遥県道備村の事例」(内山雅生編著『中国農村社会の歴史的展開: 社会変動と新たな凝集力』, 147~165頁, 御茶の水書房, 2018年10月).

①「彼は如何にして正されたのか?: 四清運動期のある農村幹部の取り締まりと信仰歴」(『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』, 第70集, 93~103頁, 東京学芸大学紀要出版委員会, 2019年1月).

①書評「宮古文尋著『清末政治史の再構成』」(『歴史評論』, 2019年2月号(第826), 99~103頁, 歴史科学協議会, 2019年2月).

①「華北内陸農村訪問調査報告 (1): 2017年9月・2018年9月山西省J鎮J村, L県N鎮G村」(『金沢法学』, 〈古泉達矢, 盧珺, 席金花〉, 第61巻第2号, 269~286頁, 金沢大学人間社会研究域法学系, 2019年3月).

③「日本人の同時代中国認識: 宇治田直義を中心として」(南山大学アジア・太平洋研究センター主催シンポジウム「近代における日本人のアジア認識」, 於: 南山大学, 2019年2月23日).

#### C. A. ダニエルズ

①“The Mongol-Yuan in Yunnan and ProtoTai/Tai Politics during the 13th–14th Centuries”, *Journal of the Siam Society*, Volume 106, pp. 201–243, The Siam Society, 2018.

①“Upland Peoples and the 1729 Qing Annexation of the Tai Polity of Sipsong Panna, Yunnan: Disintegration from the Periphery”, Geoff Wade and James K. Chin eds., *China and Southeast Asia: Historical Interactions*, pp. 188–217, London and New York: Routledge, Jan. 2019.



地田 徹朗

- ①「環境問題と環境政策：ソ連時代の負の遺産と新たな課題」(宇山智彦・樋渡雅人編『現代中央アジア：政治・経済・社会』, 77～100頁, 日本評論社, 2018年5月)。
- ①「カザフスタンにおける「近代化」と強制農業集団化」(『ロシア・ユーラシアの経済と社会』, 第1031号, 31～52頁, ユーラシア研究所, 2018年8月)。
- ①「中央アジア・アラル海地域の環境・社会・経済：持続可能な開発に向けて」(『高等学校 地理・地図資料』, 2018年度2学期号, 8～11頁, 帝国書院, 2018年11月)。
- ①「カザフ人にとっての漁業と牧畜：アラル海災害前後での生業の変遷を中心に」(『生態人類学会ニュースレター』, No. 24, 67～75頁, 生態人類学会, 2018年12月)。
- ①「乾燥地・半乾燥地での「水」：中央アジアを知るための五冊」(『Artes MUNDI (アルテス・ムンディ)』, 第4号, 160～165頁, 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター, 2019年3月)。

塚原 東吾

- ①“The Atomospheric Pressure Observations 1856–1858 by Father Louis Furet, at Naha, Japan (那覇 (1856–1858年) におけるフュレ神父の気圧観測)”(『地学雑誌』, 〈Gaston R. DEMARÉE, 三上岳彦, 財城真寿美, 他4名〉, 127巻4号, 503～511頁, 東京地学協会, 2018年8月)。
- ①“Making STS Socially Responsible: Reflections on Japanese STS”, *East Asian Science, Technology and Society (EASTS)*, Volume 12, Issue 3, pp. 331–336, Duke University Press, 1 Sept. 2018.
- ①報告「全相運先生追悼シンポジウム：「韓国」科学技術史を再考する」(『科学史研究』, 〈慎蒼健, 宮島一彦, 全夕勲, 宮川卓也, 武田時昌, 金凡性〉, No. 287, 211～221頁, 日本科学史学会, 2018年10月)。
- ②『帝国日本の科学思想史』(〈坂野徹〉, 勁草書房, 2018年, 448頁)。
- ②『歴史の中の気候, 気候の中の歴史：国際シンポジウム資料集(神戸STS叢書シリーズ15)』(〈松本淳, 城山智子, 他〉, 神戸STS研究会, 2019年, 115頁)。



土田 哲夫

- ①「顔惠慶の訪米（1939-40年）：日中戦争期中国外交の一側面」（『中央大学政策文化総合研究所年報』、第21号（2017年度）、53～71頁、中央大学政策文化総合研究所、2018年8月）。
- ③「戦前・戦中の日中関係から何を学ぶか：詩人 草野心平の中国経験から」（中央大学・清華大学共同セミナー「日中両国のイノベーション協力と展望」、於：清華大学（北京市）、2018年12月13日）。

坪井 祐司

- ①「一九三〇年代のマラヤのマレー・ナショナリズムからみたインドネシア」（『史苑』、第79巻第1号、77～96頁、立教大学史学会、2019年3月）。
- ②『『カラム』の時代X：マレー・イスラム世界における自然と社会（CIRAS Discussion Paper 83）』（〈山本博之〉、京都大学東南アジア地域研究研究所、2019年、67頁）。
- ③“Politics around the Malay Sultanate in British Malaya during the 1930s: Multilingual Media Space as Political Arena”, 11th International Malaysian Studies Conference, Adya Hotel, Langkawi, Malaysia, 14 Aug. 2018.
- ③“The perception of disaster of Malay Muslim intellectuals in Singapore during the 1950s and 1960s”, International Workshop on “Human Response to Disaster in Southeast Asia”, Kyoto University, 14 Jan. 2019.

鶴見 尚弘

- ①「73回目の敗戦の日を迎えて想うこと」（『錦州会報』、第42号、7～10頁、錦州会、2018年8月、[『戦時下の小田原地方を記録する会』（代表：飯田耀子）82号（2019年3月発行）に転載]）。

寺田 浩明

- ③「法概念：寺田浩明論文および高橋裕論文を素材として」（シンポジウム「法概念および日本前近代法の特質：水林彪・青木人志・松園潤一郎編『法と国制の比較史：西洋・東アジア・日本』を素材として」、於：神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ、2018年12月9日、[法制史学会近畿部会（第455回例会）・日本法社会学会関西研究支部共催]）。
- ③「レスポンス・感想への感想」（ワークショップ「中国における法と秩序：歴史研究と現代分析との対話」、於：東京大学社会科学研究所、2019年



3月28日, [東京大学現代中国研究拠点「歴史と空間」班主催]).

土肥 祐子

- ①「数学書に記された南海交易品：『数書九章』の「推求物価」より」(『南島史学』, 第86号, 204～218頁, 南島史学会, 2018年11月).
- ②「数学書に記された南海交易品：『数書九章』の「推求物価」から」(南島史学会第47回大会, 於：玄奘大学(台湾新竹市), 2018年6月29日, [玄奘大学応用外語学系国際学術研討会「東亜／東南亜区域跨文化理解・溝通・経営」]).
- ③「南宋数学書所記南海貿易品：以〈数書九章〉之(均貨推本)為中心」(2018年杭州文史論壇暨中国南宋史及南宋都城臨安國際学術研討会, 於：浙江梅地亜賓館(杭州市), 2018年8月12日).

富澤 芳亜

- ①書評「張曉紅著『近代中国東北地域の綿業：奉天市の中国人綿織物業を中心として』」(『社会経済史学』, 第84巻第2号, 271～273頁, 社会経済史学会, 2018年8月).
- ②「文系教科における教科内容構成研究の現状と課題」(『島根大学教育学部紀要』, 〈福田景道, 百留康晴, 他8名〉, 第52巻別冊, 3～14頁, 島根大学教育学部, 2019年1月).
- ③「鐘紡の对中国進出責任者の回想：井上潔氏(鐘紡)インタビュー」(『近代中国研究彙報』, 〈桑原哲也, 今井就稔〉, 第41号, 1～46頁, (公財)東洋文庫, 2019年3月).
- ④“Labor Management Systems at the Kailuan and Zhongxing Coal Mines during the 1920s and 1930s”, 18th World Economic History Congress BOSTON, Massachusetts Institute of Technology Samberg Conference Center, USA, 3 Aug. 2018.

中兼 和津次

- ①「国有企業改革の遠い道のり」(天兒慧編『習近平が変えた中国』, 144～159頁, 小学館, 2018年4月).
- ②“Nexus between Privatization and Marketization during Transition Process: An Experimental Analysis Based on China’s Provincial Panel Data”, *Journal of Contemporary East Asia Studies*, 〈Kohei Mitsunami〉, Vol. 7, Issue 1, pp. 50–75, Aug. 2018, [Online Journal].



①「空想から現実へ：マルクス、レーニン、スターリン、毛沢東、鄧小平に見られる社会主義像の変遷」（『比較経済研究』，第55巻2号，85～98頁，比較経済体制学会，2018年9月）。

②“Privatization/Marketization Dynamics in Developing Transition Economies: New Evidence from China”（2018年度アジア政経学会春季大会，〈三竝康平〉，於：学習院大学，2018年6月10日）。

③“Nexus between Privatization and Marketization in Developing Transition Economies: New Evidence from China”，APEA Fourteenth Annual Conference，〈Kohei Mitsunami〉，University of Southern California，3 Aug. 2018.

#### 長沢 栄治

①書評“Hiroshi Kato and Erina Iwasaki, Rashda: The Birth and Growth of an Egyptian Oasis Village”（『社会経済史学』，第84巻第1号，131～134頁，社会経済史学会，2018年5月）。

②『近代エジプト家族の社会史』（東京大学出版会，2019年，552頁）。

#### 永田 雄三

①「日本人の世界史認識と中東・イスラーム世界：オスマン帝国史研究の現場から」（『史艸』，59，139～142頁，日本女子大学史学研究会，2018年11月，[第56回日本女子大学史学研究会大会公開講演要旨，於：日本女子大学，2017年12月2日]）。

#### 長縄 宣博

①「ヴォルガ・ウラル地方」（小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』，221～229頁，山川出版社，2018年4月）。

②“Designs for Dâr al-Islâm: Religious Freedom and the Emergence of a Muslim Public Sphere, 1905–1916”，Randall A. Poole, Paul W. Werth eds., *Religious Freedom in Modern Russia*, pp. 160–181, Pittsburgh: University of Pittsburgh Press, Nov. 2018.

③「『ロシア・ムスリム』の出現」（小松久男編『1905年：革命のうねりと連帯の夢（歴史の転換期第10巻）』，92～145頁，山川出版社，2019年3月）。

④“Всеобщая воинская повинность как фактор трансформации мусульман Поволжья и Приуралья на рубеже XIX–XX вв. （ヴォルガ・ウラル地域のムスリム社会を変容させる要因としての国民皆兵：19世紀末から20世紀初頭）”



(国際会議「ロシア帝国における宗教的(非)寛容」, 於: ナザルバエフ大学(カザフスタン共和国ヌルスルタン市), 2018年10月6日)。

③“Tatars at Imperialist Wars: From the Tsar’s Servitors to the Red Warriors”, The 50th Annual Convention of Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies, Boston, Massachusetts, USA, 7 Dec. 2018.

#### 中見 立夫

① “On Babujab and His Troops: Inner Mongolia and the Politics of Imperial Collapse, 1911–21”, David Wolff, Shinji Yokote, and Willard Sunderland eds., *Russia’s Great War and Revolution in the Far East: Re-imagining The Northeast Asian Theater, 1914–22*, pp. 351–368, Bloomington: Slavica Publishers, 2018.

③「日本『東洋史学』開始時期那珂通世的『元朝秘史』研究」(内蒙古大学首届『蒙古秘史』国際学術研討会, 於: 契丹遼文化産業化研究中心(内蒙古巴林左旗林東鎮), 2018年9月16日)。

③「石濱純太郎のめざした「東洋学」: その学術活動と収書」(東西学術研究と文化交渉: 石濱純太郎没後50年記念国際シンポジウム, 於: 関西大学千里山キャンパス以文館4階セミナースペース, 2018年10月27日)。

③「日本人の“満洲”発見: 地域認識の実相」(満洲学会創立20周年国際学術大会, 於: 東亜大学校富民 campus 国際館305号(釜山市), 2018年12月1日, [東亜大学校石堂学術院, 満洲学会主催])。

#### 中村 威也

①「東洋文庫等での東洋史学コースの学外研修の教育的効果について」(『国士館人文学』, 〈小川快之, 相原佳之〉, 第9号(通巻51号), 81~100頁, 国士館大学文学部人文学会, 2019年3月)。

#### 中村 元哉

②『憲政から見た現代中国』(東京大学出版会, 2018年, 330頁)。

②『中国, 香港, 台湾におけるリベラリズムの系譜』(有志舎, 2018年, 249頁)。

②『日中戦争はなぜ起きたのか: 近代化をめぐる共鳴と衝突』(〈波多野澄雄〉, 中央公論新社, 2018年, 368頁)。



## 西 英昭

- ①書評「批評と紹介 コース・カウペル著『初期のオランダの中国学者たち（1854-1900）』」（『東洋学報』，第100巻第2号，33～40頁，（公財）東洋文庫，2018年9月）。
- ①「中華民国北洋政府期法院訴訟記録」（山本英史編『中国近世法制史料読解ハンドブック』，355～398頁，（公財）東洋文庫，2019年3月）。

## 野田 仁

- ①「カザフスタンと中国の関係：現代にいたる歴史」（『ユーラシア研究』，第58号，26～31頁，ユーラシア研究所，2018年5月）。
- ①“Japanese Spies in Inner Asia during the Early Twentieth Century”, *The Silk Road*, Volume 16, pp. 21–29, Silkroad Foundation, 2018.
- ② *Emigrants/Muhacir from Xinjiang to Middle East during 1940–60s*, 〈Ryosuke Ono〉, 6+155p, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, Mar. 2019, [Studia Culturae Islamicae no. 110, MEIS-NIHU series no. 1].

## 延廣 眞治

- ①「梗概に学ぶ：『句殿実実記』『三人吉三郎初買』『怪談牡丹燈籠』『虞美人草』」（『日本文学研究ジャーナル』，第7号，2～8頁，古典ライブラリー，2018年9月）。
- ①「文庫版解説」（中込重明『落語の種あかし（岩波現代文庫学術402）』，岩波書店，2019年3月）。
- ③講演「江戸の絵をよむ」（絵入本ワークショップ XI プログラム国際シンポジウム「日本文学と挿絵リテラシー」，於：明知大学校（韓国竜仁市），2018年12月15日，[主催：韓国日語日文学会，明知大学校日語日文学科，共催：日本絵入本学会，国文学研究資料館，（公財）東洋文庫，美術フォーラム21，実践女子大学文芸資料研究所，フランス極東学院]）。

## 馬場 英子

- ①「浙江省舟山布袋木偶戯『白兔記（李三娘または劉知遠）』」（東洋文庫研究部ホームページ，（公財）東洋文庫，2018年7月 [中国木偶戯写真資料庫・動画。字幕，解説を付けて公開]）。
- ①「中国の教科書と昔話」（石井正己編『世界の教科書に見る昔話』，69～



79頁，三弥井書店，2018年8月）。

③「中国の伝統人形芝居について」（特別講演会「中国の伝統人形芝居の現在（いま）」，於：（公財）東洋文庫，2018年10月20日）。

濱島 敦俊

①「明代法制史料」（山本英史編『中国近世法制史料読解ハンドブック』，91～156頁，（公財）東洋文庫，2019年3月）。

林 俊雄

①「ユーラシア草原文化と樹木」（山口博監修，正道寺康子編『ユーラシアのなかの宇宙樹・生命の樹の文化史（アジア遊学228）』，47～61頁，勉誠出版，2018年12月）。

③「ササン朝グリフィンの地中海・ヨーロッパへの伝播：ヘレニズム期から後期ビザンツにかけての翼表現の変化に注目して」（第25回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会，於：金沢大学，2018年7月21日）。

③“Eurasian Steppe Silk Road: Past and Future”, 제 4 회 세계 실크로드 학회 (IASS) 국제 학술 대회 (The 4th Annual International Conference of International Association for Silk Road Studies (IASS): A Study on the Concept of Silk Road), Gyeongju, Korea, 15 Sept. 2018.

③“Function of Turkic Stone Enclosure with Statue: Memorial Site or Cremation Burial Site?”, XVIIIth Turkish Congress of History, Ankara, Turkey, 4 Oct. 2018.

③「日本の草原シルクロード研究の回顧：現地調査を中心に」（Trends and Prospects of the Silk Road Studies in East Asia, 〈Jeong Su-il（鄭守一）〉, Korea Institute of Civilizational Exchanges（韓国文明交流研究所）, Seoul, Korea, 14 Dec. 2018）。

平野 健一郎

①「『文化』について：満州研究から『国際文化論』へ」（『M. L. J.』, Vol. 1, 46～63頁，Project M. L. J, 2018年5月）。

①「長崎大学大学院多文化社会学研究科発足記念シンポジウム『新アジア学・日本学の創成』討論報告」（『多文化社会研究』, Volume 5, 272～281頁，長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学部，2019年3月）。



平野 聡

- ①「『静かな文革』にみる習近平の焦り：長期政権が目論む「一带一路」の野望と限界」（『Voice』、2018年5月号（通巻485号）、112～119頁、PHP研究所、2018年4月）。
- ①「（動向・政治）民族問題」（中国研究所編『中国年鑑2018』、83～86頁、明石書店、2018年5月）。
- ①「新疆を皮切りに「人民管理」を加速する中国」（『Wedge』、2018年10月号、50～52頁、株式会社ウェッジ、2018年9月）。
- ③「グローバルの「夢」と「孤独」：中国近現代における覇権と「普遍」（2018年度政治思想学会研究大会、於：甲南大学、2018年5月26日）。
- ③「現代中国の民族問題（チベットとウイグル）」（かわさき市民アカデミー現代事情講座「分離・独立を主張する人びと：歴史的・地理的・政治的背景」、於：川崎市生涯学習プラザ、2018年11月19日）。

弘末 雅士

- ①「史苑の窓「変な外人」が社会を動かす？」（『史苑』、第79巻第1号、1～5頁、立教大学史学会、2019年3月）。
- ①「東南アジア史研究を振り返る：地域研究と交流史研究」（『史苑』、第79巻第1号、6～12頁、立教大学史学会、2019年3月）。
- ②上田信編『悪の世界史：東アジア編（下）南・東南アジア編』（清水書院、2018年8月、472頁、[共同執筆]）。
- ③“The Malay Royal Chronicles Narrative Concerning Natural Disasters”, International Workshop on “Human Response to Disaster in Southeast Asia”, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 14 Jan. 2019.

深沢 眞二

- ①「宗因独吟恋俳諧百韻「花で候」巻注釈」（『上方文藝研究』、〈深沢了子〉、15、1～42頁、上方文藝研究の会、2018年6月）。
- ①「おくの風流：芭蕉発句叢考」（『雅俗』、17、2～16頁、雅俗の会、2018年7月）。
- ①「東西の秋風：芭蕉発句叢考」（『俳文学報：会報』、52、10～17頁、大阪俳文学研究会、2018年10月）。
- ①「『風流の』歌仙注釈（上）」（『表現学部紀要』、No. 19、115～128頁、和光大学表現学部、2019年3月）。



藤井 省三

- ①「中国高度経済成長に取り残された「底層」を描き続けて：ジャ・ジャンクー（賈樟柯）監督の映画を回顧する」（『トーキングヘッズ叢書』, No. 76, 47～51頁, 東京：アトリエサード, 2018年10月）.
- ①「浅談日本中国現代文学的“実証研究”与“比較研究”：与沈杏培博士商榷」（『文芸研究』, 2018年12期（総第322期）, 35～43頁, 中国芸術研究院（北京市）, 2018年12月）.
- ①「俯く女たちの家出：張愛玲「傾城の恋」と魯迅「愛と死」およびバーナード・ショー『傷心の家』」（『東方』, 456号, 457号, 2～9頁, 2～7頁, 東方書店, 2019年1月, 2月）.
- ③「關於賈樟柯電影：高度經濟發展里的“底層叙述”」（中国電影論壇國際研討会, 於：東国大学校（ソウル市）, 2018年8月17日）.
- ③“Natsume Soseki 夏目漱石, Lu Xun 魯迅, and Murakami Haruki 村上春樹：A Genealogy of the Ah Q 阿 Q Image in East Asian Literature”（中法文化交流300年シンポ, 於：エクス＝マルセイユ大学（エクス＝アン＝プロヴァンス）, 2018年10月1日）.

藤本 幸夫

- ①“Commercial Publishing in Chosŏn Korea before Bookshop Editions” (*ACTA ASIATICA*, 116, 73～100頁, 東方学会, 2019年2月）.
- ②『日本現存朝鮮本研究 史部』（東国大学校出版部（ソウル）, 2018年, 1588頁）.

弁納 才一

- ①「農村経済の発展と脱農化・零細農化の進行」（内山雅生編著『中国農村社会の歴史的展開：社会変動と新たな凝集力』, 3～21頁, 御茶の水書房, 2018年10月）.
- ①「日中戦争時期における山東省3ヶ村の経済発展に関する分析」（『日本海域研究』, 第50号, 7～23頁, 金沢大学環日本海域環境研究センター, 2019年3月）.
- ③「近現代華北農村における経済発展と脱農化・都市化」（華中師範大学中国農村研究院・政治科学高等研究院, 於：華中師範大学（武漢市）, 2018年10月19日, [招聘講演]）.



③「近代中国農村の三層的経済構造（現代中国農村経済的三元結構）」（華東師範大学人文与社会科学研究院，於：華東師範大学閔行校区（上海市），2018年10月25日，[招聘講演]）。

③「21世紀初頭日本における中華民国期中国農村社会経済史に関する3つの捉え方」（於：華東師範大学社会発展学院（上海市），2019年3月30日）。

#### 寶劍 久俊

① “Measuring the Effect of Agricultural Cooperatives on Household Income : Case Study of a Rice-Producing Cooperative in China”, *Agribusiness*, (Qun Su), Vol. 34, Issue 4, pp. 831–846, Wiley Periodicals, Inc., Oct. 2018, [Online Journal].

①「世界農業の趨勢と中所得国農業の変容」（清水達也編『途上国における農業経営の変革』，19～49頁，アジア経済研究所，2019年3月）。

③「生産費調査に基づく集団農業経営の考察」（中国経済経営学会2018年度全国大会，於：大東文化大学，2018年11月25日）。

#### 堀井 聡江

②『オスマン民法典（メジェッレ）の研究：保証編・債務引受編』（〈大河原知樹，シャリーアと近代研究会〉，東北大学大学院国際文化研究科大河原研究室，2019年，iii+40頁）。

③「初期イスラーム法学における12イマーム派とスンナ派の学說的関係の一考察：選択権を中心に」（日本オリエント学会第60回大会，於：京都大学，2018年10月14日）。

#### 堀川 徹

①「第8章 マーワラーアンナフルのイスラーム化とテュルク化：社会・文化土壌の形成」（帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章（エリア・スタディーズ164）』，66～70頁，明石書店，2018年5月）。

①「コラム4 「ウズベク」はどこから来たか」（帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章（エリア・スタディーズ164）』，77～79頁，明石書店，2018年5月）。

①「第57章 学術交流：中央アジア歴史文書プロジェクト」（帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章（エリア・スタディーズ164）』，352～355頁，明石書店，2018年5月）。



牧野 元紀

- ①「日本の東洋学における太平洋史研究の構築に向けて：東洋文庫所蔵史料の可能性」(甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編『近代人文学はいかに形成されたか：学知・翻訳・蔵書』, 296～329頁, 勉誠出版, 2019年2月)。

松井 太

- ①「契丹和回鶻的關係」(『河西学院学報』, 〈鞏彦芬〉, 2018年第3期, 11～19頁, 河西学院(張掖), 2018年6月)。
- ②「ウイグル文供出命令文書の機能に関する再考察」(『内陸アジア言語の研究』, 33, 109～134頁, 中央ユーラシア学研究会, 2018年12月)。
- ③「『モンゴル命令文とウイグル文書文化：ティムール朝期の『ウイグル文書教本』から』(『待兼山論叢：史学篇』, 第52号, 1～27頁, 大阪大学大学院文学研究科, 2018年12月)。
- ④“Remarks on Buyan-Qaya, a Uighur Buddhist Pilgrim to Dunhuang”, Zekine Özertural, Gökhan Şilfeler eds., *Unter dem Bodhi-Baum: Festschrift für Klaus Röhrborn anlässlich des 80. Geburtstags*, pp. 209–224, Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, Feb. 2019.
- ⑤「高昌α寺遺址所出摩尼教・仏教寺院回鶻文賬歴研究」(『中山大学学報(社会科学版)』, 2019年第2期, 100～107頁, 中山大学, 2019年3月)。

松重 充浩

- ①「日本大学文理学部における「満蒙」関係諸記録の収集と保存および公開の試み」(『善隣』, No. 500(通巻767), 10～19頁, 国際善隣協会, 2019年2月)。
- ③「日本大学文理学部におけるビジュアル資料の収集について」(シンポジウム「日本大学文理学部におけるビジュアル・メディアの収集と活用：実例から見る修復, 保存, 管理, 公開における課題と未来」, 於：日本大学文理学部図書館棟3階オーバルホール, 2018年10月27日, [主催：日本大学文理学部情報科学研究所])。

松永 泰行

- ①「トランプ政権とイラン核合意の行方：米国単独離脱とその影響」(『国際問題』, No. 671, 5～16頁, 日本国際問題研究所, 2018年5月)。



- ①「第2章 国境を越える紐帯の輪：革命防衛隊第九旅団バドルからバドル機構へ」(山岸智子編著『現代イランの社会と政治：つながる人びとと国家の挑戦』, 47～67頁, 明石書店, 2018年11月)。

### 松村 史紀

- ①「中蘇同盟と対日和約(1949-1952)：冷戦背景下先勝国之間的国際政治」(徐藍・吉田豊子主編『国際関係史工作坊(第二期)：冷戦的縁起及其初步発展』, 世界知識出版社(北京), 2018年8月)。
- ①「サンフランシスコ講和会議と中ソ同盟(1949-52)：東側世界の「全面講和」外交(3)」(『宇都宮大学国際学部研究論集』, 第46号, 107～126頁, 宇都宮大学国際学部, 2018年9月)。
- ①「強制と自主独立の間：日本共産党「軍事方針」をめぐる国際環境(1949-55)(1)」(『宇都宮大学国際学部研究論集』, 第47号, 151～172頁, 宇都宮大学国際学部, 2019年2月)。
- ①「現代中国外交の祖型(1949-54年)：二重構成からみた試論」(『立命館国際研究』, 31巻5号(通巻110号), 125～142頁, 立命館大学国際関係学会, 2019年3月)。
- ③「強制と自主之間：圍繞日共武闘方針的東方陣営内部関係(1949-55年)」(第四期国際関係史工作坊, 於：東北師範大学政法学院(長春市), 2018年9月8日)。

### 三浦 徹

- ①「イスラーム法廷文書にみる契約と裁判」(『東洋学報』, 第100巻第4号, 96～97頁, (公財)東洋文庫, 2019年3月, [2018年度後期東洋学講座講演要旨])。
- ③「イスラーム法廷文書にみる契約と裁判」((公財)東洋文庫2018年度後期東洋学講座, 於：(公財)東洋文庫, 2018年12月10日)。

### 水野 善文

- ①「公開講演「通説の裏側：文献を読み解く醍醐味」」(『仏教学セミナー』, 第107号, 21～41頁, 大谷大学仏教学会, 2019年1月)。
- ①「インドの響きを読み解く試み：音と情操」(『総合文化研究』, 第22号, 73～85頁, 東京外国語大学総合文化研究所, 2019年2月)。
- ③「ラーマ物語と godāna」(科研「南アジア多言語社会における複合文化



のなかの文学伝承」第7回（通算第17回）研究会，於：東京外国語大学本郷サテライト，2018年7月7日，[2018年度第二回 FINDAS 共催研究会。科学研究費補助金 基盤研究（B）「南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承」，課題番号：16H03410，研究代表者：水野善文]）。

③「説話と説話集：Simhāsanadvātriṃśikā (or Vikrama-carita) をめぐって」（2018年度第2回研究会，於：東京外国語大学本郷サテライト，2019年3月11日，[東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「近世南アジアの文化と社会：文学・宗教テキストの通言語的比較分析」，研究代表者：太田信宏]）。

### 三田 昌彦

③「ラージプートの歴史叙述とムスリム支配：多元的文化世界における正統性の模索」（第2回日本南アジア学会30周年記念シンポジウム「インド政治の過去と現在：支配の正統性をめぐって」，於：東京大学駒場キャンパス，2018年5月19日）。

③「最近の高校教科書および大学入試の世界史・日本史用語精選の動きについて」（名古屋歴史科学研究会・愛知県歴史教育者協議会合同例会，於：名古屋大学，2018年8月29日）。

③「15-17世紀ラージャスターンの銅板施与勅書の様式と語法：中世初期からの転換」（AA 研共同利用・共同研究課題「近世南アジアの文化と社会：文学・宗教テキストの通言語的比較分析」2018年度第1回研究会，於：東京外国語大学，2018年10月7日）。

③「南アジア古代の歴史地理について」（2018年度 KINDAS 研究グループ 1-A「南アジアの長期発展径路」第1回研究会，於：京都大学，2019年2月10日）。

### 三谷 博

①「維新政治史の研究：文部省『維新史』まで」（明治維新史学会編『明治維新史研究の諸潮流（講座 明治維新12）』，有志舎，2018年8月）。

①「明治維新：通説の修正から革命の世界比較へ」（三浦信孝・福井憲彦編著『フランス革命と明治維新』，59～108頁，白水社，2018年12月）。

③「維新における「公議」と暴力：双生児としての誕生から訣別まで」（平成30年度日本大学史学会大会，於：日本大学文理学部，2018年6月16日）。

③「明治維新：通説批判と革命比較」（国際シンポジウム「明治維新と近代



世界」, 於: 南開大学日本研究院 (天津市), 2018年 7 月28日).

③ “The Meiji Revolution in Global History”, 4th Congress of the Asian Association of World Historians, Osaka University Nakanoshima center, 6 Jan. 2019.

#### 峰 毅

③「中国の石炭液化技術開発の系譜」(比較経済体制学会第58回全国大会, 於: 北海道大学, 2018年 6 月10日).

③「出版記念講演『中国工業化の歴史: 化学の視点から』」(上海日本商工クラブ資源・化学品部会2018年第1回例会(セミナー), 於: 花園飯店(上海市), 2018年 5 月23日, [上海総領事館共催, 『中国工業化の歴史: 化学の視点から』(日本僑報社, 2017年12月)]).

③“The development of the small-scale production technology of nitrogen fertilizers in the day of Mao Ze Dong and the innovation afterwards under the open door policy”, 18th World Economic History Congress Boston, Massachusetts Institute of Technology Samberg Conference Center, USA, 1 Aug. 2018.

#### 宮脇 淳子

②『真実の中国史 [1840-1949] (PHP 文庫み58-1)』(〈岡田英弘監修〉, PHP 研究所, 2018年, 381頁).

②『モンゴルの歴史: 遊牧民の誕生からモンゴル国まで [増補新版] (刀水歴史全書59)』(刀水書房, 2018年, 320頁).

②『満洲国から見た近現代史の真実』(徳間書店, 2019年 2 月, 254頁).

③ “The Kyrgyz people in the Dzungar Empire”, The 61st Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Bishkek, Kyrgyzstan, 26-31 Aug. 2018.

③ “Two Mongolians who succeeded De Wang’s dream: Sechin Jagchid and Gombojab Hangin”, Asian Seminar II of the International Association for Mongolian Studies in 2018 “Mongols in the 20th Century”, Showa Women’s University, Tokyo, 3 Nov. 2018.

#### 村上 衛

①「『壁』の喪失: 近現代中国における城壁撤去問題について」(『歴史学研究』, No. 971 (2018年 6 月号), 14~24頁, 歴史学研究会, 2018年 6 月).



③ “Urbanization in China and Japan before the ‘small divergence’: A General Introduction”, 18th World Economic History Congress Boston, Massachusetts Institute of Technology, Cambridge, MA, USA, 3 Aug. 2018.

③ 「海賊の終焉：中国と日本」(第14回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都大学浜松講演会「京都からの挑戦：地球社会の調和ある共存に向けて 京大曼荼羅」, 於：えんてつホール (浜松市), 2019年3月9日).

③ 「晩清時期子口貿易的功能」(「近現代中国的多層結構分析」国際学術研討会, 於：中央研究院近代史研究所檔案館 (台北市), 2019年3月15日).

#### 村田 雄二郎

① 「清室優待条件から見た民国初期の憲政体制」(中村元哉編『憲政から見た現代中国』, 23～52頁, 東京大学出版会, 2018年5月).

① 翻訳「章清「憲政史の連続と断絶：王造時における民国時代の『遺産』」」(中村元哉編『憲政から見た現代中国』, 201～222頁, 東京大学出版会, 2018年5月).

① 聞き書き「孫文研究と宮崎家文書：久保田文次氏訪談録 (上), (下)」(『中国研究月報』第72巻8号 (846号), 第72巻9号 (847号), 14～25頁, 13～22頁, 中国研究所, 2018年8月, 9月).

③ 「陳独秀の言文一致思想」(国際シンポジウム「国語施策／言文一致運動を東アジアの視点から考える」, 於：関西大学, 2018年12月15日).

③ 「近代中国における大亜細亜主義」(於：四川外国語大学 (重慶市), 2018年12月25日, [招待講演]).

#### 毛里 和子

① 「習近平の中国は何処へ行く? : 中国・米国・日本の共存・対抗時代へ」(『現代の理論』, 第15号 (2018年春号), 56～61頁, 『現代の理論』編集委員会, 2018年5月).

① 「基調講演 新しいアジア学・中国学」(『多文化社会研究』, Volume 5, 268～276頁, 長崎大学大学院多文化社会学研究科・多文化社会学部, 2019年3月).

② 『現代中国外交』(岩波書店, 2018年, 320頁).

③ 「如何面对全球大国：中国？值此日中和平友好条約締結40周年之際」(於：清華大学 (北京市), 2018年12月10日, [中国語による講演]).

③ 「中国外交と日中関係のゆくえ」(朝日カルチャーセンター, 於：朝日カ



ルチャーセンター横浜教室、2019年3月16日）。

本野 英一

①書評「藤原敬士著『商人たちの広州：一七五〇年代の英清貿易』」（『歴史と経済』、第241号（第61巻第1号）、38～40頁、政治経済学・経済史学会、2018年10月）。

①「『天秤を持つ女』の銀貨の謎インタビュー」（青い日記帳監修『フェルメール会議』、76～81頁、双葉社、2018年10月）。

①書評「再評価される清末官僚の事績：Stephen R. Halsey, *Quest for Power: European Imperialism and the Making of Chinese Statecraft* (Harvard University Press, 2015)」(『東方』、454号、32～35頁、東方書店、2018年11月)。

守川 知子

①「『移葬の心性史：シーア派イスラーム社会における死者の聖地巡礼』」（『比較文明』、第34号、27～44頁、比較文明学会、2018年11月）。

①「あるアルメニア人改宗者の遍歴にみる宗教と近世社会」（島田竜登編『1683年：近世世界の変容（歴史の転換期第7巻）』、64～109頁、山川出版社、2018年12月）。

①「近世西アジア社会における「異教徒」と宗教的社会変容」（『2018年度大学研究助成アジア歴史研究報告書』、135～155頁、JFE21世紀財団、2019年3月）。

①「サファヴィー朝下のイスファハーンと新ジュルファー：近世西アジア都市の非ムスリム街区」（山田重郎編『都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究1』2018年度研究成果報告書、163～172頁、2019年3月、[科学研究費補助金 新学術領域研究（研究領域提案型）「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」研究成果報告書、課題番号：5001、研究代表者：山田重郎]）。

③“An Armenian Merchant Family from New Julfa in the Seventeenth and Early Eighteenth Centuries”, International Conference: Maritime Monsoon Asia in the Early Modern Period: Global Trade and Early European Colonial Cities, The University of Tokyo, 19 Jan. 2019.

森安 孝夫

②（張雅婷訳）『絲路・遊牧民与唐帝国：從中央欧亚出發，騎馬遊牧民眼中



の拓跋国家（興亡の世界史06）』（八旗文化（新北），2018年，416頁）。

矢島 洋一

- ①「トゥグルク・テムルとモグール・ウルス」（『寧楽史苑』，第64号，50～60頁，奈良女子大学史学会，2019年2月）。
- ②「Sarih al-Milk における法廷文書書式について」（共同研究「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究：イラン・サファヴィー朝祖廟を事例として」第2回研究会，於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2018年11月11日）。
- ③「中央アジアのカーディー印」（第17回中央アジア古文書研究セミナー，於：奈良女子大学，2019年3月16日）。

柳澤 明

- ①「第7章 露清関係の展開と中央ユーラシア」（小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』，168～177頁，山川出版社，2018年4月）。
- ②“Международный акт 1792 года как источник консульской юрисдикции (The International Protocol of 1792 as an Origin of Consular Jurisdiction)”，Международная научная конференция “Кяхта: истории, наследие и современность” (The International Symposium “History, Heritages and the Future of Kyakhta: From the Dynamism of Russia, China, Mongolia and Japan”)，State Autonomous Cultural Institution of the Republic of Buryatia “Kyakhta Museum of Local Lore of Academician V. A. Obruchev”，Kyakhta, Buryatia, Russia, 14 Sept. 2018.
- ③“Population Shifts and Ethnic Transformation of Non-Chinese Groups in 17th–18th Century Manchuria”，Association for Asian Studies 2019 Annual Conference, Sheraton Denver Downtown Hotel, Colorado, USA, 2 Mar. 2019, [Migration, Occupation, and Indigenous Identity in Early Modern Northeast China].

柳谷 あゆみ

- ③“I haven’t received your reply yet: letter exchange amongst medieval Islamic intellectuals”，5th World Congress for Middle Eastern Studies, Sevilla, 16 July 2018.
- ③“Private letter exchange of intellectuals in medieval Arabic world: focusing



mainly on al-Qadi al-Fadil and Imad al-Din al-Isfahani”, 2nd German-Japanese Workshop on Mamlukology (第2回日独マムルーク研究ワークショップ), Waseda University, 1 Dec. 2018.

③ “Stand, lost, and write: Syrian writings after 2011”, Reconsidering the Mediterranean Literature from the Islamic Coast (再思北非伊斯蘭地区之地中海文学), National Cheng Kung University (国立成功大学, 台南市), 8 Mar. 2019.

#### 山内 民博

① 「1852年朝鮮『平安道中和府壬子式年戸籍』初探」(『資料学研究』, 第16号, 16~32頁, 新潟大学大学院現代社会文化研究科プロジェクト「大域的文化システムの再構成に関する資料学的研究」, 2019年3月).

#### 山口 元樹

① 「アラブ地域の定期刊行物が構築するネットワークと東南アジアのムスリムの仲介者: カイロの雑誌『ファトフ』を事例として」(『史苑』, 第79巻第1号, 120~147頁, 立教大学史学会, 2019年3月).

② 『インドネシアのイスラーム改革主義運動: アラブ人コミュニティの教育活動と社会統合』(慶應義塾大学出版会, 2018年, 296頁).

③ 「オランダ植民地末期ナフダトゥル・ウラマーによる“イスラーム国家論: 伝統派ムスリムにおける改革主義の影響”」(セミナー「“国民国家”インドネシア再考」(東南アジア学会第259回中部例会), 於: 南山大学, 2019年3月17日, [主催: 南山大学外国語学部アジア学科主催, 共催: 南山大学アジア・太平洋研究センター, 科学研究費補助金 基盤研究(C)「植民地末期インドネシア・ムスリムの国際関係認識」, 東南アジア学会中部例会]).

#### 山本 英史

① 「中国地方志が伝える地域社会: 万暦『秀水県志』抗租記事を題材として」(『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』, 50, 205~222頁, 慶應義塾大学言語文化研究所, 2019年3月).

② 『中国近世法制史料読解ハンドブック』((公財) 東洋文庫, 2019年, xiv+420+12頁).

③ 「近代中国对于陋俗的改革: 以溺女問題为中心」(南開史学伯苓班系列講座第16講, 於: 南開大学歴史学院(天津市), 2018年4月9日).



- ③「溺女与法制」(生活与制度：中国社会史新探国際学術研討会，於：南開大学(天津市)，2018年9月11日)。
- ③「徭役与職業之間」(第17届中国社会史学会年会暨“中国歴史上の職業与社会”国際学術研討会，於：安徽師範大学(蕪湖市)，2018年11月10日)。

湯浅 剛

- ①「国際政治と安全保障：国際社会の変容との連動」(宇山智彦・樋渡雅人編『現代中央アジア：政治・経済・社会』，57～76頁，日本評論社，2018年5月)。
- ③“Russia’s Nuclear Energy Policy as a Factor of International Relations in Eurasia”，Session 1.16 “Politics: Russia as a Eurasian Regional Power” in Annual Conference 2018, British Association for Slavonic and East European Studies, Churchill College, Cambridge, UK, 13 Apr. 2018.
- ③「ロシア主導地域統合プロセスの制度的展開」(グローバル・ガバナンス学会第11回研究大会共通セッション2「ユーラシアの制度構築をめぐる考察」，於：東京外国語大学，2018年5月13日，[市民公開セッション])。
- ③「原子力開発をめぐるユーラシアの国際関係」(上智大学ハル濱学院顕彰基金シンポジウム「21世紀のロシアのエネルギー戦略」，於：上智大学，2019年1月19日)。
- ③“Regional Concepts in Japan’s Foreign and Security Policy”，Panel WD82 “Japanese Foreign Policy under Shinzo Abe and Beyond: Strategies, Statecraft, and Institutionalization,” Annual Convention of International Studies Association, Sheraton Centre Toronto, Canada, 27 Mar. 2019.

吉澤 誠一郎

- ①書評「上田貴子著『奉天の近代：移民社会における商会・企業・善堂』」(『史林』，第101巻第4号，706～711頁，史学研究会，2018年7月)。
- ①「危機のなかの清朝」(小松久男編『1861年：改革と試練の時代(歴史の転換期第9巻)』，26～73頁，山川出版社，2018年10月)。
- ①「近代世界のなかの日本と清朝」(波多野澄雄・中村元哉編『日中戦争はなぜ起きたのか：近代化をめぐる共鳴と衝突』，46～64頁，中央公論新社，2018年10月)。
- ①「20世紀中国における人口論の展開」(『歴史学研究』，No. 978 (2018年12月号)，1～12頁，歴史学研究会，2018年12月)。



- ①「五四運動とその残影」(『歴史地理教育』, No. 891, 10～15頁, 歴史教育者協議会, 2019年3月).

吉田 建一郎

- ①「華北の寒羊・寿陽羊と日本」(内山雅生編著『中国農村社会の歴史的展開：社会変動と新たな凝集力』, 23～43頁, 御茶の水書房, 2018年10月).
- ③「日中戦争期, 華北の寒羊・寿陽羊と日本」(2018年度三田史学会大会, 於：慶應義塾大学, 2018年6月23日).

吉田 豊

- ① “Farewell to the “Teacher of Four Twāryst’n””, Z. Gulácsi ed., *Language, Society, and Religion in the World of the Turks: Festschrift for Larry Clark at Seventy-Five* (Silk Road Studies 19), pp. 267–279, Turnhout: Brepols, Jan. 2019.
- ① “Some New Interpretations of the Two Judeo-Persian Letters from Khotan”, *A Thousand Judgements: Festschrift for Maria Macuch*, pp. 385–394, Wiesbaden: Harrassowitz, Jan. 2019.
- ①「ブグト碑文のソグド語版について」(『京都大学文学部研究紀要』, 第58号, 1～33頁, 京都大学大学院文学研究科・文学部, 2019年3月).
- ① “On the Sogdian articles” (『創価大学国際仏教学高等研究所年報』, 平成30年度(第22号), 261～285頁, 創価大学国際仏教学高等研究所, 2019年3月, [Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University for the academic year 2018, Volume XXII]).
- ② Three Manichaean Sogdian letters unearthed in Bāzāklik, Turfan, Kyoto: Rinsen, Jan. 2019, 278p.

吉水 清孝

- ③ “On the Fourteen or Eighteen vidyāsthānas (abodes/fields of science)” (京都大学人文科学研究所共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム：南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」2018年度第3回定例研究会, 於：京都大学人文科学研究所, 2018年6月22日).
- ③「14または18の学問(vidyāsthāna)について」(京都大学人文科学研究所共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム：南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第5回シンポジウム「古典インドの哲学と学問：始まり



と展開」, 於: 京都大学, 2018年10月8日).

吉水 千鶴子

- ①「処世の教えを読む:『ヒトパーデーシャ』」(小島毅編著『知の古典は誘惑する(岩波ジュニア新書875)』, 85~105頁, 岩波書店, 2018年6月).
- ②“Revisiting the Tenth Chapter of the Saṃdhinirmocanasūtra: A Scripture on Rational Reflection”, International Conference: Evolution of Scriptures, Formation of Canons, Tokyo Campus, University of Tsukuba, 24 Sep. 2018.
- ③“Non-arising (anutpāda): The Mādhyamikas’ challenge to the theory of causality”, 4th International Workshop on Madhyamaka Studies (IWMS2018): “Linguistic Challenges: Mādhyamikas and their Key Words”, International College for Postgraduate Buddhist Studies, Tokyo, 2 Dec. 2018.
- ④“Lecturing Madhyamaka in Kashmir and Tibet”, International Workshop with Young and Senior Scholars: Translating and Educating: the Transmission of Indian and Buddhist Texts and Thought, Tokyo Campus, University of Tsukuba, 2 Mar. 2019.
- ⑤“Updating Prāsaṅgika in Kashmir and Tibet”, Institute for the Cultural and Intellectual History of Asia (IKGA), Austrian Academy of Sciences, 14 Mar. 2019.

吉村 慎太郎

- ①「大国政治のなかで: 繰り返される介入と抵抗」(山岸智子編『現代イランの社会と政治: つながる人びとと国家の挑戦』, 16~46頁, 明石書店, 2018年11月).

吉村 武典

- ②“The urban life, public sphere and its concept in the Muslim cities: an analysis of Sabil-Kuttab in historic Cairo”, 5th World Congress for Middle Eastern Studies, Universidad de Sevilla, Spain, 20 July 2018.
- ③「歴史的都市カイロの発展と水施設: 地図情報と叙述史料からの考察」(フィールドネット・ワークショップ「地理情報から読み解く歴史: イスラム史における GIS の活用」, 於: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2019年3月21日).



六反田 豊

- ①「李成桂」(上田信編『悪の歴史 東アジア編(下) 南・東南アジア編』, 348～363頁, 清水書院, 2018年8月).
- ①「太宗(朝鮮)」(上田信編『悪の歴史 東アジア編(下) 南・東南アジア編』, 364～377頁, 清水書院, 2018年8月).
- ①「朝鮮初期の財政制度と鄭道伝」(韓国・朝鮮文化研究会編『韓国朝鮮の文化と社会』, 17, 102～121頁, 風響社, 2018年10月).

渡辺 紘良

- ①「共に学ぶ宋・元・明の日用数学：特に南宋楊輝の「損乘法」「九帰」について」(『東洋学報』, 第100巻第2号, 70～71頁, (公財) 東洋文庫, 2018年9月, [2018年度前期東洋学講座講演要旨]).
- ③「共に学ぶ宋・元・明の日用数学：特に南宋楊輝の「損乘法」「九帰」について」((公財) 東洋文庫2018年度前期東洋学講座, 於：(公財) 東洋文庫, 2018年7月4日).